

公益社団法人日本地球惑星科学連合 平成 25 年度 第 2 回理事会

開催日時 平成 25 年 6 月 22 日（日）
午後 14 時 00 分から午後 18 時 00 分

開催場所 東京大学理学部 1 号館 8 階 843 号室
（東京都文京区本郷 7-3-1）

平成 25 年度第 2 回理事会次第

1. 開 会

2. 報 告 事 項

1. 2013 年大会報告
 - ・参加者数統計、会計報告
 - ・アンケート結果集計（会場での撮影禁止について）
2. 委員会報告
 - 総務委員会
 - 男女共同参画委員会報告
3. その他
 - ・学協会長会議議長

3. 審 議 事 項

- | | |
|----------|--|
| 第 1 号議案 | 会員（正会員）入会承認の件 |
| 第 2 号議案 | 2014 年連合大会開催概要及び方針の確認の件 <ul style="list-style-type: none">・スケジュール・会場の確認・プログラム委員会（副委員長の選任）・高校生ポスターセッション 2013 の結果の通知と次年度の予定案内
旅費支援の検討 |
| 第 3 号議案 | 連合ジャーナル関連の件 <ul style="list-style-type: none">・委員会立ち上げ経営企画委員会、編集事務局・科研費の経理体制・論文受付 |
| 第 4 号議案 | 連合大会の投稿システムの更新について |
| 第 5 号議案 | 選挙管理委員会の設置の件 |
| 第 6 号議案 | 「2013 年女子中高生夏の学校」共催の件 |
| 第 7 号議案 | AOGS2014 年札幌大会対応（プログラム関連）の件 <ul style="list-style-type: none">・program committee・JpGU での国際セッションとの調整・宣伝方法 |
| 第 8 号議案 | 日本学術会議「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ」改定の件 |
| 第 9 号議案 | 日本学術会議「東日本大震災に係る学術調査」（平成 25 年 3 月 28 日）提言に対する対応の件 |
| 第 10 号議案 | 大型プロジェクトに対する提言の件 <ul style="list-style-type: none">・日本版 NIH／ILC／宇宙戦略：地球観測衛星 |
| 第 11 号議案 | 連合での表彰制度の統一指針、フェローについて |
| 第 12 号議案 | ユニオンサイエンスボードについて |
| 第 13 号議案 | 今後の国際戦略の件 |
| その他 | ・23 期学術会議の会員・連携会員の推薦
国際対応分科会：ICSU 加入団体、国際プロジェクト
セッションとの対応 |

4. 閉 会

(資 料)

・平成 25 年度 第 1 回理事会議事録

報告事項

1.	2013 年大会報告 2013 連合大会総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2013 年大会入場者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2013 年大会 収支計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・ セッション別発表数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 高校生セッション参加人数 学校別・都道府県別・・・・・・・・ アンケート結果集計・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1-2 P. 3 P. 4 P. 5-10 P. 11 別冊
2.	委員会報告 連合への寄付金の受け入れに向けて・・・・・・・・・・ JpGU 男女共同参画委員会報告・・・・・・・・・・	P. 12 P. 13-15

審議事項

1.	会員（正会員）入会承認の件 平成 25 年 3 月～平成 25 年 5 月度 入会会員・・・・・・・・ 平成 24 年度会員推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成 25 年度会員推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 16-24 P. 25 P. 26
2.	2014 年連合大会開催概要及び方針の確認の件 2014 連合大会概要 2014 連合大会日程案（プログラム・システム関連）・・・・ パシフィコ横浜 会議棟 会場表・・・・・・・・・・ 会場配置案（ポスター会場、団体展示）・・・・ コンビーナガイドライン・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 連合大会投稿規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 27 P. 28-29 P. 30-31 P. 32-35 P. 36-46 P. 47
3.	連合ジャーナル関連 ジャーナル編集委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 科学研究費助成事業交付申請書・・・・・・・・・・ ジャーナル関連委員会等に関する資料・・・・・・・・	P. 48 P. 49-50 P. 51-60
5.	選挙管理委員会の設置の件 選挙管理委員会に関する資料・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 61
6.	「2013 年女子中高生夏の学校」共催の件・・・・・・・・	別紙
7.	AOGS2014 年札幌大会対応（プログラム関連）等の件 Program Committee members for AOGS 2014・・・・ 2013 年大会国際セッション一覧・・・・・・・・・・	P. 62-64 P. 65
8.	日本学術会議「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ」改定の件 「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ」・・・・	P. 66-68
9.	日本学術会議「東日本大震災に係る学術調査」（平成 25 年 3 月 28 日）提言に対する対応の件 提言「東日本大震災に係る学術調査―課題と今後について―」・・・・	P. 69-73
10.	大型プロジェクトに対する提言の件 生科連 NIH に対する緊急声明・・・・・・・・・・・・・・・・ 「日本版 NIH」の骨子（内閣官房産業競争力会議資料）・・・・ ILC に関する資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 74-76 P. 77-80 P. 81-82
11.	連合での表彰制度の統一指針、フェローについて JpGU フェロー制度（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 83
12.	ユニオンサイエンスボードについて ユニオンサイエンスボードについて・・・・・・・・・・	P. 84

その他の資料

	平成 25 年度第 1 回理事会議事録・・・・・・・・・・ 規則集・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 85-88 別冊
--	--	----------------

2013 年連合大会 総括

- ・会期：2013 年 5 月 19 日(日)～24 日(金) 6 日間
- ・会場：千葉幕張メッセ国際会議場
- ・主催：日本地球惑星科学連合
- ・後援：44 団体
- ・協賛：日本サンゴ礁学会、日本大気電気学会、日本高圧力学会、日本天文学会

■開催セッション数

(*)内数字は国際セッション

セッション名	2013 年	2012 年	2011 年	2010 年
U: ユニオンセッション	7 (*2)	7 (*2)	9 (*5)	4 (*1)
O: パブリック (一般公開プログラム)	5	4	4 (*0)	4 (*0)
P: 宇宙惑星科学	23 (*10)	26 (*13)	22 (*8)	27 (*5)
A: 大気水圏科学	26 (*6)			
(海洋・環境科学)		22 (*5)	20 (*4)	22 (*5)
H: 地球人間圏科学	22 (*8)	20 (*8)	22 (*6)	17 (*4)
S: 固体地球科学	58 (*11)	60 (*6)	61 (*11)	58 (*11)
B: 地球生命科学	10 (*2)	10 (*2)	10 (*3)	9 (*2)
G: 教育・アウトリーチ	4			
(地球惑星科学総合)		5	5 (*0)	4 (*0)
M: 領域外・複数領域	25 (*3)			
(学際・広領域)		23 (*6)	21 (*4)	23 (*4)
合計	180 (*42)	174 (*42)	174 (*41)	167 (*32)

■投稿件数：3980 件

	2013 年	2012 年	2011 年	2010 年
口頭発表	2226	1975	2354	2090
ポスター	1756	1901	1685	1596
合計	3980	3876	4044	3686

■参加者数：6869 名

参加者数	2013 年	2012 年	2011 年	2010 年	2009 年
	6869	7318	5809	5746	4807

・事前参加登録者数：3411 名

日程別	全日程	1 日券				
	2820	591				
属性別	一般	小中高教員	シニア	大学院生	学部生	高校生
	2358	32	44	911	66	0

・当日参加登録者数：1449 名

日程別	全日程	1 日券					
	774	675					
属性別	一般	小中高教員	シニア	大学院生	学部生	高校生	同伴
	1029	10	16	339	21	2	32

・総合案内来場者数：2009 名

属性別	一般	小中高教員	シニア	大学院生	学部生	高校生以下
	370	44	77	5	658	221
	プレス	会合参加者	出展関係者			
	112	115	407			

■出展関係 （ブース数）

	2013 年	2012 年	2011 年	2010 年
団体展示	63	43	44	48
大学インフォメーションパネル	11	13	11	10
書籍出版（関連商品）	25	29	26	26
パンフレットデスク	10	8	11	9
学協会エリア 個別デスク	9	10	10	12
合計	118	103	102	105

■その他

会期中開催会合数	100 (学協会総会等関連：30、連合関連：28、一般：42)
----------	------------------------------------

アルバイト	のべ 258 名
地元ボランティア	のべ 24 名

2013年大会入場者数

事前当日	会員登録別	登録区分	身分	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	合計	2012	2011
事前	会員	一日	一般	4	88	52	57	63	61	35	360	265	295
事前	会員	一日	小中高教	4	5	1	1	0	2	1	14	14	17
事前	会員	一日	大学院生	3	17	36	25	19	16	14	130	118	120
事前	会員	一日	シニア	0	0	0	1	0	1	0	2		
事前	会員	一日	学部生	0	3	1	0	1	2	0	7	1	
事前	会員	一日	高校生以	0	0	0	0	0	0	0	0		
事前	会員	全日	一般	31	871	409	269	165	75	19	1839	1467	1581
事前	会員	全日	小中高教	2	11	1	1	0	3	0	18	15	19
事前	会員	全日	大学院生	6	324	195	101	69	39	14	748	621	601
事前	会員	全日	シニア	1	16	13	3	3	1	1	38	17	
事前	会員	全日	学部生	0	25	13	5	4	4	2	53	22	
事前	会員	全日	高校生以	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
事前	非会員	一日	一般	0	14	9	7	9	12	16	67	53	56
事前	非会員	一日	小中高教	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
事前	非会員	一日	大学院生	0	3	3	3	0	2	0	11	11	24
事前	非会員	一日	シニア	0	0	0	0	0	0	0	0		
事前	非会員	一日	学部生	0	0	0	0	0	0	0	0		
事前	非会員	一日	高校生以	0	0	0	0	0	0	0	0		
事前	非会員	全日	一般	0	34	21	20	8	8	1	92	67	72
事前	非会員	全日	小中高教	0	0	0	0	0	0	0	0		
事前	非会員	全日	大学院生	0	10	3	4	3	2	0	22	13	17
事前	非会員	全日	シニア	0	1	3	0	0	0	0	4		
事前	非会員	全日	学部生	0	4	2	0	0	0	0	6		
事前	非会員	全日	高校生以	0	0	0	0	0	0	0	0	10	
事前登録カウンタ来場				51	1426	762	497	344	228	103	3411	2696	2803
当日	会員	一日	一般	1	73	49	86	100	53	54	416	517	443
当日	会員	一日	小中高教	0	2	2	0	0	0	1	5	8	15
当日	会員	一日	大学院生	0	25	22	28	35	31	8	149	197	192
当日	会員	一日	シニア	0	0	1	0	1	1	0	3	6	
当日	会員	一日	学部生	0	2	0	1	2	1	0	6	14	
当日	会員	一日	高校生以	0	0	0	0	0	1	0	1		
当日	会員	全日	一般	4	183	127	93	59	32	1	499	721	592
当日	会員	全日	小中高教	0	4	0	0	1	0	0	5	4	5
当日	会員	全日	大学院生	4	60	69	26	19	6	0	184	218	200
当日	会員	全日	シニア	0	2	7	2	2	0	0	13	17	
当日	会員	全日	学部生	0	6	2	5	1	1	0	15	19	
当日	会員	全日	高校生以	0	0	1	0	0	0	0	1		
当日	非会員	一日	一般	0	3	10	10	25	6	14	68	152	95
当日	非会員	一日	小中高教	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
当日	非会員	一日	大学院生	0	0	1	0	1	1	1	4	22	10
当日	非会員	一日	シニア	0	0	0	0	0	0	0	0		
当日	非会員	一日	学部生	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
当日	非会員	一日	高校生以	0	0	0	0	0	0	0	0		
当日	非会員	全日	一般	0	19	9	8	7	3	0	46	89	77
当日	非会員	全日	小中高教	0	0	0	0	0	0	0	0		
当日	非会員	全日	大学院生	0	0	0	1	0	1	0	2	17	9
当日	非会員	全日	シニア	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
当日	非会員	全日	学部生	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
当日	非会員	全日	高校生以	0	0	0	0	0	0	0	0		
当日	非会員	一日	同伴	0	5	0	5	6	1	6	23		
当日	非会員	全日	同伴	0	5	4	0	0	0	0	9		
当日登録カウンタ来場				9	389	304	265	259	138	85	1449	2006	1640
登録カウンタ無料											139	101	
登録カウンタ来場				60	1815	1066	762	603	366	188	4860	4702	4443
当日	非会員	総合案内	一般		144	223	3			0	370	246	311
当日	非会員	総合案内	小中高教		44						44	54	
当日	非会員	総合案内	大学院生		5					0	5	1	
当日	非会員	総合案内	シニア		23	12	14	14	5	9	77	53	89
当日	非会員	総合案内	学部生		94	107	163	101	128	65	658	409	527
当日	非会員	総合案内	高校生以		218		3			0	221	206	225
当日	非会員	総合案内	プレス		23	35	19	11	11	13	112	127	130
当日	非会員	総合案内	会合		17	15	15	33	25	10	115	89	84
当日	非会員	総合案内	出展関係	41	135	56	39	53	38	45	407	582	
総合案内来場				41	703	448	256	212	207	142	2009	2616	1366
来場者合計				101	2518	1514	1018	815	573	330	6869	7318	5809

※17時以降の受付は翌日の受付人数に加えて計算しています。

2013年大会予算対比収支計算書

平成25年6月20日作成

(単位:円)

科 目	予算額 (A)	5/31決算額	5/31決算額+見込額 加算後合計 (B)	予算対比差額 (A)- (B)
収 入 の 部				
大 会 参 加 料 収 入	43,790,500	25,228,000	43,581,000	209,500
投 団 体 展 示 ョ ン パ ネ ル 収 入	9,170,000	9,193,500	9,336,000	-166,000
学 生 フ ォ メ ー シ ョ ン パ ネ ル 収 入	15,600,000	11,350,000	18,250,000	-2,650,000
大 学 書 籍 フ レ ッ シ ョ ン パ ネ ル 収 入	700,000	280,000	770,000	-70,000
バ ン ン フ レ ッ シ ョ ン パ ネ ル 収 入	1,050,000	1,180,000	1,180,000	-130,000
バ ン ン フ レ ッ シ ョ ン パ ネ ル 収 入	190,000	620,000	650,000	-460,000
会 議 室 使 用 料 収 入	2,045,000	1,633,250	2,095,000	-50,000
学 協 会 出 展 料 他	296,500	239,700	239,700	56,800
そ の 他	240,000	270,000	270,000	-30,000
	343,300	321,000	321,000	22,300
収入の部 合計	73,425,300	50,315,450	76,692,700	-3,267,400
支 出 の 部				
臨 時 雇 賃 金	2,460,000	2,958,500	3,168,500	-708,500
ホ ー ム ペ ア ル 作 成 費	260,000	190,000	270,000	-10,000
会 旅 通 信 費	2,200,000	2,768,500	2,898,500	-698,500
刷 刷 製 本 費	400,000	372,070	372,071	27,929
プ ロ グ ラ ム 編 集 費	1,000,000	1,040,160	1,024,990	-24,990
ブ ロ グ ラ ム 刷 製 費	156,000	147,280	147,280	8,720
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	690,000	393,746	699,746	-9,746
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	3,331,000	3,179,189	3,306,771	24,229
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	520,000	654,293	654,293	-134,293
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	2,120,000	2,142,000	2,142,000	-22,000
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	150,000	125,856	125,856	24,144
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	541,000	257,040	257,040	283,960
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	18,520,000	17,960,428	17,960,428	559,572
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	15,650,000	15,102,444	15,102,444	547,556
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	2,870,000	2,738,584	2,738,584	131,416
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	70,000	119,400	119,400	-49,400
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	4,000,000	4,697,056	4,697,056	-697,056
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	9,000	21,200	16,200	-7,200
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	2,729,000	2,576,700	2,636,700	92,300
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	90,000	20,605	40,000	50,000
質 会 設 備 機 材 借 賃 料 他	3,000	2,100	2,100	900
支出の部 合計	33,388,000	33,369,034	34,071,842	-683,842
6月20日現在 収支差額	40,037,300	16,946,416	42,620,858	2,583,558

1) 収入に関しては、3,267,400円の増加を見込む

2) 支出に関しては、ほぼ予算通りである。

セッション別発表数

セッション名	口頭	ポスター	ポスター概要	発表開催日 (口頭)	発表開催時間 (口頭)	会場	ポスター コア	ポスターコア (時間)
U-01 International Cooperation in Earth Planetary Science Project – Center	12	0	0	5月23日	AM1-PM2	国際会議室		
U-02 Global Data Sciences in the Big Data Era---Global Data Management	25	7	0	5月20日	AM1-PM2	201B	5月20日	18:15 – 19:30
U-03 生命-水-鉱物-大気相互作用	17	7	3	5月20日	AM1-PM2	302	5月20日	18:15 – 19:30
U-04 オープンアクセス電子ジャーナルと学術出版の将来	6	0	0	5月22日	PM2	国際会議室		
U-05 地球惑星科学の進むべき道(5):大型研究のありかた	19	7	0	5月22日	AM1-AM2	国際会議室	5月22日	18:15 – 19:30
U-06 地球科学者の社会的責任	18	0	0	5月24日	AM1-PM2	国際会議室		
U-07 太陽系小天体研究の新展開	22	15	13	5月19日	AM1-PM2	105	5月19日	18:15 – 19:30
O-01 防災教育－災害を乗り越えるために私達が子ども達に教えること2	5	0	0	5月19日	PM1-PM2	303		
O-02 高校生によるポスター発表	0	67	67	5月19日	AM2	国際会議室	5月19日	13:45 – 15:15
O-03 地球・惑星科学トップセミナー	3	0	0	5月19日	AM1	国際会議室		
O-04 イクメンプロジェクトと科学者のワーク・ライフ・バランス	6	0	0	5月19日	PM1-PM2	101A		
O-05 日本のジオパーク－新規ジオパーク公開審査とジオパークの紹介－	13	36	0	5月20日	AM1-PM2	国際会議室	5月20日	17:00 – 18:40
P-PS01 Toward future explorations of outer solar system	13	5	4	5月21日	PM1-PM2	201B	5月21日	18:15 – 19:30
P-PS02 Planetary processes from meteorites and experimental works	14	5	4	5月20日	AM1-PM1	203	5月20日	18:15 – 19:30
P-PS03 Rotational motion and inner dynamics of the Earth, Mars and Moon	12	6	5	5月20日	PM1-PM2	202	5月20日	18:15 – 19:30
P-PS04 Mars	11	6	4	5月21日	PM1-PM2	105	5月21日	18:15 – 19:30
P-PS21 惑星科学	30	28	22	5月20日	AM1-21日	304	5月20日	18:15 – 19:30
P-PS22 来たる10年の月惑星探査に向けた構想と戦略	12	8	7	5月22日	PM1-PM2	103	5月22日	18:15 – 19:30
P-PS23 月の科学と探査	24	17	17	5月23日	AM1-PM2	201A	5月23日	18:15 – 19:30
P-PS24 隕石解剖学: 太陽系物質の総合的理解に向けて	18	18	14	5月23日	AM2-PM2	106	5月23日	18:15 – 19:30
P-PS25 宇宙における物質の形成と進化	13	3	3	5月22日	PM1-PM2	102B	5月22日	18:15 – 19:30
P-PS33 ロシアの隕石落下: 地球への小天体衝突リスク	8	8	0	5月20日	PM2	国際会議室	5月20日	18:15 – 19:30
P-EM05 Space Weather	38	18	12	5月20日	PM1-21日	303	5月21日	18:15 – 19:30
P-EM06 Mesosphere-Thermosphere-Ionosphere Coupling	32	9	4	5月21日	AM2-22日	304	5月21日	18:15 – 19:30
P-EM07 Earth's Dynamical Inner Magnetosphere	25	7	4	5月22日	AM1-PM2	105	5月22日	18:15 – 19:30
P-EM08 Space-borne imaging observation of the upper atmosphere	11	3	1	5月20日	PM1-PM2	101B	5月20日	18:15 – 19:30
P-EM09 Lightning, TLEs and their Atmospheric Effects	13	3	3	5月23日	AM1-AM2	101B	5月23日	18:15 – 19:30
P-EM26 太陽圏・惑星間空間	11	4	3	5月23日	AM1-AM2	202	5月23日	18:15 – 19:30
P-EM27 宇宙プラズマ理論・シミュレーション	17	14	9	5月24日	AM1-PM1	301A	5月24日	16:15 – 17:30
P-EM28 磁気圏-電離圏結合	16	17	10	5月23日	AM1-PM1	302	5月23日	18:15 – 19:30
P-EM29 大気圏・電離圏	17	32	17	5月22日	PM1-23日	304	5月22日	18:15 – 19:30
P-EM30 磁気圏構造とダイナミクス	12	10	5	5月20日	AM1-AM2	105	5月20日	18:15 – 19:30
P-CG10 Instrumentation for space science	11	14	7	5月24日	AM1-AM2	102A	5月24日	16:15 – 17:30
P-CG31 惑星大気圏・電磁圏	26	15	9	5月23日	AM1-PM2	301A	5月23日	18:15 – 19:30
P-CG32 太陽系年代学の新展開	13	2	2	5月20日	AM1-AM2	101B	5月20日	18:15 – 19:30

A-AS01	Toward Understanding of interactions between Tropical Cyclones and	11	4	3	5月23日	AM1・AM2	101A	5月23日	18:15 - 19:30
A-AS21	大気化学	23	32	23	5月19日	AM1・PM2	106	5月19日	18:15 - 19:30
A-AS22	成層圏過程とその気候への影響	13	8	5	5月20日	AM1・AM2	301B	5月20日	18:15 - 19:30
A-AS23	都市における極端気象	11	11	8	5月23日	PM1・PM2	101A	5月23日	18:15 - 19:30
A-AS24	最新の気象科学: 福島原発事故放射能の大気・陸圏輸送、沈着問題	12	4	4	5月20日	PM1・PM2	105	5月20日	18:15 - 19:30
A-OS25	海洋生態モデリング研究の最前線	13	1	1	5月19日	PM1・PM2	203	5月19日	18:15 - 19:30
A-HW02	Hydroclimate in Asian monsoon region	17	14	7	5月21日	AM1・PM1	102B	5月21日	18:15 - 19:30
A-HW26	同位体水文学2013	13	4	2	5月23日	PM2・PM2	203	5月23日	18:15 - 19:30
A-HW27	都市域の地下水・環境地質	6	3	2	5月22日	AM1	102A	5月22日	18:15 - 19:30
A-HW28	水・物質循環における陸上生態系の役割	12	6	4	5月22日	PM1・PM2	101A	5月22日	18:15 - 19:30
A-HW29	水循環・水環境	12	12	7	5月23日	AM1・AM2	102A	5月23日	18:15 - 19:30
A-HW30	流域の水文地質と物質循環	11	18	13	5月22日	PM1・PM2	202	5月22日	18:15 - 19:30
A-HW31	水関連大学院教育とキャリアパスの課題と展望	9	0	0	5月21日	AM1・AM2	203		
A-CC03	Changes in Northern Eurasia and the Arctic: Their feedbacks to the G	9	13	10	5月22日	AM1・AM2	101B	5月22日	18:15 - 19:30
A-CC32	雪水学	19	8	5	5月24日	AM1・PM1	101B	5月24日	16:15 - 17:30
A-CC33	氷床・氷河コアと古環境変動	13	6	4	5月23日	AM1・AM2	105	5月23日	18:15 - 19:30
A-PE34	古気候・古海洋変動	37	28	20	5月20日	PM1・21日PM2	103	5月21日	18:15 - 19:30
A-GE04	Subsurface Mass Transport and Environmental Assessment	10	20	10	5月20日	PM1・PM2	102B	5月20日	18:15 - 19:30
A-CG05	Multi-scale ocean-atmosphere interaction in the tropics	18	10	7	5月24日	AM1・PM1	201B	5月24日	16:15 - 17:30
A-CG06	Continental-Oceanic Mutual Interaction: Global-scale Material Circula	12	0	0	2月19日	AM2・PM1	304		
A-CG35	中部山岳地域の自然環境変動	19	13	8	5月22日	AM1・PM1	301A	5月22日	18:15 - 19:30
A-CG36	陸域・海洋相互作用-物質循環と生態系との関係-	6	3	3	5月22日	AM2	102A	5月22日	18:15 - 19:30
A-CG37	統合的な陸域生態系-大気プロセス研究	12	7	6	5月21日	PM1・PM2	201A	5月21日	18:15 - 19:30
A-CG38	北極域の科学	16	14	10	5月21日	AM1・PM1	101A	5月21日	18:15 - 19:30
A-CG39	衛星による地球環境観測	18	24	16	5月19日	PM2-20日 AM2	301A	5月20日	18:15 - 19:30
A-CG40	地球環境関連データセット展覧会	12	4	4	5月19日	PM1・PM2	102B	5月19日	18:15 - 19:30
H-GG01	Global land Project	5	0	0	5月23日	PM2	102A		
H-GG02	International comparison of landscape appreciation	10	5	4	5月19日	PM1・PM2	202	5月19日	18:15 - 19:30
H-GG21	自然資源・環境の利用と管理	11	3	2	5月22日	PM1・PM2	203	5月22日	18:15 - 19:30
H-GM03	Geomorphology	6	4	4	5月21日	AM2	101B	5月21日	18:15 - 19:30
H-GM22	地形	9	7	4	5月21日	PM1・PM2	101B	5月21日	18:15 - 19:30
H-QR23	平野地域の第四紀層序と地質構造	11	7	3	5月24日	AM1・AM2	202	5月24日	16:15 - 17:30
H-QR24	ヒト-環境系の時系列ダイナミクス	18	18	13	5月23日	AM1・PM1	201B	5月23日	18:15 - 19:30

H-SC04	International Human Dimensions Programme	6	2	2	5月23日	PM1	102A	5月23日	18:15 - 19:30
H-SC25	人間環境と災害リスク	11	6	6	5月20日	PM1・PM2	301A	5月20日	18:15 - 19:30
H-DS05	Coastal Restoration in Post Tsunami Events; Environmental Effects at	4	0	0	5月23日	AM2	203		
H-DS06	Landslides and related phenomena	18	13	10	5月23日	AM1-PM1	102B	5月23日	18:15 - 19:30
H-DS07	Global earthquake and volcanic eruption risks in Asia-Pacific region (C	7	1	0	5月23日	PM2	101B	5月23日	18:15 - 19:30
H-DS26	津波とその即時予測	19	10	8	5月20日	PM2-21日 AM2	301B	5月20日	18:15 - 19:30
H-DS27	湿润変動帯の地質災害とその前兆現象	14	15	11	5月24日	AM1-PM1	102B	5月24日	16:15 - 17:30
H-DS28	海底地すべり	6	4	3	5月23日	PM2	104	5月23日	18:15 - 19:30
H-RE29	地球温暖化防止と地学(CO2地中・海洋貯留・利用、地球工学)	13	12	5	5月22日	AM1・AM2	103	5月22日	18:15 - 19:30
H-TT09	GIS	13	4	3	5月20日	PM1・PM2	102A	5月20日	18:15 - 19:30
H-TT30	地理情報システム	6	7	5	5月21日	AM1	102A	5月21日	18:15 - 19:30
H-TT31	環境リモートセンシング	5	7	7	5月19日	PM1	301B	5月19日	18:15 - 19:30
H-TT32	同位体環境学の創出	13	23	5	5月23日	PM1・PM2	301B	5月23日	18:15 - 19:30
H-CG33	堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動	6	5	4	5月20日	AM2	101A	5月20日	18:15 - 19:30
H-CG34	惑星と閉鎖生態系における生物のシステムの微生物からヒトまで	6	4	4	5月19日	PM2	101B	5月19日	18:15 - 19:30
S-GD21	測地学一般	13	5	2	5月23日	AM1・AM2	301B	5月23日	18:15 - 19:30
S-GD22	重力・ジオイド	9	10	5	5月22日	PM1・PM2	301B	5月22日	18:15 - 19:30
S-SS01	Slip to the Trench in Megathrust Earthquakes	20	8	5	5月19日	AM2-PM2	302	5月19日	18:15 - 19:30
S-SS02	Earthquake predictability research after the 2011 Tohoku earthquake	13	3	0	5月21日	AM1・AM2	201B	5月21日	18:15 - 19:30
S-SS23	リアルタイム地震情報システムの発展と利活用	6	8	5	5月24日	PM1	201A	5月24日	16:15 - 17:30
S-SS24	地震波伝播：理論と応用	12	12	10	5月20日	AM1・AM2	303	5月20日	18:15 - 19:30
S-SS25	内陸地震に対する包括的アプローチ	13	4	3	5月21日	AM1・AM2	302	5月21日	18:15 - 19:30
S-SS26	地殻構造	12	18	10	5月19日	AM1・AM2	303	5月19日	18:15 - 19:30
S-SS27	地震活動	12	15	8	5月22日	AM1・AM2	201B	5月22日	18:15 - 19:30
S-SS28	地震発生の物理・震源過程	18	20	14	5月22日	PM2-23日 AM2	303	5月23日	18:15 - 19:30
S-SS29	断層帯のレオロジーと地震の発生過程	19	12	10	5月24日	AM1-PM1	304	5月24日	16:15 - 17:30
S-SS30	地震予知	6	5	4	5月20日	PM2	106	5月20日	18:15 - 19:30
S-SS31	海溝型巨大地震の新しい描像	36	44	29	5月21日	PM1-22日 PM2	302	5月20日	18:15 - 19:30
S-SS32	活断層と古地震	17	33	14	5月22日	AM1-PM1	303	5月22日	18:15 - 19:30
S-SS33	強震動・地震災害	24	31	18	5月19日	AM1-PM2	103	5月19日	18:15 - 19:30
S-SS34	地殻変動	5	15	8	5月23日	PM2	201B	5月23日	18:15 - 19:30
S-SS35	南海トラフなどの巨大地震の強震動・津波予測	19	6	6	5月23日	AM2-PM2	103	5月23日	18:15 - 19:30
S-EM36	地磁気・古地磁気・岩石磁気	12	10	10	5月19日	AM1・AM2	201B	5月19日	18:15 - 19:30
S-EM37	電気伝導度・地殻活動電磁気学	10	8	4	5月22日	PM1・PM2	201B	5月22日	18:15 - 19:30
S-IT03	Earth and Planetary Cores Seen from Multi-disciplinary Approaches	18	3	2	5月21日	AM1-PM1	202	5月21日	18:15 - 19:30

S-IT04	Mineral physics and dynamics of deep planetary interiors Origin, evolution, and destruction of oceanic plate Geofluids and their roles in dynamics of the Earth's interior 地球構成物質のレオロジーと物質移動 地球深部ダイナミクス:プレート・マントル・核の相互作用	13	9	5	5月19日	PM1・PM2	201B	5月19日	18:15 - 19:30
S-IT05		21	16	12	5月21日	AM1-PM1	104	5月21日	18:15 - 19:30
S-IT06		19	13	10	5月22日	AM1-PM1	104	5月22日	18:15 - 19:30
S-IT38		19	10	10	5月23日	AM2-PM2	304	5月23日	18:15 - 19:30
S-IT39		19	10	8	5月24日	AM1-PM1	105	5月24日	16:15 - 17:30
S-GL40	地球年代学・同位体地球科学	12	16	10	5月19日	PM1・PM2	201A	5月19日	18:15 - 19:30
S-GL41	地域地質と構造発達史	3	15	4	5月23日	PM1	101B	5月23日	18:15 - 19:30
S-RD42	資源地質学の新展開: 鉱液の実態解明に向けて	6	0	0	5月21日	PM2	102B		
S-MP43	変形岩・変成岩とテクトニクス	18	20	13	5月24日	AM1-PM1	303	5月24日	16:15 - 17:30
S-MP44	鉱物の物理化学	12	13	6	5月20日	AM1・AM2	102A	5月20日	18:15 - 19:30
S-MP45	ナノ鉱物が支配する地球表層環境	5	4	0	5月20日	AM1	106	5月20日	18:15 - 19:30
S-MP46	水素系物質と中性子の地球惑星科学	12	4	3	5月22日	AM1・AM2	106	5月22日	18:15 - 19:30
S-MP47	メルトー延性ー脆性岩体のダイナミクスとエネルギー抽出	6	2	0	5月22日	AM2	203	5月22日	18:15 - 19:30
S-VC48	活動的火山	24	34	20	5月19日	AM2-20日 AM1	104	5月20日	18:15 - 19:30
S-VC49	火山防災の基礎と応用	5	9	7	5月19日	AM1	201A	5月19日	18:15 - 19:30
S-VC50	火山噴火のダイナミクスと素過程	12	13	7	5月20日	AM2・PM1	106	5月20日	18:15 - 19:30
S-VC51	火山とテクトニクス	6	5	2	5月20日	PM2	201A	5月20日	18:15 - 19:30
S-VC52	火山の熱水系	6	6	4	5月21日	PM2	101A	5月21日	18:15 - 19:30
S-VC53	火山・火成活動とその長期予測	9	19	14	5月21日	AM1・AM2	201A	5月21日	18:15 - 19:30
S-GC54	固体地球化学・惑星化学	20	14	5	5月20日	AM1-PM1	201A	5月20日	18:15 - 19:30
S-TT11	Frontier Researches in Exploration Geophysics	12	10	8	5月21日	PM1・PM2	203	5月21日	18:15 - 19:30
S-TT55	空からの地球計測とモニタリング	6	7	4	5月22日	AM1	203	5月22日	18:15 - 19:30
S-TT56	地震観測・処理システム	4	11	5	5月19日	AM2	102B	5月19日	18:15 - 19:30
S-TT57	合成開口レーダー	13	4	3	5月22日	AM1・AM2	301B	5月22日	18:15 - 19:30
S-TT59	ハイパフォーマンスコンピューティングが拓く固体地球科学の未来	13	6	3	5月20日	PM1・PM2	104	5月20日	18:15 - 19:30
S-CG07	Collision, Subduction, and Metamorphic processes	12	3	3	5月21日	AM1・AM2	106	5月21日	18:15 - 19:30
S-CG08	Geodynamics of off-arc volcanism and back-arc opening	13	2	2	5月23日	PM1・PM2	105	5月23日	18:15 - 19:30
S-CG09	Deep Carbon Cycle	10	4	3	5月20日	PM1・PM2	101A	5月20日	18:15 - 19:30
S-CG10	Evolution of continental crust and Project IBM	10	5	3	5月22日	PM1・PM2	101B	5月22日	18:15 - 19:30
S-CG60	放射性廃棄物処分と地球科学	6	4	1	5月21日	PM2	国際会議室	5月21日	18:15 - 19:30
S-CG61	岩石・鉱物・資源	10	17	7	5月22日	PM1・PM2	102A	5月22日	18:15 - 19:30
S-CG62	スロー地震	13	9	5	5月20日	AM1・AM2	103	5月20日	18:15 - 19:30
S-CG63	流体と沈み込み帯のダイナミクス	17	12	10	5月22日	PM2-23日 AM2	104	5月22日	18:15 - 19:30
S-CG64	断層帯の化学	5	2	2	5月21日	AM1	101B	5月21日	18:15 - 19:30
S-CG65	応力と地殻ダイナミクス	5	3	1	5月19日	AM2	201A	5月19日	18:15 - 19:30
S-CG66	プレート収束帯における地殻変形運動の統合的理解	12	9	10	5月24日	AM1・AM2	201A	5月24日	18:15 - 19:30
S-CG67	海洋底地球科学	18	17	11	5月22日	PM1-23日 AM1	106	5月22日	18:15 - 19:30

S-CG68	島弧の構造・進化とジオダイナミクス	13	16	5	5月23日	PM1・PM2	303	5月23日	18:15 - 19:30
B-AO01	Astrobiology: Origins, Evolution, Distribution of Life	18	16	12	5月21日	AM1-PM2	301A	5月21日	18:15 - 19:30
B-BG21	海底下の大河：海洋地殻中の移流と生物地球化学作用	6	6	3	5月22日	AM2	102B	5月22日	18:15 - 19:30
B-BG22	サンゴ礁：生命・地球・人の接点	6	4	4	5月23日	PM2	102B	5月23日	18:15 - 19:30
B-PT23	地球史概説：冥王代から現代まで	13	11	5	5月24日	AM2・PM1	301B	5月24日	16:15 - 17:30
B-PT24	地球生命史	6	5	5	5月24日	AM1	301B	5月24日	16:15 - 17:30
B-PT25	化学合成生態系の進化をめぐって	6	4	4	5月22日	AM1	102B	5月22日	18:15 - 19:30
B-PT26	古代ゲノム学	6	5	5	5月19日	PM2	102A	5月19日	18:15 - 19:30
B-PT27	顕生代生物多様性の変遷：絶滅と多様化	7	7	0	5月19日	AM2	101A	5月19日	18:15 - 19:30
B-PT28	人類進化と気候変動	6	1	1	5月21日	PM2	202	5月21日	18:15 - 19:30
B-PO02	Biocalcification and the geochemistry of proxies	12	10	5	5月21日	AM1・AM2	105	5月21日	18:15 - 19:30
G-01	小中学校の地球惑星科学教育	4	1	0	5月19日	AM1・AM2	202	5月19日	18:15 - 19:30
G-02	高等学校の地球惑星科学教育	2	2	0	5月19日	AM1・AM2	202	5月19日	18:15 - 19:30
G-03	学士課程教育の現状と課題	2	1	1	5月19日	AM1・AM2	202	5月19日	18:15 - 19:30
G-04	地球惑星科学のアウトリーチ	12	13	9	5月20日	AM1・AM2	202	5月20日	18:15 - 19:30
M-IS01	Atmospheric Electricity	13	2	2	5月23日	PM1・PM2	202	5月23日	18:15 - 19:30
M-IS21	地球流体力学：地球惑星現象への分野横断的アプローチ	6	6	5	5月22日	PM2	301A	5月22日	18:15 - 19:30
M-IS22	宇宙気候学の進展	12	2	2	5月20日	AM1・AM2	102B	5月20日	18:15 - 19:30
M-IS23	地球掘削科学	17	21	14	5月24日	AM1-PM1	103	5月24日	18:15 - 19:30
M-IS24	生物地球化学	24	26	21	5月23日	PM2-24日 PM1	302	5月23日	18:15 - 19:30
M-IS25	津波堆積物	18	17	13	5月24日	AM1-PM1	106	5月24日	18:15 - 19:30
M-IS26	カスハイドレート：地球環境と資源科学からのアプローチ	13	5	5	5月22日	AM1・AM2	202	5月22日	18:15 - 19:30
M-IS27	光エネルギーを巡る生命システムの進化ダイナミクス	5	8	7	5月19日	PM1	101B	5月19日	18:15 - 19:30
M-IS28	遠洋域の進化	6	5	4	5月19日	PM2	304	5月19日	18:15 - 19:30
M-IS29	日本における巨大地磁気誘導電流	12	11	9	5月22日	AM1・AM2	101A	5月22日	18:15 - 19:30
M-IS30	地震・火山等の地殻活動に伴う地圏・大気圏・電離圏電磁現象	13	10	5	5月21日	PM1・PM2	301B	5月21日	18:15 - 19:30
M-IS31	結晶成長における界面・ナノ現象	5	8	5	5月19日	AM2	101B	5月19日	18:15 - 19:30
M-IS32	ジオパーク	10	16	12	5月21日	PM1・PM2	106	5月21日	18:15 - 19:30
M-IS33	海底マンガン鉱床の生成・環境・起源	6	5	5	5月23日	AM1	203	5月23日	18:15 - 19:30
M-GI34	情報地球惑星科学と大量データ処理	10	3	3	5月19日	AM2・PM1	301A	5月19日	18:15 - 19:30
M-AG35	福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態	19	11	6	5月21日	AM1-PM1	国際会議室	5月21日	18:15 - 19:30
M-SD03	Activity of GEO task "Integrated Global Carbon Observation and Anal	10	5	5	5月22日	AM1・AM2	201A	5月22日	18:15 - 19:30
M-SD04	New atmospheric and geospace science opened by EISCAT_3D	16	7	5	5月24日	AM1-PM1	101A	5月24日	16:15 - 17:30
M-SD36	宇宙食と宇宙農業	4	4	4	5月19日	AM2	203	5月19日	18:15 - 19:30

M-TT37	地球惑星科学における地図・空間表現	0	14	11	5月21日	AM2	102A	5月21日	18:15 - 19:30
M-TT38	地球化学の最前線：先端的手法から探る地球像	13	5	4	5月22日	PM1・PM2	201A	5月22日	18:15 - 19:30
M-TT39	ソーシヤルメディアと地球惑星科学	6	3	2	5月21日	PM1	102A	5月21日	18:15 - 19:30
M-TT40	インフラサウンド及び関連波動が繋ぐ多圏融合地球物理学の新描像	12	5	1	5月24日	AM1・AM2	203	5月24日	16:15 - 17:30
M-ZZ41	地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論	13	6	4	5月19日	AM2・PM1	102A	5月19日	18:15 - 19:30
M-ZZ42	PALEO研究の最前線とその将来の発展性	13	5	5	5月24日	AM2・PM1	104	5月24日	16:15 - 17:30
Total		2226	1754	1140					
Total (口頭 + ポスター)									
				3980					

高校生セッション参加校別参加人数

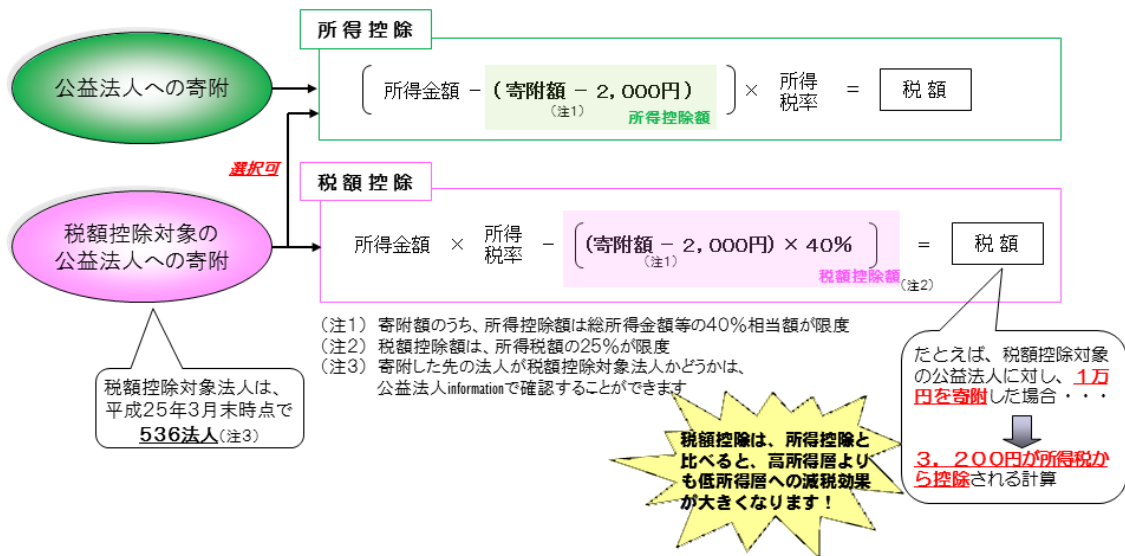
講演番号	学校名	教員	生徒	所在地
O02-P64	北海道室蘭栄高等学校	2	7	北海道 室蘭市東町3丁目29番5号
O02-P47	遺愛女子中学高等学校	1	2	北海道 函館市杉並町23-11
O02-P66	明成高等学校	1	2	宮城県 仙台市青葉区川平2-26-1
O02-P6	宮城県古川黎明中学校・高等学校	1	3	宮城県 大崎市古川諏訪二丁目7番18号
O02-P28	福島県立磐城高等学校	2	17	福島県 いわき市平字高月7
O02-P18	福島県立福島南高等学校	1	4	福島県 福島市渡利字七社宮17
O02-P63	茨城県立土浦第一高等学校	1	12	茨城県 つくば市妻木1580-11
O02-P7	茨城県立並木中等教育学校	1	7	茨城県 つくば市並木4丁目5-1
O02-P40	茨城県立土浦第三高等学校	2	5	茨城県 土浦市大岩田1599番
O02-P38	茨城県立日立第一高等学校	1	9	茨城県 日立市若葉町3-15-1
O02-P14	群馬県立中之条高等学校	1	4	群馬県 吾妻郡中之条町中之条町1303
O02-P27	群馬県立前橋女子高等学校	1	5	群馬県 前橋市紅雲町2-19-1
O02-P37	埼玉県立浦和高等学校		2	埼玉県 さいたま市浦和区領家5-3-3
O02-P1	栄東高等学校	1	3	埼玉県 さいたま市見沼区砂町2-77
O02-P21	埼玉県立熊谷女子高等学校		3	埼玉県 熊谷市末広2-131
O02-P59	埼玉県立川越女子高等学校		4	埼玉県 川越市六軒町1-23
O02-P16	千葉県立長生高等学校	1	12	千葉県 茂原市高師286
O02-P51	海城高等学校	2	13	東京都 新宿区大久保3-6-1
O02-P54	那須高原海城高等学校	1	2	東京都 多摩市豊ヶ丘4-4
O02-P61	巣鴨高等学校	1	5	東京都 豊島区上池袋1-21-1
O02-P57	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校	1	9	神奈川県 横浜市鶴見区小野町6番地
O02-P58	神奈川県立相模原青陵高等学校	2	3	神奈川県 相模原市南区新磯野468
O02-P4	福井県立藤島高等学校	1	4	福井県 福井市文京2-8-30
O02-P32	長野県諏訪清陵高等学校	1	6	長野県 諏訪市清水1-10-1
O02-P48	長野県屋代高等学校	1	11	長野県 千曲市屋代1000
O02-P67	飯山北高等学校	1	2	長野県 飯山市飯山2610
O02-P53	静岡県立伊豆総合高等学校	2	2	静岡県 伊豆市牧之郷892
O02-P8	静岡県立磐田南高等学校	1	12	静岡県 磐田市見付3084
O02-P34	愛知県立一宮高等学校		4	愛知県 一宮市北園通6-9
O02-P11	京都府立洛東高等学校	1	2	京都府 京都市山科区安朱川向町10
O02-P39	京都府立桃山高等学校	1	2	京都府 京都市伏見区桃山毛利長門東町
O02-P42	大阪府立春日丘高等学校 定時制の課程	3	3	大阪府 茨木市春日2-1-2
O02-P22	大阪教育大学附属高等学校	1	3	大阪府 大阪市天王寺区南河堀町4-88
O02-P46	兵庫県立加古川東高等学校	1	8	兵庫県 加古川市加古川町粟津232-2
O02-P19	兵庫県立三田祥雲館高等学校	1	5	兵庫県 三田市学園1-1
O02-P15	島根県立益田高等学校	1	1	島根県 益田市七尾町1-17
O02-P5	島根県立吉賀高等学校	1	2	島根県 鹿足郡吉賀町七日市937
O02-P25	山陽女子高等学校	1		岡山県 岡山市中区門田屋敷2-2-16
O02-P62	土佐塾中学・高等学校	1	3	高知県 高知市北中山85
O02-P52	宮崎県立宮崎北高等学校	1	4	宮崎県 宮崎市大字新名爪4567番地
合計40校		44	207	

都道府県別参加者数

都道府県	教員	生徒
北海道	3	9
宮城県	2	5
福島県	3	21
茨城県	5	33
群馬県	2	9
埼玉県	1	12
千葉県	1	12
東京都	4	20
神奈川県	3	12
福井県	1	4
長野県	3	19
静岡県	3	14
愛知県		4
京都府	2	4
大阪府	4	6
兵庫県	2	13
島根県	2	3
岡山県	1	
高知県	1	3
宮崎県	1	4

1. 公益法人の寄付と控除

「公益法人」への寄付は「所得控除」が受けられるが、「税額控除対象公益法人」に認定された法人では、税額控除が有利な「税額控除」を選択可能になる。なお、日本地震学会は、内閣府から本年4月に税額控除対象公益法人の認定を受けている。



2. 税額控除対象法人の認定要件（1または2のいずれかを満たすこと）

要件1. 3000円以上の寄付金を支出した者が、平均して年に100人以上いること。

＊過去2年間の実績(H25年以降の申請では5年間)が必用。

要件2. 通常収入金額に占める寄付金等収入の割合が、1/5以上であること。

＊会費収入の一部を算入することができる（地震学会はこれで対応。JpGUは会費収入が小さい（7%）ため×）。

3. JpGUでの寄付について

- ・公益法人の所得控除制度を掲げて寄付を集める（税額控除はできない）。
- ・将来的に、税額控除対象法人の認定に向け、上記要件1の達成を目指す。
- ・これから、寄付金受け入れ規定の制定、寄付金処理（寄付金受領証明書、寄付者名簿など）に関わる事務手続きを検討。

1. イクメンシンポ

- ・2013 年 5 月 19 日 14:15～18:00 2013 年連合大会パブリックセッション「イクメンプロジェクトと科学者のワーク・ライフ・バランス」として開催。
 - ・共催:(NPO 法人ファザーリングジャパン、後援:厚生労働省、男女共同参画学協会連絡会)
 - ・延べ 50 名参加(男性数>女性数)
 - ・Ustream 参加者は 7 名 (うち 1 名はスウェーデンから参加)(個人情報の観点からアーカイブ化せず)
 - ・厚労省のイクメンプロジェクトのページに掲載 <http://ikumen-project.jp/active/active_project.html>
- ※チラシ作成、メールニュース配信等々のご協力に感謝申し上げます。

2. 2013 年度活動方針 (5/21 開催の委員会にて承認)

- ・2014 年度連合大会時より保育室幹事を委員会に移行して実施
 - ・「2013 年度女子中高生夏の学校」に JpGU としてポスター参加 → 資料 1
(加盟学協会からは、地球電磁気・地球惑星圏学会(2013 年度事務局を担当)と日本地形学連合(初参加))
- ※ポスターで、2012 年度猿橋賞受賞の阿部彩子先生(東大)についても紹介したい(これから打診)
- ※共催をお願いしたい → 資料 2
- ※実演の講演者(Dr. ナダレンジャーさん:防災科学技術研究所の納口恭明先生)とアルバイト者(女子学生・院生)への予算が当初予算以外に発生予定。委員会予算で不足が生じた場合には別途計上をお願いしたい。
- ※将来的には、委員会の定常業務に組み込むことも検討中。

3. JpGU キャリアアンケート

- ・キャリア支援委員会と合同実施のため、そちらより報告予定。

4. 男女共同参画学協会連絡会関連

- ・第 3 回大規模アンケート(2012 年 11 月実施)を解析し、報告書を作成中。6/26 開催予定の運営委員会にて諮り、最終版の承認を 8 月に行う予定。
- ・シンポジウムは 10/7 の予定。

資料1

ポスター展示・キャリア相談の申し込み (6月20日差し替え版)

学協会名: 日本地球惑星科学連合
団体名(企業・大学等の場合):
推薦者: 清野直子(気象研究所)・坂野井和代(駒澤大学)・小口千明(埼玉大学)
ポスター展示のテーマ(仮題の場合は最終締め切り日までにお送りください。): (仮題) 地球惑星科学へようこそ～Dr.ナダレンジャーの自然災害のサイエンスショー展示～
ポスター展示の概要(200字以内、当日配布資料に掲載します。提出は最終締め切り日までで結構です。): 日本地球惑星科学連合は、地球惑星科学全般の研究・教育をリードする研究者・技術者・教育関係者・科学コミュニケーター、それを学んでいる学生や一般市民からなる個人会員と、地球惑星科学関連 48 学協会を団体会員とする学術団体です。本年は、人命に直結する様々な自然災害への取り組みを紹介します。知る人ぞ知る『Dr. ナダレンジャーの自然災害サイエンスショー』は、防災上大切でかつ見ておもしろい展示企画です。
出展担当者(ポスター出展に対して連絡等に責任をお持ちいただける方、追って依頼等に関するご連絡をいたします。) 氏名: 小口千明(埼玉大学/日本地球惑星科学連合 男女共同参画委員会)、および 納口恭明(独立行政法人 防災科学技術研究所 防災教育担当専門員) 所属: メールアドレス: ogchiaki@mail.saitama-u.ac.jp (小口) nhg@bosai.go.jp (納口)
使用を希望する設備 電源の口数(1 口) LANの接続(無線) 机の台数(2 台) いすの脚数(3 脚) その他()

* ご提出後、3日以内に返信がない場合は、お手数ですが再送をお願い申し上げます。

資料 2

平成25年度「女子中高生夏の学校2013～科学・技術者のたまごたちへ～」
実行委員会からのお願い平成25年度実行委員長
長妻 努 (情報通信研究機構 地球電磁気・地球惑星圏学会)

毎年、夏の学校に関して多くのご尽力を賜り、ありがとうございます。

下記の要領により、本年も「女子中高生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～」を行います。

(詳細は、添付の開催要項をご覧ください。)

- 1 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館
- 2 共 催 日本学術会議「科学と社会委員会 科学力増進分科会」
「科学者委員会 男女共同参画分科会」 (予定)
- 2 日 時 平成25年8月8日(木)～8月10日(土)
- 3 会 場 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

つきましては、この夏の学校を開催するにあたり、以下3件につきまして、ご希望をお伺いしたいと存じます。

	依頼項目	締め切り	申し込み・提出先
(1)	協賛依頼調査	6月20日	国立女性教育会館 千装 メールアドレス chigira@nwec.jp
(2)	実験・実習申し込み	5月31日	
	開催資料用の要旨原稿	6月20日	
(3)	ポスター・キャリア相談ブース 参加申し込み	5月31日	
	テーマ・開催資料用の要旨原稿	6月20日	

(1) 協賛依頼調査

本年度も学会・大学・研究機関・企業等の皆様に協賛をいただきたく、お願い申し上げます。協賛をいただける方は下記の調査書にご記入の上、6月20日までに国立女性教育会館 千装 (メールアドレス chigira@nwec.jp) までお送りください。

協賛をいただける団体様には、後日、申請書をお送りいたします。申請書に指定の様式がある場合、また、都合により下記の調査書提出が締め切り後となります場合は、千装までご連絡ください。

平成25年度 女子中高生夏の学校2013～科学・技術者のたまごたちへ～

協賛依頼調査 (6月20日締め切り)

団体名(正式名称)	公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表者名	公益社団法人日本地球惑星科学連合 会長 津田 敏隆
協賛に関するご担当者名	小口 千明
ご担当者メールアドレス	ogchiaki@mail.saitama-u.ac.jp
申請書送付先住所(〒から)	〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階
申請書送付先あて名	公益社団法人日本地球惑星科学連合 事務局

* 分担金等のご負担は一切不要です。

* ご提出後、3日以内に返信がない場合は、お手数ですが再送をお願い申し上げます。

個人情報のため非公開とする

個人情報のため非公開とする

個人情報のため非公開とする

個人情報のため非公開とする

個人情報のため非公開とする

個人情報のため非公開とする

個人情報のため非公開とする

個人情報のため非公開とする

個人情報のため非公開とする

平成24年度会員数推移

正会員							准会員							大会会員				
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	変更(-)	現会員数	
3月末						7139						390	631				631	
4月	140	39	3			7315							31			39	623	
5月	314		1		2	7626							19		2		640	
6月	3		2	63	12	7552									10		630	
7月	7		1			7558							2				632	
8月	1		2		11	7546							1		318		315	
9月	8		4		1	7549							3				318	
10月	15		3		3	7558							8				326	
11月	6		2		2	7560							4				330	
12月	7		3			7564							2				332	
1月	183				2	7745											394	
2月	589	7	6		40	8295	390					390	260		14	7	633	
3月	25	5	79	942	0	7304	5	3				392	6	1	2	2	634	
	1298	51	106	1005	73		395	3	0	0	0		1029	1	346	48		

正会員
2013/3/31現在
7304 名

准会員
392 名

大会会員
634 名

全会員登録
8330 名

変更
大会会員より正会員へ
准会員から正会員へ

団体会員			賛助会員		
入会	退会	現会員数	入会	退会	現会員数
3月末	48	48	1		1
4月		0			0
5月		0			0
6月		0			0
7月		0			0
8月		0			0
9月	1	1			0
10月		0			0
11月		0			0
12月		0			0
1月		0			0
2月		0			0
3月		0			0
	49	0	49	1	0
					1

平成25年度会員数推移

正会員							准会員					大会会員					
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	変更(-)	現会員数
3月末						7304						392	631				634
4月	170	31	4		3	7498	19	16				395	51		6	15	664
5月	282	51			6	7825	22	32				385	35		2	19	678
6月						7825						385					678
7月						7825						385					678
8月						7825						385					678
9月						7825						385					678
10月						7825						385					678
11月						7825						385					678
12月						7825						385					678
1月						7825						385					678
2月						7825						385					678
3月						7825						385					678
	452	82	4	0	9		41	48	0	0	0		717	0	8	34	

正会員 2013/5/31現在 7825 名
准会員 385 名
大会会員 678 名

変更
大会会員より正会員へ
准会員から正会員へ

	団体会員			賛助会員		
	入会	退会	現会員数	入会	退会	現会員数
3月末			49			1
4月			49			1
5月			49			1
6月			0			0
7月			0			0
8月			0			0
9月			0			0
10月			0			0
11月			0			0
12月			0			0
1月			0			0
2月			0			0
3月			0			0
	0	0	49	0	0	1

3月末
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月

全会員
8330 名
8557 名
8888 名

2014年連合大会日程案(プログラム・システム関連)

2013/6

カレンダー	2013年度	2014年度案	内容
6月	下旬	中旬	年間プログラムスケジュール案作成
7月	上旬	10日(水)	各学協会(団体会員)宛にプログラム委員選出依頼(プログラム委員長)
8月	上旬	上旬	セッション提案テストサイト検証(結果をまとめてJTB.comへ依頼)
	上旬	9日(金)	新プログラム委員決定⇒管理サイト入力, 委嘱状送付
	↓		大会HPの作成・編集
	↓		プログラム局始動
9月	3日(月)	2日(月)	2014年連合大会HP立ち上げ
	3日(月)	2日(月)	セッション提案サイト公開
	上旬	2日(月)	セッション募集広報活動(各学協会/前年度コンビーナ/海外提案者)
	↓	2日(月)	セッション提案募集一斉メール(募集開始のご案内)
	↓	上旬	講演実施案報告(プログラム委員会)
10月	上旬	上旬	セッション募集活動(前年度コンビーナ等)
	↓	10日	メールニュース10月号(セッション提案募集中)
	中旬	中旬	セッション提案募集一斉メール(間もなく募集締切のご案内)
	26日(木)	24日(木)	セッション提案最終締切
			セッションシステム締切
	~11/5(月)	~11/5(火)	プログラム委員によるコメント入力
	30日(火)	29日(火)	セッション提案数報告、セッション採択検討依頼メール(プログラム委員会へ)
11月	↓	↓	セッション採択検討(プログラム委員会)
	↓	↓	コンビーナとの調整
	9日(金)	上旬	プログラム編成会議
	編成会議より1週間程度	編成会議より1週間程度	セッション採択最終結果取りまとめ報告(プログラム委員会へ)
			セッションID確定
12月	3日(月)	2日(月)	セッション確定
	初旬	初旬	投稿・参加テストサイト検証開始(12/21までに結果をJTB.comへ依頼)
	5日(水)	4日(水)	セッション修正・詳細入力サイト立ち上げ
			セッション採択通知及び再入力依頼(コンビーナへ)
			・説明文手直し
			・類似セッション間での調整
			・日程設定(重複回避, 続き)希望再入力
	17日(月)	16日(月)	セッション修正・詳細入力締切
			セッションデータまとめ(プログラム委員会へ)
			各協賛確認(大会委員長)
		↓	セッションデータ調整(プログラム委員長)
	21日(金)	20日(金)	2012年大会開催全セッションweb公開
			投稿・参加用HP作成(日本語・英語)
1月	10日(木)	8日(水)	投稿・参加登録開始
	↓	8日(水)	投稿・参加登録開始のお知らせ一斉メール
	↓	8日(水)	コンビーナに規定、投稿呼びかけ、今後のスケジュールなどメール連絡
	↓	8日(水)	加盟学協会へ大会HP掲載のお願いメール発信
	下旬	上旬	高校生セッションweb公開
	下旬~	上旬	プログラム編成サイト立上準備
	3日(日)	3日(月)	投稿早期締切 24:00
	11日(月)	10日(月)	メールニュース2月号(最終投稿のお知らせ)
			各コンビーナへの今後のプログラム編集スケジュールの通知

カレンダー	2013年度	2014年度 案	内容
2月	↓		コマ割・プログラム編成日程案連絡(プログラム委員会へ)
	15日(金)	12日(水)	投稿最終締切 12:00
	15日(金)	12日(水)	投稿受付情報連絡一斉メール(2重投稿を投稿者各自でチェック)
	↓		コンピーナへ投稿確認
	↓		投稿者へ二重投稿・支払確認
	18日(月)	12日(水)	投稿システム締切
			投稿調整完了連絡(JTB_comへ) サイト閉鎖18:00
			セッション別投稿一覧(確定版)→プログラム委員長へ
	19日(火)	14日(金)	コマ数提示(第一案)
	25日(月)	18日(火)	コマ数決定
			プログラム編成テストサイト検証(結果をまとめてJTB_comへ依頼)
	3月4日(月)	21日(金)	コマ割提示(第一案)
3月			口頭・ポスターコマ割案検討(コンピーナー)
	12日(火)	4日(火)	コマ割確定
	13日(水)	5日(水)	コマ割結果WEB公開
	↓	5日(水)	各コンピーナーへのプログラム編集開始依頼(プログラム委員長)
	↓	5日(水)	プログラム編成サイト立上
	15日(金)	5日(水)	プログラム編集(コンピーナ処理)
	25日(月)	12日(水)	コンピーナ入力締切
	27日(水)	14日(金)	★プログラム編成終了
		14日(金)	データ編集作業(JTB_com)
		14日(金)	印刷プログラム用データ送付(JTB_com⇒JpGU⇒秋田活版)
		14日(金)	新聞型プログラム編集作業開始(秋田活版)
	28日(木)	17日(月)	著者/共著者・発表者・座長へ通知(日程通知)
4月	4月10日(水)	18日(火)	プログラムWEB公開(PDF無)
			ポスター配置案作成開始 (1稿までに秋田活版へ)
			PDFデータ送付(JTB_com⇒JpGUへ)
	16日(水)		新聞型プログラム第1稿完成(秋田活版⇒JpGU)
	5月2日(金)		新聞型プログラム校正完了
	5月7日(火)	16日(水)	早期参加登録 登録締切 17:00
	5月7日(火)	16日(水)	PDF送付用発表者データ送付(OBS)
	5月9日(木)	17日(木)	invitation(バーコード付きPDF)メール配信
			新聞型プログラム印刷(秋田活版)
	5月10日(金)	18日(金)	プログラムWEB公開(PDF有)
5月19-24日 (日～金)	5月13日(月)	21日(月)	当日受付用参加者データ送付(OBS)
	4月28日-5月2日(月～金) 日本地球惑星科学連合2014年大会		

パシフィコ部屋表				
部屋番号	広さ(㎡)	人数	合計	
2F	211+212 ①	158	130	2会場
	213 ②	79	60	
3F	301 ③	335	260	10会場
	302 ④	335	260	
	303 ⑤	294	250	
	304 ⑥	294	250	
	311+312 ⑦	152	144	
	313+314 ⑧	152	144	
	315 ⑨	319	168	
	316 ⑩	63	50	
	317 ⑪	63	50	
	318 ⑫	63	50	
4F	411+412 ⑬	150	144	10会場
	413 ⑭	124	120	
	414+415 ⑮	154	154	
	416+417 ⑯	154	154	
	418 ⑰	172	140	
	419 ⑱	172	140	
	421 ⑲	69	54	
	422 ⑳	69	54	
5F	423 ㉑	69	54	4会場
	424 ㉒	69	54	
	501 ㉓	396	320	
	502 ㉔	396	320	
	503 ㉕	500	432	
	511+512 ㉖	142	121	
合計				26会場

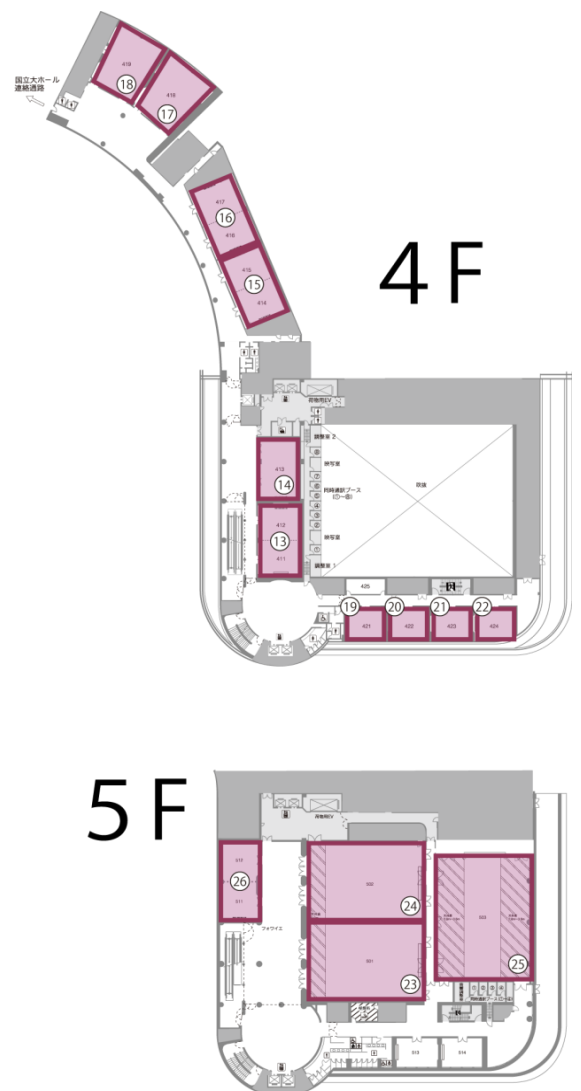
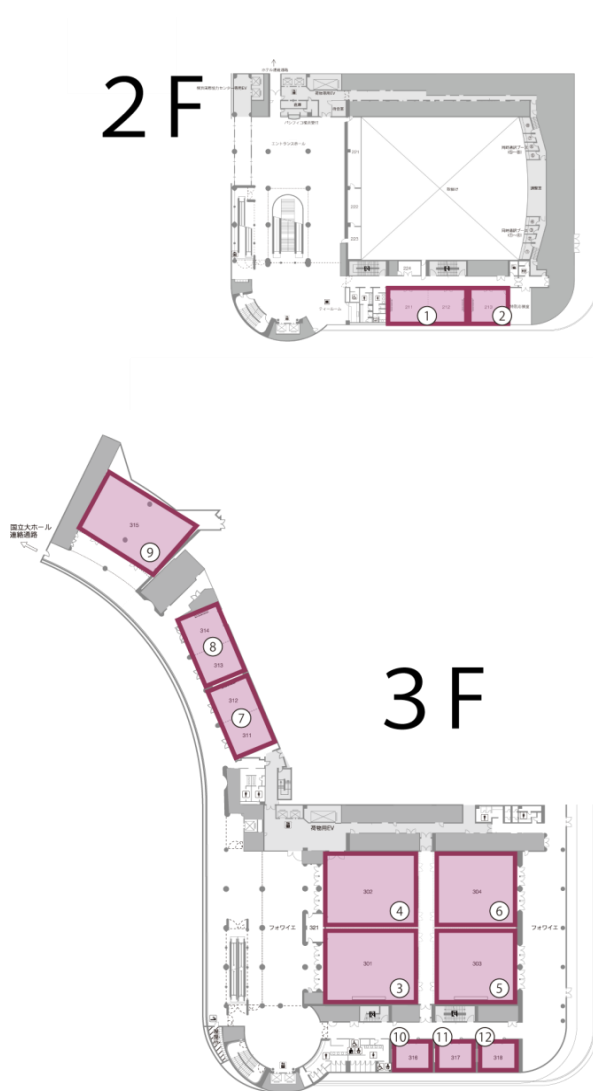
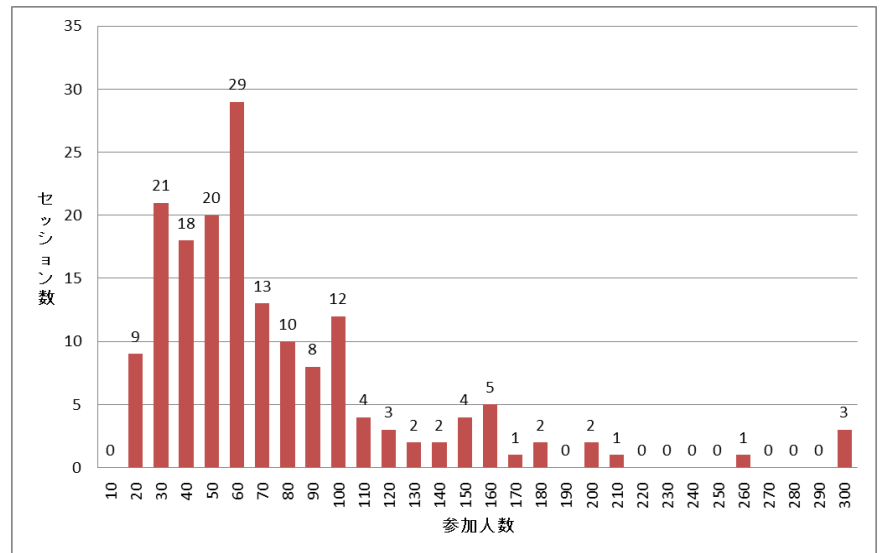
幕張部屋表 (2012使用例)			
部屋番号	広さ(㎡)	人数	
		JpGU	メッセ設定
101A	80	70	72
101B	80	70	72
102A	63	70	60
102B	70	70	70
103	156	160	170
104	156	160	170
105	156	160	170
106	-	100	-
201A	165	140	144
201B	165	140	144
202	83	70	70
203	72	50	56
IC	635	300	312
301A	130	110	108
301B	150	130	126
302	194	200	196
303	194	200	196
304	190	160	172

パシフィコ使用案						
パシフィコ			幕張メッセ			定員比
部屋	広さ ㎡	人数 (P)	部屋	広さ ㎡	人数 (M)	P/M
503 ㉕	500	432	IC	635	300	1.4
501 ㉗	396	320	302	194	200	1.6
502 ㉘	396	320	303	194	200	1.6
301 ㉙	335	260	105	156	160	1.6
302 ㉚	335	260	304	190	160	1.6
303 ㉛	294	250	103	156	160	1.6
304 ㉜	294	250	104	156	160	1.6
315 ㉝	319	168				
414+415 ㉞	154	154	201A	165	140	1.1
416+417 ㉟	154	154	201B	165	140	1.1
311+312 ㊱	152	144	106	-	100	1.4
313+314 ㊲	152	144	301A	130	110	1.3
411+412 ㊳	150	144	301B	150	130	1.1
418 ㊴	172	140	102B	70	70	2.0
419 ㊵	172	140	202	83	70	2.0
211+212 ㊶	158	130	102A	63	70	1.9
511+512 ㊷	142	121	101B	80	70	1.7
413 ㊸	124	120	101A	80	70	1.7
213 ㊹	79	60	203	72	50	1.2
421 ㊺	69	54				
422 ㊻	69	54				
423 ㊼	69	54				
424 ㊽	69	54				
316 ㊾	63	50				
317 ㊿	63	50				
318 ㉠	63	50				

会場規模毎部屋数と使用実績(割合)			
想定部屋規模		2012年実績 (セッション数)	
収容定員	利用目安	実数	割合
50	～30	30	17.5
60	～40	18	10.5
70	～50	20	11.7
100	～70	42	24.6
110	～70		0.0
120	～80	10	5.8
130	～90	8	4.7
140	～90		0.0
150	～100	12	7.0
160	～110	4	2.3
170	～110		0.0
200	～130	5	2.9
250	～170	12	7.0
260	～170		0.0
300	～200	4	2.3
320	～210	1	0.6
430	290(300)	4	2.3
合計		170	100

※2012セッションデータ回収数170

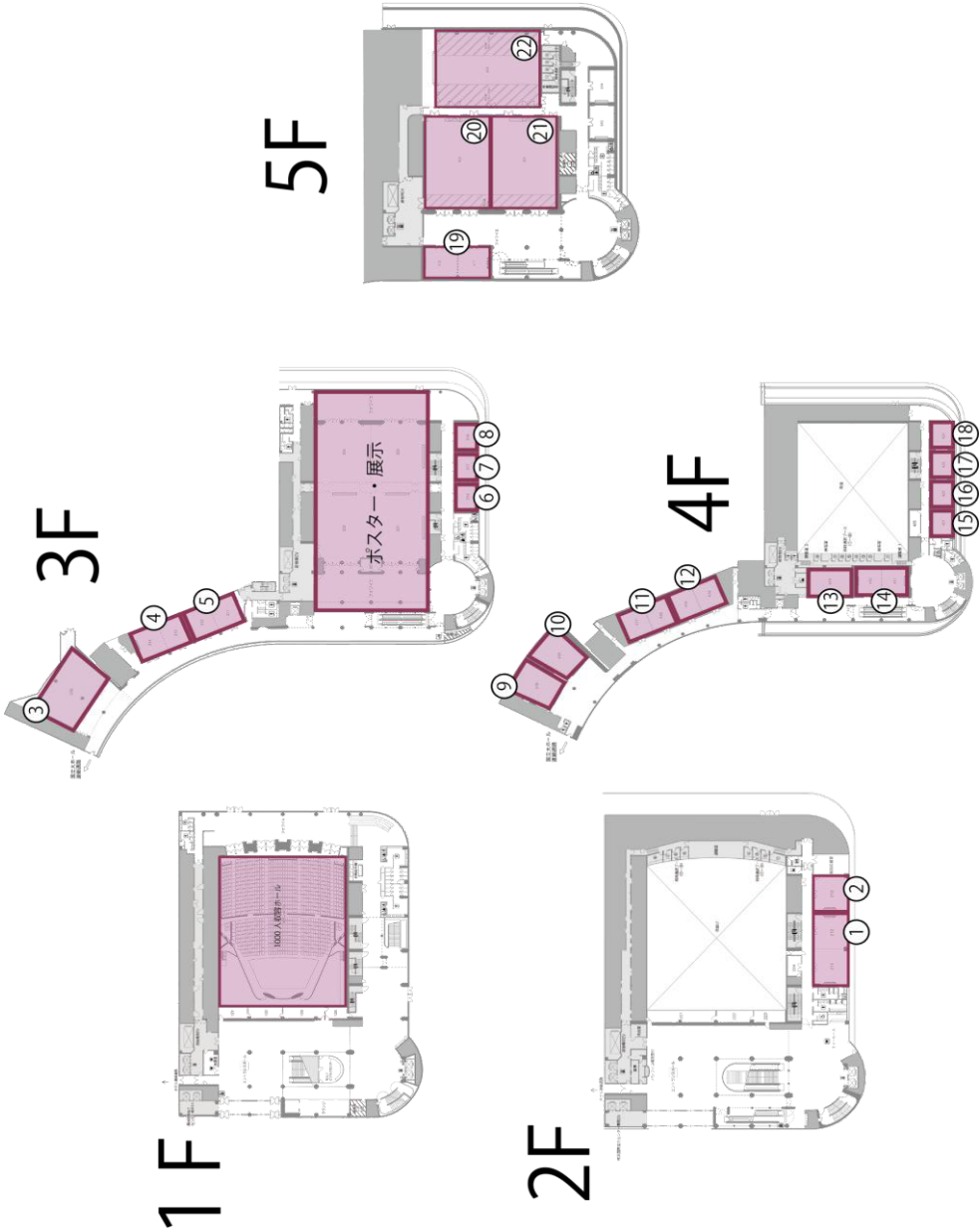
※※利用目安は定員の3分の2を四捨五入



パシフィコ部屋表				
部屋番号		広さ (㎡)	人数	合計
2F	211+212 ①	158	130	2会場
	213 ②	79	60	
	3F	315 ③	319	168
311+312 ④		152	144	
313+314 ⑤		152	144	
316 ⑥		63	50	
317 ⑦		63	50	
318 ⑧		63	50	
4F		419 ⑨	172	140
	418 ⑩	172	140	
	416+417 ⑪	154	154	
	414+415 ⑫	154	154	
	413 ⑬	124	120	
	411+412 ⑭	150	144	
	421 ⑮	69	54	
	422 ⑯	69	54	
	423 ⑰	69	54	
	424 ⑱	69	54	
511+512 ⑲		142	121	

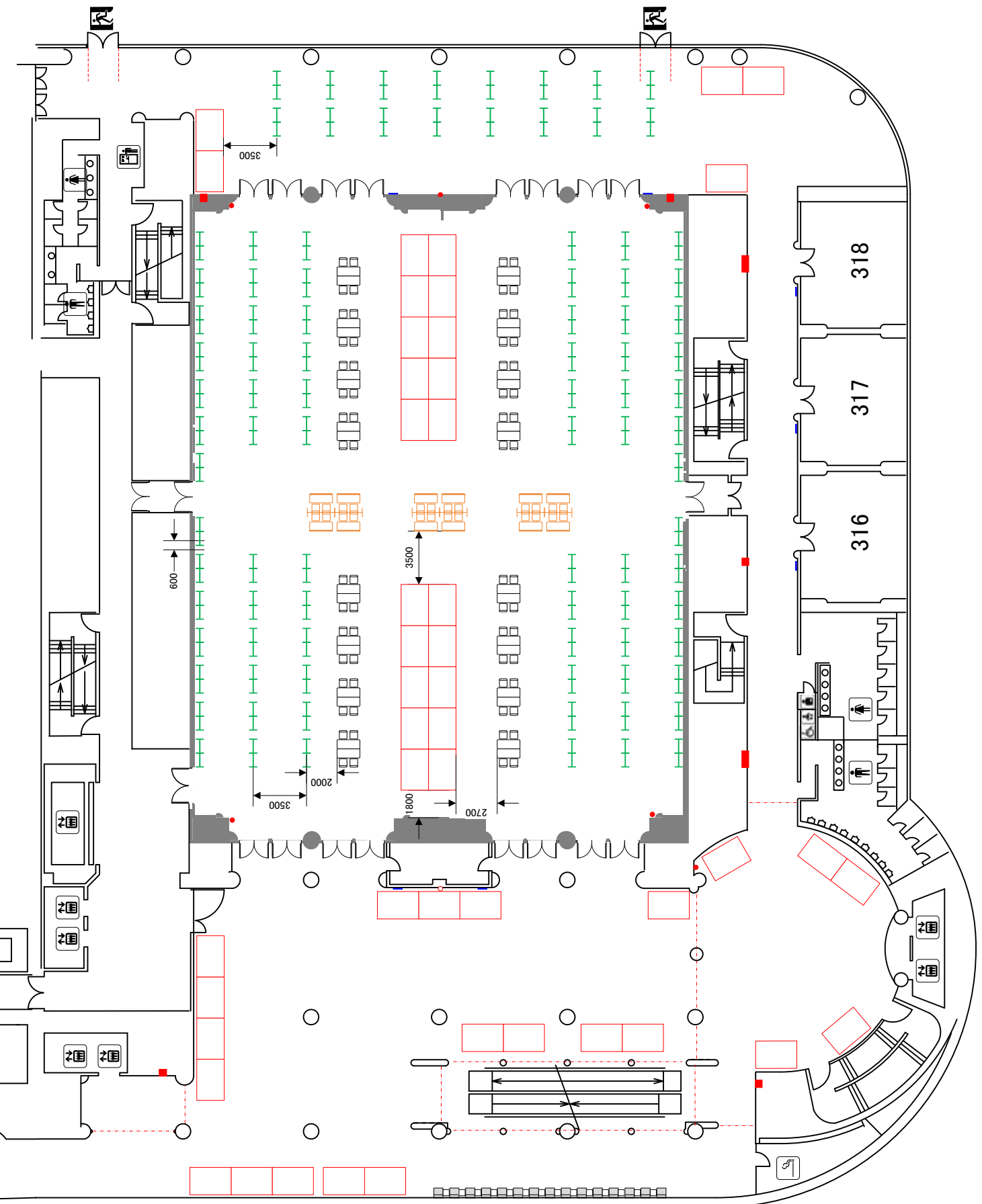
幕張部屋表 (2012使用例)			
部屋番号	広さ (㎡)	人数	
		Jp&U	メッセ総受
101A	80	70	72
101B	80	70	72
102A	63	70	60
102B	70	70	70
103	156	160	170
104	156	160	170
105	156	160	170
106	-	100	-
201A	165	140	144
201B	165	140	144
202	83	70	70
203	72	50	56
1C	635	300	312
301A	130	110	108
301B	150	130	126
302	194	200	196
303	194	200	196
304	190	160	172
ポスター	1390		

幕張部屋表 (2012使用例)			
部屋番号	広さ (㎡)	JpGU	人数
101A	80	70	72
101B	80	70	72
102A	63	70	60
102B	70	70	70
103	156	160	170
104	156	160	170
105	156	160	170
106	—	100	—
201A	165	140	144
201B	165	140	144
202	83	70	70
203	72	50	56
1C	635	300	312
301A	130	110	108
301B	150	130	126
302	194	200	196
303	194	200	196
304	190	160	172
ポスター	1390		



ポスター+展示				
3 F	301	335	260	1831㎡
	302	335	260	
	303	294	250	
	304	294	250	
	ホワイエ	555		

ポスター会場と団体展示を3階に設置する案



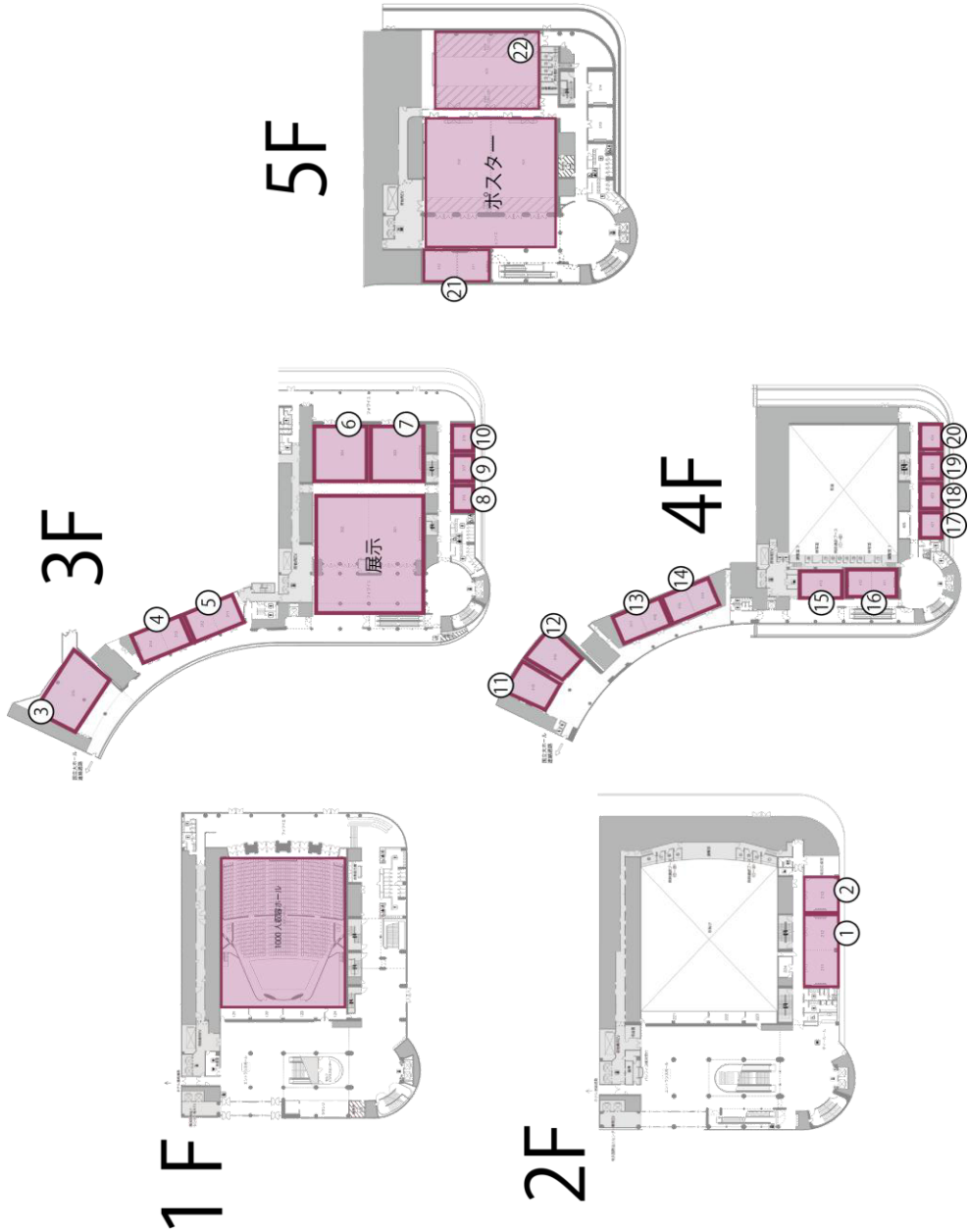
団体展示を3階に、ポスター会場を5階にする案

幕張部屋表 (2012使用例)			
部屋番号	広さ (㎡)	JpGU	人数
101A	80	70	72
101B	80	70	72
102A	63	70	60
102B	70	70	70
103	156	160	170
104	156	160	170
105	156	160	170
106	—	100	—
201A	165	140	144
201B	165	140	144
202	83	70	70
203	72	50	56
1C	635	300	312
301A	130	110	108
301B	150	130	126
302	194	200	196
303	194	200	196
304	190	160	172
ポスター	1390		

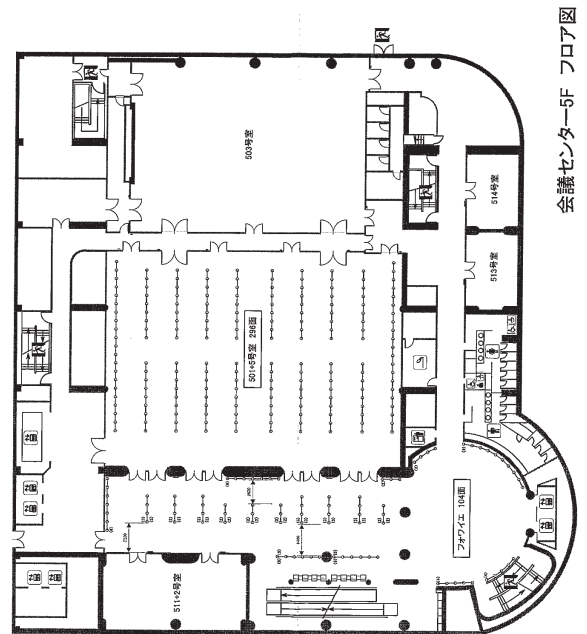
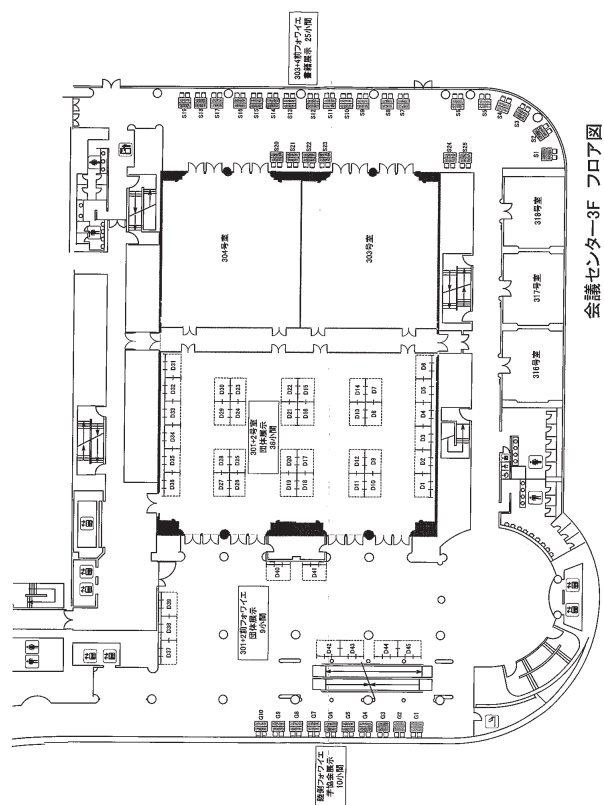
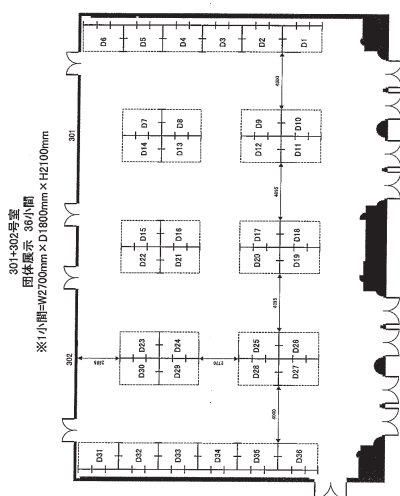
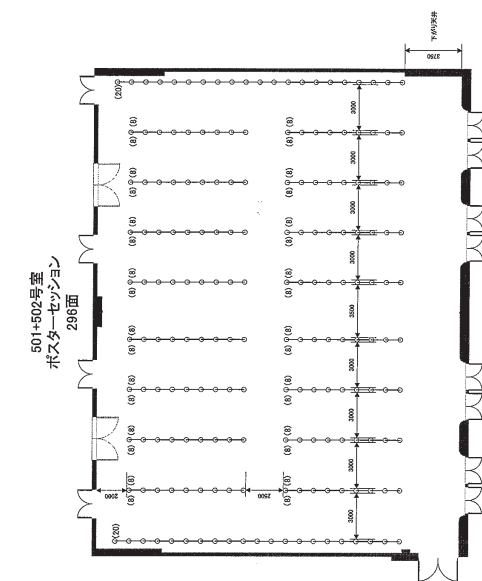
パシフィコ部屋表				
部屋番号	広さ (㎡)	人数	合計	
2F				
211+212 ①	158	130	2会場	
213 ②	79	60		
3F				
315 ③	319	168	6会場	
314+313 ④	152	144		
311+312 ⑤	152	144		
304 ⑥	294	232		
303 ⑦	294	232		
316 ⑧	63	50		
317 ⑨	63	50	10会場	
318 ⑩	63	50		
419 ⑪	172	140		
418 ⑫	172	140		
416+417 ⑬	154	154		
414+415 ⑭	154	154		
413 ⑮	124	120		
411+412 ⑯	150	144		
421 ⑰	69	54		
422 ⑱	69	54		
423 ⑲	69	54	4会場	
424 ⑳	69	54		
511+512 ㉑	142	121	22会場	
503 ㉒	500	432		
合計				

ポスター			
5F	501	396	320
	502	396	320
	ホワイエ	375	
合計			1167㎡

展示			
3F	301	335	260
	302	335	260
	ホワイエ	555	
合計			1225㎡



団体展示を3階に、ポスター会場を5階にする案



コンビーナガイドライン

1: セッションの構成

(学術セッション)

日本地球惑星科学連合大会は、多数の学術セッションの集合として開催されます。個々の学術セッションはコンビーナによって提案されたスコープを持ち、コンビーナによって編成された学術発表により成り立ちます。

(セッションの公用語)

各セッションの公用語には、日本語または英語を選ぶことができます。日本地球惑星科学連合国際シンポジウム (JpGU International Symposium) セッション (以下国際セッションと略す) として開催する場合の公用語は英語です。国際セッションに対しては、招待講演者数や口頭発表数の優遇措置があります

(セッションのカテゴリー)

個々の学術セッションは、対象や内容によって以下の 7 つのカテゴリーのどれかに属します。(各カテゴリーには、[]内に記したセッション大記号が付されます。)

宇宙惑星科学 [P] (惑星科学、太陽地球系科学、宇宙空間物理学、宇宙電磁気学、太陽系外惑星科学など)

大気水圏科学 [A] (大気科学、気象学、大気環境、海洋科学、水文学、陸水学、地下水学、雪氷学、地球環境科学・気候変動研究など)

地球人間圏科学 [H] (地理学、地形学、応用地質学、環境地質学、堆積学、自然災害、防災、資源・エネルギーなど)

固体地球科学 [S] (測地学、地震学、固体地球電磁気学、地球内部科学、地球惑星テクニクス・ダイナミクス、地質学、第四紀学、鉱床・資源地質学、岩石・鉱物学、火山学、地球化学など)

地球生命科学 [B] (地球生命科学、宇宙生物学・生命起源、地圏生物圏相互作用、古生物学、古生態学など)

教育・アウトリーチ [G] (地学教育、学校教育、社会対応など)

領域外・複数領域 [M] (上記 6 つのカテゴリーに属さない、または複数のカテゴリーを横断する内容のセッション、加盟外学協会との合同シンポジウムなど)

(特別なセッション)

以下の 2 種類の、特別なセッションがあります。

パブリックセッション [O]:

アウトリーチ活動や一般の方々にも地球惑星科学の成果を広くお知らせするために設定されるセッションです。パブリックセッションは投稿料および参加費が無料になります。

ユニオンセッション [U]:

地球惑星科学のフロンティアや地球惑星科学のコミュニティー全体に共通する課題を全研究者に広く周知し、議論するためのセッションです。

これらの特別なセッションは、提案された学術セッションの中からプログラム編成会議がもっともふさわしいものを選んで、提案したコンビーナに特別なセッションとしての開催を依頼します。

これらのセッションでは招待講演者数に上限がなく、講演時間や討議時間の設定も自由です。

2: セッション提案から採択まで

(セッション提案)

9月から10月にかけて日本地球惑星科学連合大会 Web システムにてセッション提案を受け付けます。

(代表コンビーナ)

個人、学協会、または研究グループ等の団体によるセッション提案が可能です。個々のセッション提案につき、必ず1名の代表コンビーナを指定してください。代表コンビーナとなるには日本地球惑星科学連合の登録IDが必要です。あらかじめIDを取得しておいてください。各セッションには、代表コンビーナに加えて共同コンビーナを登録することができ、両者をあわせて、コンビーナと呼びます。共同コンビーナは、日本地球惑星科学連合のIDを登録すれば代表コンビーナと同様にプログラム編成作業ができます。代表コンビーナが急な作業要求に対応できない場合も考えられますので、共同コンビーナもIDを登録しておくことを強く薦めます。

(提案区分)

全てのセッションは、まず、7つのセッションカテゴリーのいずれかの学術セッションとして提案してください。適切なカテゴリーが見つからない等、不明の点は、連合事務局に質問してください。

パブリックセッション、ユニオンセッション、国際セッションとしての開催を希望する場合には、提案時にその旨、指定してください。

(AGU、EGU、AOGS との共催について)

国際セッションの提案でAGU、EGU またはAOGS との共催を希望される（あるいは決ま

っている) 場合は、セッション提案の中にその旨記述してください。

共催を希望されその交渉を連合に依頼したい場合は、別途、国際学術委員会のサイモン ウォリス委員長 () 宛にその旨依頼してください。

(セッション小記号)

セッションカテゴリーにつけられた大記号に加えて、各カテゴリー内の類似分野のセッションを小記号に分類します。分類はプログラム編成会議で行いますが、希望があればセッション提案時に特記・希望事項として入力してください。

(開催日時・会場希望)

部屋サイズについての希望を受け付けます。開催日時の希望については採択後に受け付けます。但し、大会の会場・会期は限られていますので必ずしも希望に添えない場合があります。予めご了承ください。セッション提案時点で開催日時に関する強い希望がある場合には「18.セッション提案 特記・希望事項」の欄にご記入ください。

(セッションの採択)

個々のセッションの採択、およびユニオンセッションとパブリックセッションの選定は、プログラム編成会議で決定します。

セッション内容とセッションカテゴリー・小記号分類の不一致があるとプログラム編成会議が判断した場合、希望していたカテゴリー以外での採択、異なる小記号分類などの条件が課される場合があります。

また以下に当てはまるとプログラム編成会議が判断する場合、当該セッションを不採択とすることがあります。

日本地球惑星科学連合大会の趣旨から外れるもの

他のセッションと科学的内容が同一あるいはほぼ同じと考えられるもの

(科学的内容がほぼ同じセッションが複数あった場合、協議して一つにまとめます)

内容が科学的見地から不適切、あるいは特定の個人・団体等の誹謗中傷あるいは利益誘導など社会倫理的に不適切と判断されるもの

セッション採否の結果は、11 月末にお知らせする予定です。

3: 投稿のよびかけ・招待講演

(投稿の呼びかけ)

採択が決定した段階で、各セッションのコンビーナから関連する研究者への積極的な宣伝をお願いします。

予稿投稿期間は 1 月から 2 月の予定です。但し、各セッションの開催日時や口頭発表割当数などは、プログラム編成時まで決定しません。特定の日時や口頭発表を確約しての宣伝

は避けてください。

(投稿者への通知)

発表論文の予稿投稿にあたり、投稿者（筆頭著者あるいは発表者）が連合大会 Web システムにて会員登録（連合会員あるいは大会参加会員（連合非会員））するように助言をお願いします。投稿者（筆頭著者あるいは発表者）は会員登録が必須です。

(講演形態)

連合大会には、次の 2 種類の講演形態があります。

口頭 15 分発表（質疑込み）：通称「口頭講演」

口頭 3 分発表（質疑なし）＋ポスター展示：通称「ポスター講演」

「ポスター講演」の口頭発表は 3 分間で変更することはできません。「口頭講演」の時間は、招待講演を除き 15 分から変更することはできません。

「ポスター講演」の場合には発表者本人の意思により、口頭 3 分発表を辞退してポスター展示のみとすることができます。

一方、コンビーナは発表者に対し、口頭 3 分発表の辞退を要請することはできません。ご留意ください。

2014 年大会では、2013 年大会に引き続きポスター発表に 3 分間の口頭発表が付きます。その他、大会全体を通してポスター講演の充実を図ります。投稿者およびコンビーナの皆さまにはポスター講演を有効にご活用いただき、もって連合大会全体のより一層のレベル向上につなげていただきますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

(招待講演)

コンビーナはセッションごとに招待講演を依頼することができます。招待講演の講演形態は、「口頭講演」もしくは「ポスター講演」（上述）のいずれかです。

そのセッションにおいて発表される論文のなかで、セッションのスコープに対して大きな貢献をするものや、今後の研究の方向性を示すものは、コンビーナの裁量で、招待講演とすることができます。招待講演の件数は、**件です。一般セッションにおいては、投稿料や参加費の優遇措置はありません。

招待講演数には制限があります。次の通りです。

[一般セッション]

一般投稿開始前:

自由枠（講演形態は「口頭講演」か「ポスター講演」のいずれかを選択）：2 件

ポスター枠（講演形態は「ポスター講演」に限定）：1 件

投稿締め切り後：

採択された口頭講演数に応じ、招待講演(自由枠)数を追加することができます。

ただし、最終的な招待講演(自由枠)数は、そのセッションの全「口頭講演」数（招待講演(自由枠)の「口頭講演」数を含む）の 6 分の 1 を超えないものとします。

全てがポスター講演からなるセッションの場合には、招待講演(ポスター枠)数は全講演数の 6 分の 1 程度を超えないものとします。

[国際セッション]

一般投稿開始前の配分数は、次の通りです。

自由枠: 5 件

ポスター枠: 2 件

投稿締め切り後の追加分の算出方法は、一般セッションと同じです。

[パブリックセッション、ユニオンセッション]

招待講演数に上限を設けません。

なお、これらのセッションにおける招待講演の投稿方法は通常の方法と同じであり、投稿料や参加費の優遇措置はありません（パブリックセッションをのぞく）。

一般投稿開始前に配分される招待講演枠に対しては、できるだけ一般投稿開始前に招待講演者を確定してください。

一般投稿時には、そのセッションの招待講演者が誰かがわかるように公開します。

4: プログラム編成

（時間割り作成）

3 月に、連合大会全体の時間割り作成作業を行います。全体を考慮して時間割り案をプログラム委員会が作成し全コンビーナに提示しますので、確認してください。

実際の時間割り作成作業では、投稿数に応じて口頭発表コマ数を配分し、重複を避けたいセッションや連続開催を希望するセッション、希望の部屋の大きさなどを考慮して各セッションの口頭講演開催日・時間帯、ポスターコアタイム等を決めます。

しかし、会場数や利用可能時間が限られていますので、必ずしもご希望通りにはならないことがあります。予めご了承ください。

各セッションのポスターコアタイムは、口頭講演の開催日・時間帯が確定後、複数の時間帯の中から各コンビーナに選んでいただく予定です。

2014 年大会の口頭発表時間配分ルールは、次のようなものとする予定です。

[2014 年大会の口頭発表時間配分ルール] (2013 年 9 月時点)

1 スロット = 15 分とする。

1 コマは、6 ないし 7 スロットで構成する。

1 日には午前・午後 2 コマずつ、計 4 コマ配置する（原則）。

ユニオン/パブリックセッションの時間配分は個別に設定する。

国際セッションでは、他のセッションに比べ口頭講演の割合が高くなるよう配分できる。

ただしポスター講演の件数が口頭講演の半分以上、かつ 5 を下らないこととする。

一般セッション:

So = 「口頭講演」 希望数、Sp = 「ポスター講演」 希望数

基準スロット数 = $\min((So + Sp) \cdot C, So + Sp \cdot 0.2)$, 小数点以下は切り上げ

C = 0.5-0.6 程度の係数

この基準スロット数を基準とし、時間割の組み合わせに応じて若干の増減を加え、配分コマ数が整数ないし半整数(程度)となるように、配分スロット数と配分コマ数を決める。

ただし、実際の投稿数や会場の都合により、2014 年 3 月の段階でこの配分ルールが変更となる可能性があります。あらかじめご了承ください。

(プログラム編成)

3 月に連合大会 Web システムにてプログラム編成作業を行います。

編成作業は、(代表および共同) コンビーナが責任をもって行って下さい。

万が一、編成作業の時期にコンビーナが誰も作業できないときには事務局にご相談ください。

連合大会 Web システムでは 2 人以上の同時アクセスをチェックできません。2 人以上で編集作業を行う場合には連絡を取り合い、混乱が生じないように注意して下さい。

(論文の採択)

コンビーナは、投稿された論文の内容を精査して下さい。

以下のように、連合大会における学術発表として不適切と判断される場合には、論文を不採択としてください。

採択が疑われる論文についてはプログラム委員会にご相談ください。トラブルを避けるため、投稿者に直接連絡することはおやめください。

投稿規定による不採択の基準は以下のとおりです:

内容がセッションの趣旨から外れるもの

(他に適切なセッションがあればコンビーナ間の協議により移動できます)

科学的内容が不適切、あるいは発表論文として体裁が整っていないと判断されるもの
個人や組織の誹謗中傷など、社会倫理的に、内容が不適切と判断されるもの
発表の場を確保するなどの目的で、同一人物が同一セッションに規定以上の複数投稿を行ったり、他人名義（ダミー）など虚偽を含む投稿がなされたと判断される場合

同一セッションに対する筆頭著者あるいは発表者としての申し込みは、計 2 件まで可能です。ただしこのうち、「口頭講演」は 1 件以下とします。

ただし、学生が筆頭著者である論文に対して指導教員が代理で投稿あるいは発表すること等には制限を設けません。

しかし、同一セッションで同一人が何件も「口頭講演」を行うことは発表機会の公平性の観点から好ましくありませんので、この場合、3 件目以降の講演は「ポスター講演」でのみ可とします。

また、これまで、口頭発表枠の確保などの目的で「ダミーの」論文投稿が行われたり、講演者の同意なしに代理投稿が行われるなど、大会参加者の善意に基づいて成り立つ地球惑星連合大会の精神に反する行為が行われた事例があります。

このような行為、およびこのような投稿の採択は絶対におやめください。このような行為が確認された場合には、当該セッションの採択を取り消すことがあります。

論文の採択・不採択についての最終決定はプログラム編成会議にて行い、投稿論文を不採択とする場合は、投稿者に対して、プログラム委員会から理由を付して通知します。この場合、投稿料は返却します。なお、投稿者が不採択を不服とする場合には、プログラム委員会に対して再審査を申し立てることができます。

（講演形態の決定）

コンビーナは内容にもとづいて、投稿された各論文には「口頭講演」・「ポスター講演」のどちらの講演形態が適当かを判断し、各論文の講演形態を決定してください。

投稿時に示された「口頭講演」・「ポスター講演」の区別はあくまで投稿者の希望です。

コンビーナの裁量により、投稿者の当初希望とは異なる講演形態に変更することができます。

「ポスター講演」の口頭発表は、3 分です。質疑は行いません。「ポスター講演」の口頭 3 分発表は、発表者本人の希望にもとづく場合でない限り、なくすことはできません。

「口頭講演」は、一講演あたり 15 分(質疑込み)です。自由形式のプログラム編成、パネルディスカッション等の開催は認められません。招待講演(の口頭講演)に限って一講演の時間を 15 分以上に設定することが可能です。他の口頭講演については 15 分から変更することはできません。

会場数の制限から口頭発表可能数には限りがあります。投稿者の「口頭講演」希望を全て満たすことは容易ではなく、ある程度の数の投稿者の希望に添えないことがあることを、あらかじめご了解ください。

（特別な対応を要するセッションに関する取り扱い）

政府要人など警備を必要とする人物の招待講演では、警備や控え室確保などに準備が必要となる場合があります。

招待を検討される場合は、必ず事前に地球惑星科学連合大会運営委員会に相談してください。

また、このセッションの実施においては、大会運営委員会の調整に従ってください。

招待者への対応は原則としてセッションのコンビーナが責任をもって行い、特別対応に伴う諸費用（控え室使用料など）もコンビーナ側が負担してください。招待講演以外の場合にも、特別対応が必要な場合には同様とします。

（発表の順序）

発表の順序など、投稿者からの希望がある場合には、コンビーナの判断で対応してください。

「ポスター講演」の3分講演は、できるだけ5つまとめて15分単位にしてください（連合大会全体の進行が15分ごとに同期されるように）。

半端の分は、休憩時間に入る前の枠に配置するとよいでしょう。

また、3分講演が10件以上も続くと落ち着かないと感じる人もいますので、適宜離して配置するのがよいかもしれません。

（他セッションへの移動）

コンビーナの判断により、投稿論文を他の適切なセッションで採択することができます。

この場合、各セッションの時間枠を再調整することは難しいので、時間枠の余裕の有無を含めて、移動先のセッションのコンビーナとの事前協議をお願いします。

また、セッションの移動は、事前に投稿者の了承を得てから行って下さい。

（座長の選定）

一つのセッションに複数の座長を選定してください。（「口頭講演」「ポスター講演」双方の口頭発表が全くないセッションは不要です。）

座長には、連合大会に確実に参加する人を選定してください。座長への依頼や確認は、コンビーナが行ってください。

(セッションの確定と承認)

全てのセッションプログラムは、プログラム編成会議での検討を経た後に確定され、最終的に理事会の了承を受けて実施されます。セッションプログラムの構成等に対して、大会運営委員会が協議を求めることがあります。

5: プログラム確定後、大会当日まで

(発表論文タイトル・発表者・著者名の変更)

投稿締め切り日以降、論文の著者、発表者および発表タイトルは、原則として変更できません。

(発表のキャンセル)

発表者からのキャンセルの申し出について、やむを得ないとコンビーナが判断する場合には、指定されたフォームにより プログラム局に必要な事項をお知らせください。

よくある問合せ Q&A

問い合わせの多い項目について Q&A にまとめました。参考にしてください。

国際セッションについて

Q:国際セッションとは何でしょうか。

A:公用語が英語のセッションです。セッション提案時に英語を公用語として選び、さらに、「国際セッションを希望する」を選択してください。国際セッションに対しては、招待講演者数や口頭発表数の優遇措置があります。

招待講演について

Q:招待講演の投稿受付は通常の講演と同じでしょうか。

A:通常と同じです。

Q:招待講演でも投稿料金は同じですか。

A:同じです。投稿料・参加料への特別優遇処置はありません。(ただしパブリックセッションは例外)

Q:一人が投稿できる論文数に制限はありますか。(招待講演はカウントされない等)

A:あります。

同一セッションでは合計 2 件までの発表ができます。ただしこのうち、口頭発表は 1 件以下とします。同一人が、複数のセッションに複数の投稿をおこなうことに制限はありません。

招待講演も通常の投稿論文と同様にカウントされます。

Q:招待講演と通常講演の見分け方がありますか。

A:招待講演（ポスター枠を含む）には、プログラムの演題番号前に「★」印をつけて印刷・表示を行い、区別できるようにします。招待講演のポスターにも、招待講演とわかる表示をします。

講演時間について

Q:個々の「口頭講演」の発表時間を数分短くすることで口頭発表数を増やしてよいですか。

A:原則として認められません。招待講演以外の口頭発表は一律 15 分とします。これは口頭発表の質を下げないためであり、同時進行のセッション間での聴衆の移動を円滑にするためでもあります。ご理解ください。

Q:セッションのはじめに趣旨説明の時間を設定してよいですか？

A:原則として認められません。貴重な口頭発表の時間を削ることは望ましくないのでセッション開始前の時間に短く行うか、コンビーナの発表を最初に行うなどして対応してください。

Q:総合討論の時間を設けたいのですが？

A:パブリックセッションとユニオンセッション以外では、そのような時間を割り当てることは原則としてできません。どうしても必要な場合は、次の 2 つの方法のいずれかをご利用ください。

コンビーナによる「口頭講演」申し込み:

総合討論用の枠を設定することが必要なときには、コンビーナの方が、総合討論用の口頭講演を申し込んでください。

1 セッションにつき 1 講演分(15 分)のみ、採択することができるものとします。なお、この講演申し込みについても、通常の投稿手続きが必要であり、投稿料がかかります。投稿数制限には、カウントしないことにします。

最終的な採択は、プログラム編成会議が行います。

総合討論用の時間確保を保証するためには口頭講演の申し込みが必要ではありますが、プログラム編成の都合上空き時間が比較的多くなったセッションや、講演のキャンセルが出たセッションでは、総合討論用の口頭講演を申し込まずに総合討論の時間を設けることが可能になります。あらかじめご了承ください。

「会合」の利用:

時間外（通常の講演の終了後）に同じ会場もしくは別室を別途有料で使用するることによって、開催することは可能です。事務局にご相談ください。

その他

Q:セッション日程はいつ頃決まりますか。

A:3 月中旬に決まる予定です。

投稿締め切り後、プログラム委員会にてコマ割を行います。コンビーナの皆様へは 3 月上

旬に第 1 版をお知らせし、確認をお願いする予定です。その後、各セッションからの修正要望をもとに調整し、最終決定します。

Q:英語版 web システムで、発表原稿（アブストラクト）の投稿は可能ですか。

A:可能です。

英語ログインページ: https://secure.jtbcom.co.jp/jpgu_e/

Q:ユニオンセッションの投稿受付は通常のセッションと同じでしょうか。

A:同じです。投稿料・参加料への特別優遇処置はありません。

Q:講演会場の設備機器には何がありますか。

A:プロジェクター1台が標準装備です。OHP については、使用希望の事前連絡が必要です。パソコンの装備はありません。また、ポスター会場内では機器の使用はできません。

ハイライト論文についてのQ & Aを追加

(会員登録)

1.発表論文の投稿を行う前に、投稿者（筆頭著者あるいは発表者）が連合大会 WEB サイトを通じて会員登録（連合会員あるいは大会会員）を行なうこと。連合会員になると、大会参加割引など各種特典がある。

2.筆頭著者の会員登録は原則として本人が行うこと。連絡先は本人に必ず連絡が取れる所とし、代理人の連絡先は認めない。事情に応じて事務局から問い合わせを行うことがある。

(発表論文の作成)

1.発表論文の形式等に関しては、連合大会 Web サイトに掲載する案内に従うこと。

(発表論文の投稿)

1.発表論文の投稿は、原則として筆頭著者または発表者が行う。申し込みに際しては、共著者の了承を得ていること。国外からの投稿など、筆頭著者や発表者による投稿が難しい場合には、プログラム委員会からコンビーナに代理で投稿をお願いすることがある。それ以外の場合は大会事務局まで問い合わせること。なお、筆頭著者の承諾を得ずに代理投稿された場合には、原則としてそれを受理しない。

2.複数のセッションに対する投稿数に制限はないが、同一セッションに対する筆頭著者あるいは発表者としての申し込みは、原則として計2件までで、このうち口頭発表は1件以下とする（招待講演もカウントする）。ただし、学生が筆頭著者である論文に対して、指導教員が代理で投稿あるいは発表する場合や、事前にプログラム委員会の了解がある場合は、この限りではない。しかし、同一セッションで同一人が何件も発表を行うことは、発表の機会の公平性の観点から好ましくないで、良識のある投稿をお願いする。

(投稿料)

1.投稿者は別に定める投稿料を支払うものとする。招待講演者も投稿に際して投稿料を支払うものとする。

(参加登録)

1.連合大会において口頭講演またはポスター講演を行う者（招待講演者も含む）は、大会参加登録をしなければならない。この為、別に定める大会参加登録料を支払うものとする。

(採択)

1.発表論文の採択は、コンビーナの提言をもとにプログラム委員会で最終的に決定する。以下の場合など、発表に不適切な内容と判断される場合には、発表論文が不採択となる場合がある。
○発表内容が大会およびセッションの趣旨と大きく異なると判断される場合
○発表内容が科学的に不適切、あるいは発表論文として体裁が整っていないと判断される場合
○発表内容が社会倫理上、不適切と判断される場合
○発表の場を確保するなどの目的で、同一人物が同一セッションに規定以上の複数投稿を行ったり、他人名義（ダミー）など虚偽を含む投稿がなされたと判断される場合

2.発表形態（口頭またはポスター）は、プログラム委員会により提案された口頭発表時間枠と、コンビーナによる発表内容の判断に基づいて決定される。また、コンビーナの判断により、投稿者の希望とは異なるセッションで発表論文を採択する場合がある。

3.発表論文が不採択となった場合には、プログラム委員会から投稿者に対して理由を附して通知する。この場合、投稿料は返却する。

4.不採択の理由を不服とする場合には、プログラム委員会に対して再審査を申し立てることができる。

(採択後の変更・キャンセル)

1.採択後に筆頭著者あるいは発表者および発表タイトルを変更することは原則として認めない。やむを得ない変更・訂正がある場合は早急に大会事務局まで連絡すること。

2.病気等やむを得ない事情で発表をキャンセルする場合は、速やかに大会事務局に連絡すること。投稿料の決済後に発表がキャンセルとなった場合には、投稿料は返却しない。

3.発表日時の変更や発表形態の変更は、プログラム委員会とコンビーナが必要と判断した場合以外には認められない。

(発表時間)

1.口頭セッションでの発表時間は、原則として1件当たり15分（質問時間を含む）とする。

Science Section	No	Name	editor	Field	Affiliation	Email
Space and Planetary Sciences	*1	Patrick Michel			Observatoire de la Cote D'Azur	michel@oca.eu
	*2	Lin-Ni Hau			National Central University, Taiwan	
	*3	Noriko Kita	○	Planetary Science	University of Wisconsin	noriko@geology.wisc.edu
	*4	Kevin Hamilton		大気・海洋関係	University of Hawaii, Department of Meteorology and International Pacific Research Center	kph@hawaii.edu
Atmospheric and Hydrospheric Sciences	*5	Mark Green		降水・雪氷関係	Plymouth State University, Center for the Environment	mbgr.eep@plymouth.edu
	*6	RB Singh		geography	University of Delhi	rbsggeo1@yahoo.com
Human Geosciences	*7	Mike Meadows		geomorphology	Department of Environmental & Geographical Science, South Lane	mmeadows@web.co.za
	*8	Fenlin Niu		Seismology	Rice Univ.	
Solid Earth Sciences	*9	Paul Tackley		Geodynamics	ETH Zurich	keken@umich.edu
	*10	Peter Van Keken		Geodynamics	Department of Earth and Environmental Sciences University of Michigan	
	*11	James B. Gill		Geochemistry/petrology	UC Santa Cruz	
	*12	Colin J.N. Wilson		Volcanology	Univ. Victoria	
	*13	Craig R. Bina		Geodynamics	Northwestern Univ.	
	*14	Dave Rubie		Mineral physics	BGI	
	*15	Bjorn Mysen		Mineralogy	Geophysical Laboratory Carnegie Institute of Washington	
	*16	Shun Karato		Geodynamics	Yale University	shun-ichiro.karato@yale.edu
Biogeosciences	*17	Joseph Kirschvink		Geology, Paleo-biology	California Technology University, USA	kirschvink@caltech.edu
	*18	William M. IrvineGoddard		Astrobiology	University of Massachusetts	irvine@astro.umass.edu
Cross-section	*19	Heiko Palike		Paleoceanography	University of Southampton	heiko@noc.soton.ac.uk
	*20	Junko Habu		Archaeology	University of California, Berkeley	habu@berkeley.edu

Science Society	No	Name	editor	Field	Affiliation	Email
日本宇宙生物科学会	1	小林憲正	○幹	アストロバイオロジー	横浜国立大学大学院工学研究院	kkensei@ynu.ac.jp
	2	井上源喜		環境動態解析	大妻女子大学	genki@otsuma.ac.jp
日本温泉科学会	3	日比谷紀之			東京大学大学院理学系研究科	hibiya@eps.s.u-tokyo.ac.jp
	4	中田節也	○		東京大学地震研究所	nakada@eri.u-tokyo.ac.jp
日本火山学会	5	宮内崇裕		活断層 備考参照→	千葉大学大学院理学研究科	tniya@faculty.chiba-u.jp
	6	佐藤正樹			東京大学大気海洋研究所	sato@ori.u-tokyo.ac.jp
日本鉱物科学会	7	大谷栄治	○	鉱物学、高圧地球物理学	東北大学大学院理学研究科地球科学専攻	ohtani@mail.tains.tohoku.ac.jp
	8	平島崇男		○保留	京都大学大学院理学研究科	hirajima@kueps.kyoto-u.ac.jp
日本古生物学会	9	遠藤一佳			東京大学大学院理学系研究科	endo@eps.s.u-tokyo.ac.jp
	10	渡辺 寧		鉱床学	産業技術総合研究所	y-watanabe@aist.go.jp
資源地質学会	11	加藤照之	幹		東京大学地震研究所	teru@eri.u-tokyo.ac.jp
	12	小原一成	○		東京大学地震研究所	obara@eri.u-tokyo.ac.jp
日本地震学会	13	川勝均	○		東京大学地震研究所	hitosi@eri.u-tokyo.ac.jp
	14	杉田 文			千葉商科大学	fsugita@cuc.ac.jp
日本水文科学会	15	小林憲正		アストロバイオロジー	横浜国立大学大学院工学研究院	kkensei@ynu.ac.jp
	16	呉玉裕二		雪氷学	国立極地研究所	kodama.yuji@nipr.ac.jp
日本測地学会	17	渋谷和雄		測地学、リモートセンシング	国立極地研究所	shibuya@nipr.ac.jp
	18	金谷有剛			海洋研究開発機構地球環境変動領域	yugo@jamstec.go.jp
日本第四紀学会	19	地原 研		堆積学	産業技術総合研究所地質情報研究部門	k-ikehara@aist.go.jp
	20	多田隆治	○幹	古気候、古海洋、堆積学	東京大学大学院理学系研究科	ryuji@eps.s.u-tokyo.ac.jp
地球環境史学会	21	川瀬穂高	○幹	地質学、地球化学、ハロゲン	東京大学大気海洋研究所	kawahata@ori.u-tokyo.ac.jp
	22	清水久芳	○	地球内部電磁気学	東京大学 生存圏研究所	shimizu@eri.u-tokyo.ac.jp
地球電磁気・地球惑星学会	23	山本 衛	○	超高層物理学	京都大学	yanamoto@ish.kyoto-u.ac.jp
	24	長妻 葵	○幹	太陽地球系	情報通信研究機構	tnagatsu@nict.go.jp
日本地質学会	25	井龍康文	幹	サンゴ、地質学、古生物学	東北大学大学院理学研究科地球科学専攻	iryu@im.tohoku.ac.jp
	26	サイモン・ウォリス	○		名古屋大学大学院環境学研究所	simon.wallis@embox.nagoya-u.ac.jp
東京地学協会	27	三ヶ田 均	○		京都大学	mikada@mac.com
	28	三ヶ田 均			京都大学	mikada@mac.com
物理探査学会	29	中島 孝			筑波大学情報理工学部情報科学科	nkjm@yoyogi.ycc.u-tokai.ac.jp
	30	村山 祐司	○		筑波大学大学院生命環境科学研究科	mura1@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
地情情報システム学会	31	大竹真紀子	○	月観測データ	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所本部	ohtake.makiko@jaxa.jp
	32	松本淳	セクション編集委員長		首都大学東京大学院都市環境科学研究科	jun@center.tmu.ac.jp
地球人間圏科学セクション推薦6/18	33	千木良雅弘			京都大学防災研究所	chigira@slope.dpri.kyoto-u.ac.jp
	34	近藤昭彦			千葉大学環境リモートセンシング研究センター	kondoh@faculty.chiba-u.jp

平成25年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費)交付申請書
独立行政法人

日本学術振興会理事長 殿

平成25年 6月 6日

申請団体所在地	〒 113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階		
フリガナ 申請団体名称	コウエキシヤダンホウジン ニホンチキユウワクセイカガクレンゴウ 公益社団法人 日本地球惑星科学連合		
フリガナ 代表者 職名・氏名	カイチョウ ツダ トシタカ 会長 津田 敏隆	印	

下記刊行物の刊行事業について、別紙調達に関するルールの整備状況・著作権ポリシーの整備状況(様式A-52-8別紙)を添えて科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費)国際情報発信強化の交付を申請します。

課題番号	補助金(交付予定)額	応募区分(下記①～③のうち該当するものを○で囲むこと。)	
254001	31,400,000 円	①国際情報発信強化(A) ②国際情報発信強化(B) ③オープンアクセス刊行支援	
種別(下記①～②のうち該当するものを○で囲むこと。)			
①種別Ⅰ(英文率100%) ②種別Ⅱ(英文率100%未満)			
取組の 名 称	地球惑星科学に関する学術研究のオープンアクセス電子媒体刊行による国際情報発信の取組		
学術刊行物の 名 称	Progress in Earth and Planetary Science		
取組の 目的・ 内容	公益社団法人日本地球惑星科学連合(JpGU)は、参加49学協会連合体と連携して、新規「オープン・アクセス(OA)電子ジャーナル、Progress in Earth and Planetary Science」を刊行します。ジャーナルの発刊の意義は、「日本のコミュニティとして学問の自由・独立」の確立です。影響力のあるジャーナルを発行することが、そのコミュニティの力と一般的に評価されます。将来構想に関しては、JpGUがアジア・オセアニアを拠点とする世界の中の一つの基軸となることを目指すと宣言します。JpGUはAGU(American Geophysical Union: 米国地球物理連合), EGU(European Geosciences Union: ヨーロッパ地球科学連合), AOGS(Asia Oceania Geosciences Society: アジア・オセアニア地球科学協会)とも協定を結んで、協力関係を築いてきました。ジャーナルの発行は、JpGUが世界の重要なプレーヤーとして役割を担える発展の重要なステップとなります。世界五大陸に拠点をもち海外流通を得意とする出版社と組んで創刊するOA電子ジャーナルは、この分野で世界のトップクラスのジャーナルの一角を担い、日本学術振興会の補助なしに「独り立ち」できるまで成長したいと計画しています。		
	この事業でJpGUが創刊するジャーナルは「オープン・アクセス(OA)電子ジャーナル」です。創刊は2014年1月を予定しています。掲載する論文のカテゴリに関しては、①地球惑星科学の知識などを整理したレビュー(総論)、②連合大会の多角的・統合的な成果の発表の中から優秀な発表を文字媒体としたもの、③海外の質の高い原稿、の三点が特徴です。質の高い原稿を集めるため、現在連合大会参加者出身国は31にのびますが、海外からの投稿も増えるよう提携出版社と戦略を練り、魅了あるジャーナルとしたいと考えております。本事業では2つの委員会を設置します:1)ジャーナル企画運営委員会(ジャーナルの中長期経営戦略(企画, 財政, 方針など), 既存学会誌との協調・発展)と2)ジャーナル編集委員会(通常原稿受付, 査読審査, 受理, 出版)です。 数値目標については、創刊から3年後の時点で、レビュー論文数が総論分数の20%程度、地球惑星科学の分野でのジャーナルランキングにおいて上位25%をめざします。IF(インパクト・ファクター)に関しては、この分野でメジャーな国際出版会社からのジャーナルでも高いクラスのIF2.5以上を目指します。IFの数字が与えられる以前の期間は、創刊ジャーナルにとっては助走期間と言えます。この期間は外国の創刊ジャーナルにおいても掲載論文数の増加はゆるやかで、本創刊ジャーナルも同様であると予想しています。		

平成25年度所要経費	31,400,000 円
内 訳	
(1) 当該学術刊行物にかかる電子出版関連経費	1,500,000 円
(2) 当該学術刊行物の実務編集者の人件費	3,000,000 円
(3) 当該学術刊行物の編集委員の補助業務人件費	4,000,000 円
(4) 当該学術刊行物の実務関係の消耗品・借料費	2,000,000 円
(5) 編集委員会開催に係る旅費・謝金・会議費	2,600,000 円
(6) 編集会開催に係る海外委員の旅費	2,600,000 円
(7) ジャーナル運営委員会開催に係る旅費・会議費	1,600,000 円
(8) 当該学術刊行物の査読に対する謝金等	1,000,000 円
(9) 当該学術刊行物の欧文校閲費用	2,300,000 円
(10) 特別セッション推進の加速経費	2,900,000 円
(11) 情報発信・引用促進の加速費	2,900,000 円
(12) 広告・宣伝費	4,200,000 円
(13) 当該学術刊行物の実務関係の備品費	800,000 円
(14)	円
(15)	円
(16)	円
(17)	円
(18)	円
(19)	円
(20)	円
(21)	円
(22)	円
(23)	円
(24)	円
(25)	円

科学研究費補助金(研究成果公開促進費)

検討, 準備, アイデア・コメント等含めて,

どうもありがとうございます。

会計上のトラブルなく, 気を抜かず「ジャーナル発刊にたどりつき, 事業の発展していきたいと思います」。

津田会長, 6月ニュース巻頭言より

さて、JpGUが独自にオープンアクセスの電子ジャーナルを発行すべく準備を進めて参りましたが、その動きに弾みが付く慶事がありました。かねてより応募していただきましたJSPSの研究成果公開促進費「国際情報発信強化」について、本年度から5ヶ年にわたり予算措置されるという採択通知が連合大会直前の5月17日に届きました。

この予算獲得がひとつの峠だったので、連合大会には関係者が笑顔で集いました。しかし、峠を登っている時には良く見えていなかった次に目指すべき峰の高さと険しさが目の当たりとなり、歩を緩めずに着実に前進すべく覚悟を新たにしています。

JpGU参加学協会総てのご協力を基礎に、全会員の財産として新ジャーナル“Progress in Earth and Planetary Science”を育てていきたいと考えています。是非とも、会員諸氏がバラストと思われる研究成果をご投稿下さることをお願いします。

ジャーナル関係

○科研費採択

2012年11月13日 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)提案書提出

2013年 4月23日 日本学術振興会ヒアリング

2013年 5月17日 採択通知

(2013年10月2日にJpGU参加49学協会長会議が開催されました。この会議で、「49学協会長との共同提案である」と決議されました。これは今回の科学研究費補助金の提案で大きな特徴となりました。どうもありがとうございました。)

2013年 6月 5日 交付申請書提出

EPS後継も科学研究費補助金(研究成果公開促進費)採択。

EPS運営委員会議長とは、緊密な連絡をとりあってきた。

入札関係

第一次入札

4月5-19日

SPRINGERのみ応札

第二次入札

6月6-19日

平成25年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金(研究開発費・採択状況))

「国際情報発信強化」新規応募・採択状況

(単位:件)

	応募件数	採択件数	採択率 (%)
国際情報発信強化(A)	28	11	39.3%
国際情報発信強化(B)	81	39	48.1%
オープンアクセス刊行支援	6	3	50.0%
合 計	115	53	46.1%

○論文投稿開始、編集スケジュール

=====

日本地球惑星科学連合のジャーナル「Progress in Earth and Planetary Science」の概要

=====

JpGUの新しい「オープン・アクセス・e-ジャーナル(Open Access e-journal)」が2014年1月に創刊となります！！

今夏投稿受付開始です！地球惑星科学をリードする雑誌を出版します。
ジャーナルの構成は、総論(レビュー)、優秀論文(連合大会の発表の中からセッション長が推薦し、投稿可)、一般投稿となります。

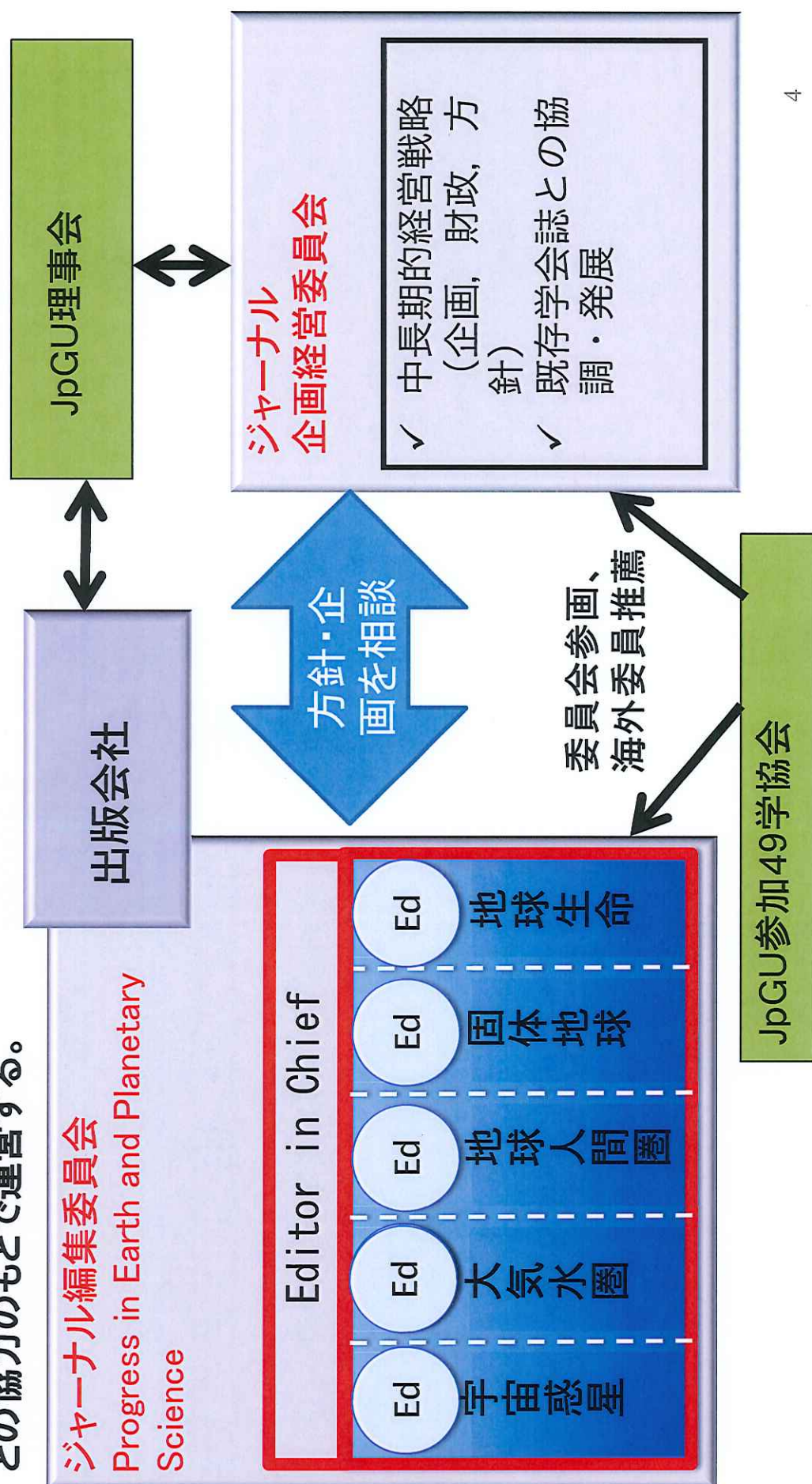
ジャーナル企画経営委員会＋編集委員会(50%は海外編集委員)がJpGU理事会、参加49学協会、出版社と協力して、ジャーナルを運営します。

原稿の受付開始は2013年夏期(たぶん8月)となると予想されます。その理由は、現在、第二次入札広告期間中(6月19日締め切り)後、出版社と契約交渉を開始し、契約が7月になると考えられるからです。法的な拘束力を伴うので、契約の後でないと公式な発表はできません。→Springerに決定。契約交渉開始します。
最終的な編集委員、論文投稿にかかる最終的な値段設定についても7月に決定されます。決定され次第、参加49学会にはニュースでの配信、海外向けにはAGU、EGUなどの、広告を掲載するつもりです。

(たぶん、2014年は論文数60以上、900ページ以上となると予想しています。)
皆様の研究成果の積極的投稿をお願い致します！

【ジャーナル出版体制】

- ✓ 2014年創刊を目指して出版事業を開始。
- ✓ 海外5大陸に営業拠点をもつ出版会社と契約を進めた。**(最新情報: 第二次入札の結果、OA電子ジャーナルでトップである Springer 社に内定)**
- ✓ 企画経営と編集を司る2つの委員会を設置し、JpGU理事会およびJpGU参加49学協会との協力のもとで運営する。



ジャーナル企画経営拡大委員会(案)(開催年2回程度) (拡大=図中赤枠の範囲)

ジャーナル企画経営委員会(案)(随時開催)

(青枠範囲)

委員長(川幡穂高)

JpGU会長(津田敏隆)

3JpGU副会長(木村 学, 中村正人)

必要ならJpGUより一人

総編集委員長

3編集長

1-2ジャーナルに詳しい関係者

5JpGUセクションプレジデント

2JpGU参加学会でジャーナルに詳しい有識者

2外部有識者(林様, 他学会)

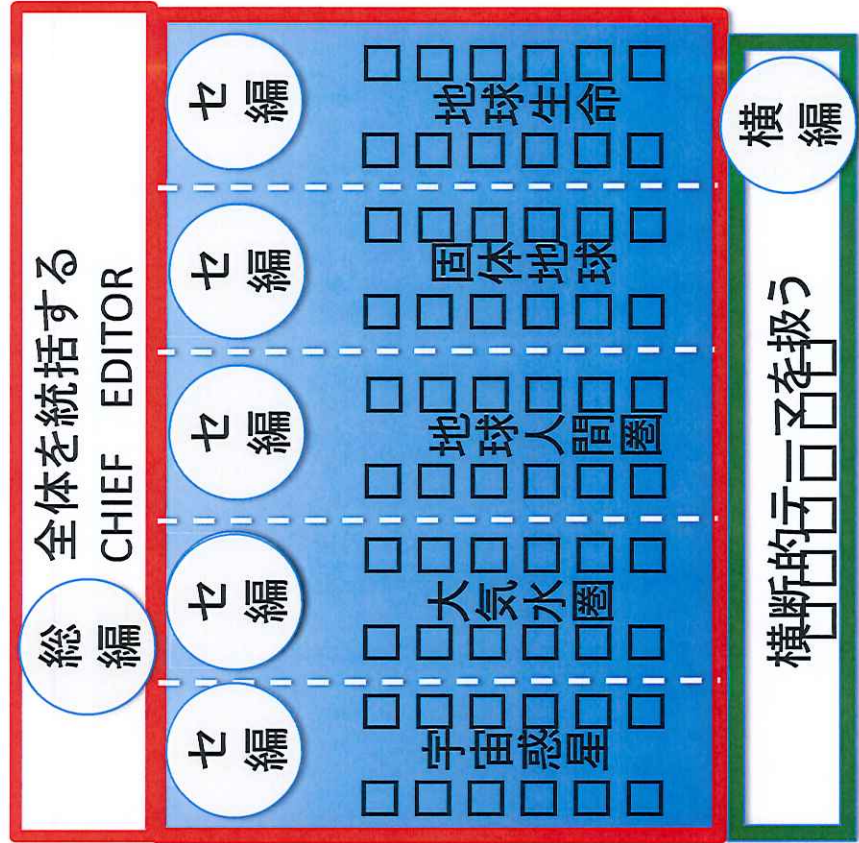
1出版会社(Springer)

2012年7月から2年間で論文が増えてきたら構造改変)

編集長候補

(プレジデントとも含めて、協議完了していない案も含みます)

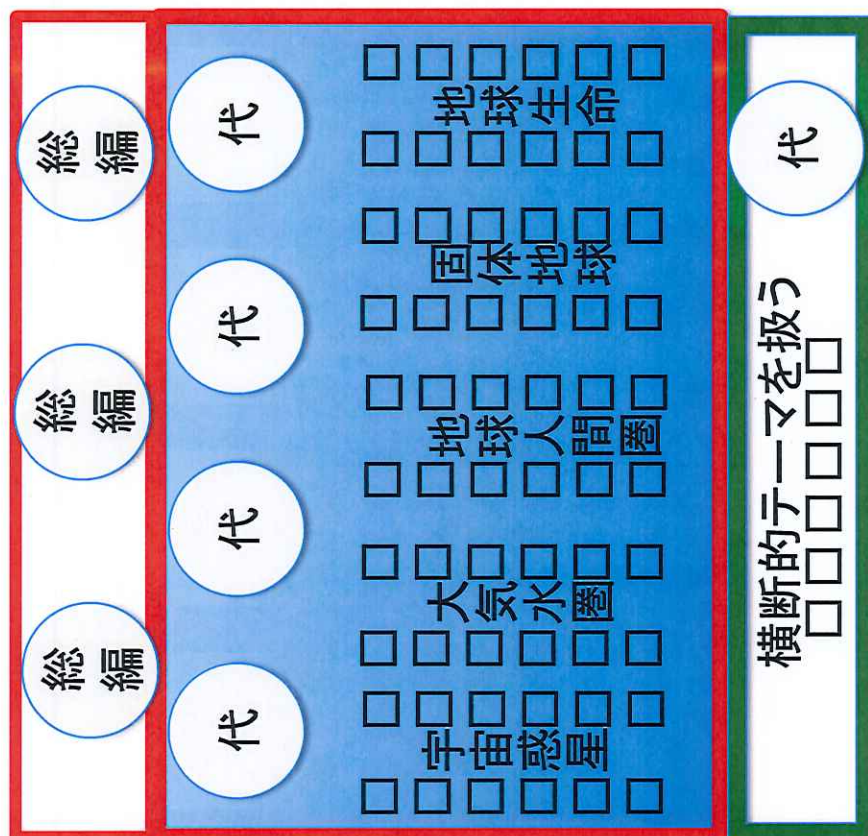
- 総合編集長候補
(井龍康文, 北里 洋??)
- 編集長候補
小原一成(固体地球科学)
佐藤正樹(大気水圏科学)
松本 淳(地球人間圏科学)
川幡穂高(地球生命科学)
多田隆治(横断)
佐々木?(宇宙惑星科学)



- 総編
- セ編
- 総編集長
- セクション編集長
- 編集委員(約50名)

たぶん, 60-100本/50人=1から2本/年
Reject率があがると多くなる.

2014年あるいは2015年から
 (論文増えてきたら構造改変)
 編集長3人, 代表5名程度
 (最初の2年間, 論文増えてきたら構造改変)



投稿数が増えたと総編集長を多く
 する必要あり

2-3年経つと, ジャーナルをよく
 知る先生が退職する.



投稿料金(案未定)

ジャーナル企画経営拡大委員会で議論・決定

- 最初の2年間
招待論文(著者負担0%, JpGU支援100%)
Review論文(著者負担0%, JpGU支援100%)
優秀論文(著者負担0%, JpGU支援100%)
(セッション長の推薦必要)
- 最初の2年間
会員一般投稿論文(著者負担40%, JpGU支援60%)
非会員一般投稿論文(著者負担80%, JpGU支援20%)

2013年予定(最低60本)(2013.8月-2014.9月受付)

著名科学者による論文 候補:5つ

金森先生

真鍋先生

ほか3名

有力(=有名, 言葉使い注意)科学者 候補:約10
各々のセッションより平均2名程度x5

Review articles 候補:約10

すでにIODP(統合国際深海掘削計画)関連で, 10論文執筆進行中

セッション優秀論文2013年大会分 候補:約10

その他 候補:約25

2015年予定(最低60+α本)(2014.10月-2015.9月受付)

特別国際セッション2013年度開催による論文 候補:20つ

5*(海外研究者*2+国内コンビンナー*2)

→本年度はすでに連合大会終了しているので、セッション主導で特別国際セッションを今年度開催していただけたらと考えます

特別国際セッション2014年度開催による論文 候補:20つ

5*(海外研究者*2+国内コンビンナー*2)

→2014年は連合大会時に特別国際セッション提案を募集し、審議の上、開催できたら考えます

Review articles 候補:約10

横申関連で、10論文執筆依頼中

セッション優秀論文2013年大会分 候補:約10

その他 候補:約20

平成 25 年度 代議員選挙・セクションプレジデント選挙 役員選出

■主なスケジュール

日程			行事	選挙管理委員会
7 月	上旬			委員会メンバー依頼
8 月	1 日	木		選挙委員会立ち上げ、代議員定数確定
	初		代議員選挙公示	
	中旬		代議員立候補受付開始	
9 月	中旬		代議員立候補受付締切	
	下旬		代議員選挙投票開始	
10 月	下旬		代議員選挙投票締切	
11 月	初		代議員選挙開票結果公開	
	〃		セクションプレジデント選挙公示	
	上旬		セクションプレジデント選挙候補者受付開始	
	中旬		セクションプレジデント選挙候補者受付締切	
	下旬		セクションプレジデント選挙投票開始	
12 月	中旬		セクションプレジデント選挙投票締切	
	20 日	金	セクションプレジデント選挙開票結果公開	
1 月～3 月			役員候補者推薦委員会にて 理事（20 名）、監事（2 名）候補者名簿・議事録作成	
4 月	30 日	水	平成 26 年度定時社員総会 役員候補者推薦委員会へ候補者名簿・議事録提出 理事、監事の承認	
5 月	1 日	木	新理事会 会長、副会長（3 名以内）選定	

■選挙管理委員会 の立ち上げ

（これまでの委員会メンバー）

平成 23 年度選挙管理委員会

委員長 坪本裕之

委員 市原美恵、篠原雅尚、砂村倫成、高木征弘、橘 省吾

平成 21 年度選挙管理委員会

委員長 市原美恵

委員 坪本裕之、篠原雅尚、砂村倫成、高木征弘、橘 省吾

■役員候補者推薦委員会（5/22 社員総会にて承認済み）

平成 25 年度 役員候補者推薦委員会

津田敏隆、川幡穂高、木村学、中村正人、畠山正恒、大村善治、

中島映至、氷見山幸夫、大谷栄治、北里洋

Program Committee members for AOGS 2014

Planetary Sciences (PS)

Tatsuaki Okada

Institute of Space and Astronautical Science,

Japan Aerospace Exploration Agency President of Japan

Space and Planetary Sciences Section of Japan Geoscience Union

Solar-Terrestrial Sciences (ST)

Yoshifumi Saito

Solar System Science Division, Institute of Space and Astronautical Science,

Japan Aerospace Exploration Agency

Space and Planetary Sciences Section of Japan Geoscience Union

Atmospheric Sciences (AS)

Shigeo Yoden

Division of Earth and Planetary Sciences, Graduate School of Science, Kyoto University

Atmospheric and Hydrospheric Sciences Section of Japan Geoscience Union

Hydrological Sciences (HS)

Kazuhisa Chikita

Department of Natural History Sciences, Faculty of Science, Hokkaido University

Atmospheric and Hydrospheric Sciences Section of Japan Geoscience Union

Ocean Sciences (OS)

Masanori Konda

Graduate School of Science, Kyoto University

Solid Earth Sciences (SE)

Kousuke Heki

Department of Natural History Sciences, Faculty of Science, Hokkaido University

Solid Earth Sciences Section of Japan Geoscience Union

Biogeosciences (BG)

Masanobu Yamamoto

Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University

Biogeosciences Section of Japan Geoscience Union

Interdisciplinary Sciences (IS)

Takashi Oguchi

Center for Spatial Information Science, The University of Tokyo

Human Geosciences Section of Japan Geoscience Union

The Local Advisory Committee (LAC) for AOGS 2014

Chair

Toshitaika Tsuda
Kyoto University
President of Japan Geoscience Union(JpGU)

Members

Gaku Kimura
The University of Tokyo
Vice President of JpGU

Hodaka Kawahata
The University of Tokyo
Vice President of Japan Geoscience Union(JpGU)

Masato Nakamura
Institute of Space and Astronautical Science of Japan Aerospace Exploration Agency
Vice President of Japan Geoscience Union(JpGU)

Teruyuki Kato
The University of Tokyo
Committee for International Affairs of Japan Geoscience Union(JpGU)

Simon Wallis
Nagoya University
Committee for International Affairs of Japan Geoscience Union(JpGU)

Eiji Ohtani
Tohoku University
Section President (Solid Earth Sciences) of Japan Geoscience Union(JpGU)

Hiroshi Kitazato
Japan Agency for Marine–Earth Science and Technology
Section President (Biogeosciences) of Japan Geoscience Union(JpGU)
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Teruyuki Nakajima
The University of Tokyo
Section President (Atmospheric and Hydrospheric Sciences) of Japan Geoscience Union(JpGU)
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Yoshiharu Omura
Kyoto University
Section President (Space and Planetary Sciences) of Japan Geoscience Union(JpGU)

Yukio Himiyama
Hokkaido University of Education
Section President (Human Geosciences) of Japan Geoscience Union(JpGU)
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Hiroko Nagahara
The University of Tokyo
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Junichiro Kawaguchi
Institute of Space and Astronautical Science of Japan Aerospace Exploration Agency
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Shuhei Okubo
The University of Tokyo
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Tetsuzo Yasunari
Nagoya University
Council Member of Science Council of Japan(SCJ)

Shigeto Watanabe
Hokkaido University
Chair of Local Organizing Committee of AOGS2014

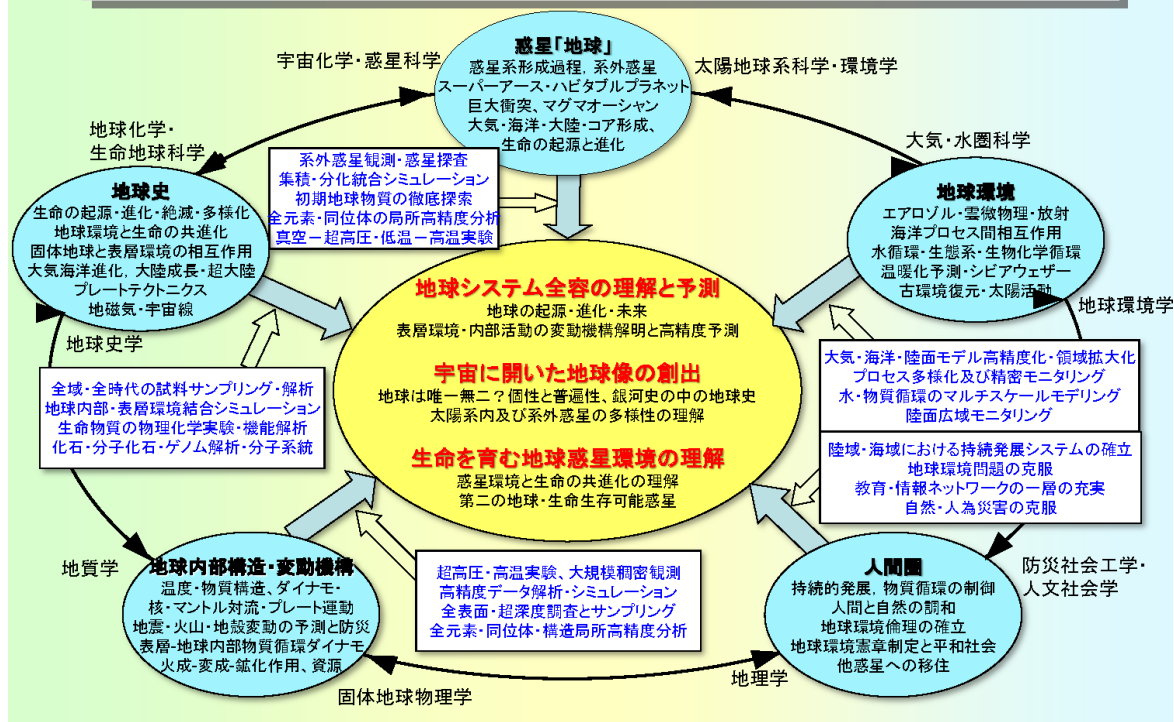
Toshiyuki Hibiya
The University of Tokyo
AOGS member

Takehiko Satoh
Institute of Space and Astronautical Science, Japan Aerospace Exploration Agency
AOGS member

2013年大会国際セッション一覧 (開催180中42セッション)

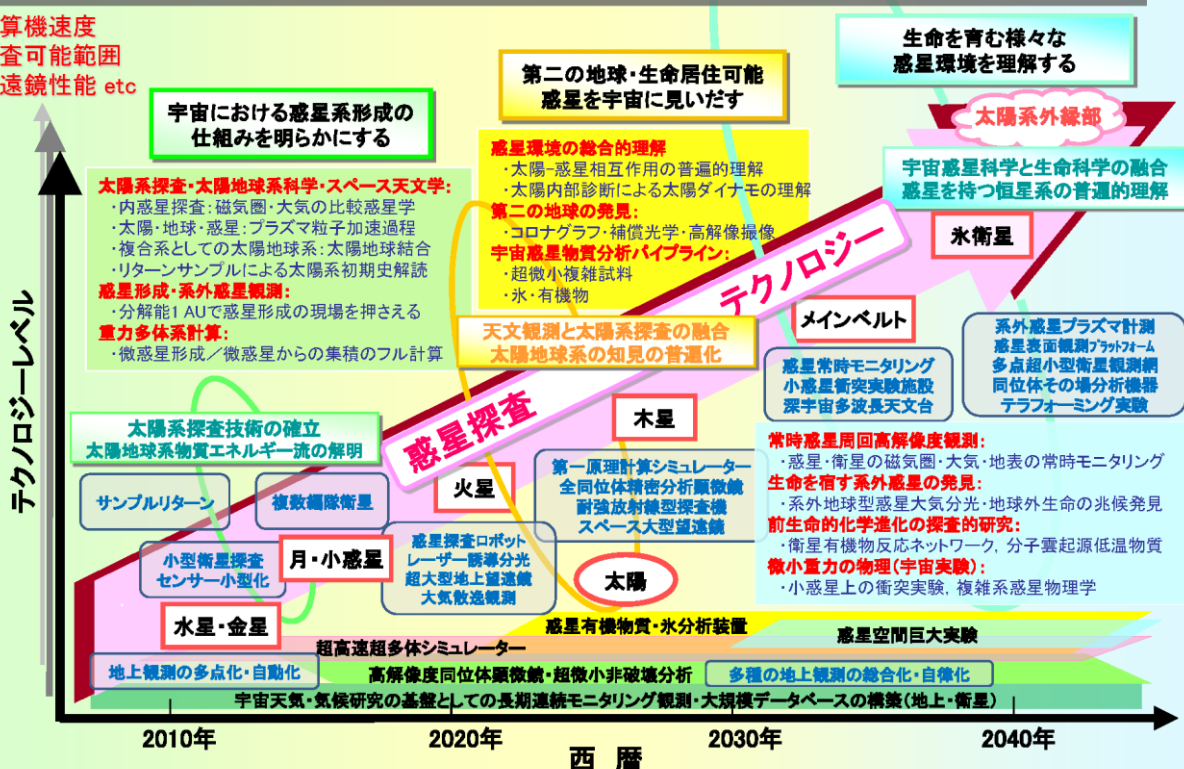
session No.	コナー	session title
U-01	山本 静夫 Jack A. Kaye	International Cooperation in Earth Planetary Science Project – Centering on NASA-JAXA Joint Proj
U-02	小池 俊雄	Global Data Sciences in the Big Data Era
P-PS01	木村 淳	Toward future explorations of outer solar system
P-PS02	木村 真	Planetary processes from meteorites and experimental works
P-PS03	BARKIN, Yury	Rotational motion and inner dynamics of the Earth, Mars and Moon
P-PS04	佐藤 毅彦	Mars
P-EM05	海老原 祐輔	Space Weather
P-EM06	LIU, Huixin	Mesosphere-Thermosphere-Ionosphere Coupling
P-EM07	SUMMERS, Danny	Earth's Dynamical Inner Magnetosphere
P-EM08	齊藤 昭則	Space-borne imaging observation of the upper atmosphere
P-EM09	佐藤 光輝	Lightning, TLEs and their Atmospheric Effects
P-CG10	斎藤 義文	Instrumentation for space science
A-AS01	和田 章義	Toward Understanding of interactions between Tropical Cyclones
A-HW02	松本 淳	Hydroclimate in Asian monsoon region
A-CC03	GROISMAN, Pavel	Changes in Northern Eurasia and the Arctic: Their feedbacks to the Globe
A-GE04	斎藤 広隆	Subsurface Mass Transport and Environmental Assessment
A-CG05	東塚 知己	Multi-scale ocean-atmosphere interaction in the tropics
A-CG06	山敷 庸亮	Continental-Oceanic Mutual Interaction: Global-scale Material Circulation through River Runoff
H-GG01	春山 成子	Global land Project
H-GG02	松島 肇	International comparison of landscape appreciation
H-GM03	島津 弘	Geomorphology
H-SC04	氷見山 幸夫	International Human Dimensions Programme
H-DS05	SANTIAGO-FANDINO	Coastal Restoration in Post Tsunami Events: Environmental Effects and Sustainability
H-DS06	千木良 雅弘	Landslides and related phenomena
H-DS07	宝田 晋治	Global earthquake and volcanic eruption risks in Asia-Pacific region (G-EVER)
H-DS08	PETROVA, ELENA	Natural hazard impact on technological systems and urban areas
H-TT09	小口 高	GIS
S-SS01	小平 秀一	Slip to the Trench in Megathrust Earthquakes
S-SS02	平田 直	Earthquake predictability research after the 2011 Tohoku earthquake
S-IT03	田中 聡	Earth and Planetary Cores Seen from Multi-disciplinary Approaches
S-IT04	亀山 真典	Mineral physics and dynamics of deep planetary interiors
S-IT05	森下 知晃	Origin, evolution, and destruction of oceanic plate
S-IT06	岩森 光	Geofluids and their roles in dynamics of the Earth's interior
S-CG07	UR REHMAN, Hafiz	Collision, Subduction, and Metamorphic processes
S-CG08	川勝 均	Geodynamics of off-arc volcanism and back-arc opening
S-CG09	大谷 栄治	Deep Carbon Cycle
S-CG10	田村 芳彦	Evolution of continental crust and Project IBM
B-AO01	小林 憲正	Astrobiology: Origins, Evolution, Distribution of Life
B-PO02	北里 洋	Biocalcification and the geochemistry of proxies
M-IS01	芳原 容英	Atmospheric Electricity
M-SD03	近藤 裕昭	Activity of GEO task "Integrated Global Carbon Observation and Analysis System (CL-02)" in Japan
M-SD04	宮岡 宏	New atmospheric and geospace science opened by EISCAT_3D

理学・工学分野の科学・夢ロードマップ 地球惑星科学分野 概要



1. 宇宙惑星科学 究極の探査・観測・分析が切り拓く宇宙惑星科学

計算機速度
探査可能範囲
望遠鏡性能 etc



2. 大気海洋・環境科学 基礎過程の理解と気候予測および気候監視



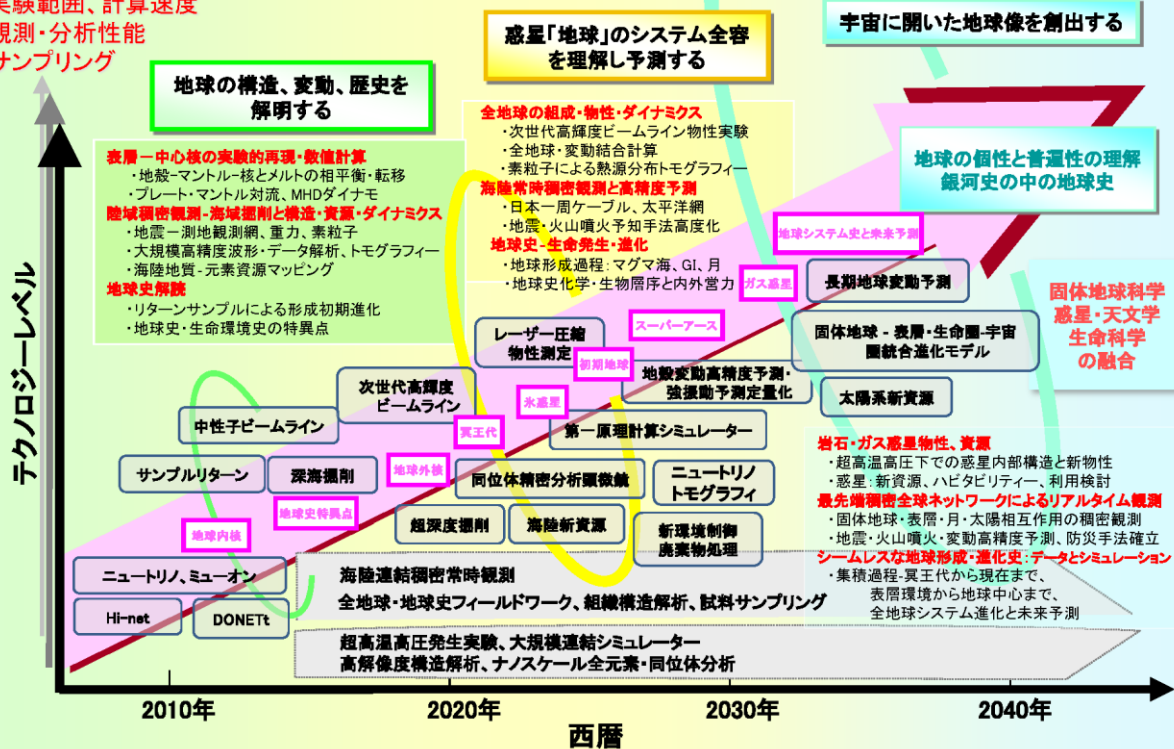
3. 地球人間圏科学 持続可能な日本, アジア, 世界の実現への道



4. 固体地球科学

稠密観測・極限実験・高感度分析が拓く固体地球科学

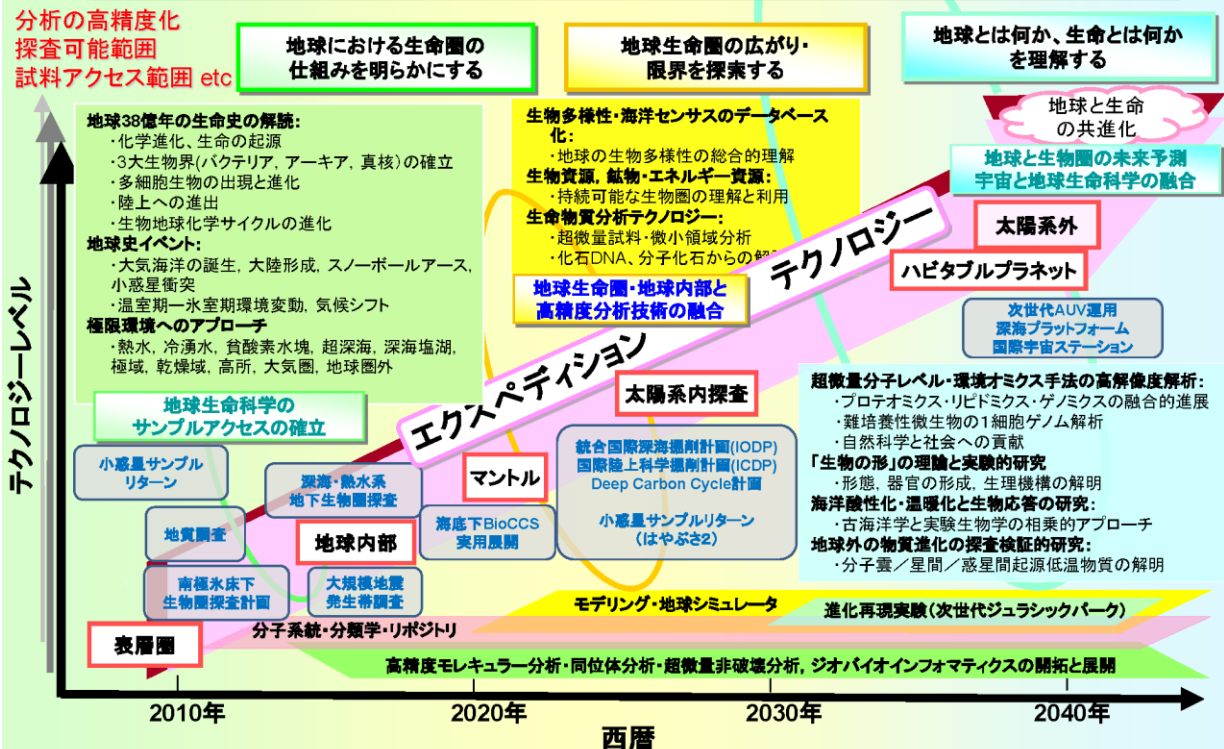
実験範囲、計算速度
観測・分析性能
サンプリング



5. 地球生命科学

次世代の探査・観測・分析が描く地球の生命像

分析の高精度化
探査可能範囲
試料アクセス範囲 etc



提 言

東日本大震災に係る学術調査
—課題と今後について—



平成25年（2013年）3月28日

日 本 学 術 会 議

東日本大震災に係る学術調査検討委員会

この提言は、日本学術会議東日本大震災に係る学術調査検討委員会の審議結果を取りまとめ公表するものである。

日本学術会議東日本大震災に係る学術調査検討委員会

委員長	岩澤 康裕	(連携会員)	電気通信大学燃料電池イノベーション研究センター長、特任教授
副委員長	山下 俊一	(第二部会員)	福島県立医科大学・副学長
幹事	秋田 喜代美	(第一部会員)	東京大学大学院教育学研究科教授
幹事	和田 章	(第三部会員)	東京工業大学名誉教授
	武市 正人	(第三部会員)	独立行政法人大学評価・学位授与機構教授
	碓井 照子	(第一部会員)	奈良大学文学部地理学科教授
	友枝 敏雄	(第一部会員)	大阪大学大学院人間科学研究科教授
	杉田 敦	(第一部会員)	法政大学法学部教授
	福田 裕穂	(第二部会員)	東京大学大学院理学系研究科教授
	鷺谷 いづみ	(第二部会員)	東京大学大学院農学生命科学研究科
	渡部 終五	(第二部会員)	北里大学海洋生命科学部教授、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授
	大久保 修平	(第三部会員)	東京大学地震研究所教授・高エネルギー素粒子地球物理学研究センター長
	平 朝彦	(連携会員)	独立行政法人海洋研究開発機構理事長
	濱田 政則	(連携会員)	早稲田大学理工学術院社会環境工学科教授
	矢川 元基	(連携会員)	東洋大学大学院工学研究科機能システム専攻教授

本件の作成に当たっては、以下の職員が事務を担当した。

事務	石原 祐志	参事官(審議第二担当)
	齋田 豊	参事官(審議第二担当)付参事官補佐
	増永 俊一	参事官(審議第二担当)付専門職
	片桐 悠志	参事官(審議第二担当)付専門職付

調査	三石 祥子	上席学術調査員
----	-------	---------

要 旨

1 作成の背景

東日本大震災(東京電力福島第一原子力発電所の事故及びそれによる被害を含む。)に関しては、多くの学協会や大学、研究開発型独立行政法人などが、声明や提言の発表、講演会・シンポジウム、学術調査、ボランティアの派遣、研究テーマとしての取り組みなどの様々な活動を実施している。

東日本大震災復興対策本部が定めた「東日本大震災からの復興の基本方針」においては、「震災に関する学術調査、災害の記録と伝承」の必要性が述べられており、これを受け日本学術会議では、大地震、大津波、原子力発電所事故を含む近代史上未曾有の複合的災害である東日本大震災に関する学術調査を総括する準備に入った。また、平成 23 年 8 月 29 日に文部科学省研究振興局長より、「震災に関する学術調査の実施に関する審議について」の検討依頼を受けたことも踏まえて、日本学術会議は、東日本大震災に関する学術調査の全容を把握し、「大震災における学術の活動」として整理し、公表することを目的として、同年 9 月 1 日に「東日本大震災に係る学術調査検討委員会」を幹事会の下に設置した。

2 調査結果のとりまとめと課題

日本学術会議東日本大震災に係る学術調査検討委員会は、協力学術研究団体を対象に、平成 24 年 10 月 16 日から 11 月 30 日にかけて「東日本大震災にかかわる協力学術研究団体の活動の調査<第 2 回>」を実施し、調査結果を下記の 6 つの視点から取りまとめた。

- ・学術調査が(複数)入ることの弊害、調査する側の倫理
- ・現時点で調査が不足している事項
- ・長期的に調査を行うべき事項
- ・学協会による連携の重要性
- ・アーカイブの重要性
- ・東日本大震災から得られた教訓と課題

3 提言及び文部科学省への回答

東日本大震災に関する総合的な学術調査の推進のために、以下の 6 項目を提言するとともに、提言の一部を文部科学省に対して回答する。

提言 1 学協会、大学等は、災害に関する学術調査を実施することを想定し、事前に災害時の学術調査に関する指針を策定しておくべきである。この指針の中には、被災者、被災自治体の側に立った倫理的な規範、学術調査に関する様々な情報・データを集約し、公表するシステム及び学術調査結果を社会に還元するシステムが含まれている必要がある。

提言 2 学術界は、災害時に重複した学術調査が行われ、被災者や被災自治体の過度の負担とならないように、災害時に実施されている学術調査の概要を把握し、公表できるようなシステム・制度を準備しておくべきである。将来の防災・減災政策に役立つ情報を纏めるためには、被災地全域にわたる悉皆調査と統計的整理が必要であり、そのためにも、調査にあたる科学者全体の行動を調節する仕組みが必要である。

提言 3 被災地域・被災者及び被災乳幼児や障害者等社会的弱者に関する実態調査など、東日本大震災に関して実施すべき学術調査が多く残っているとともに、今後の災害対策、被害の軽減のための調査研究の推進が必要であり、政府はこれらの支援を引き続き進めるべきである。

提言 4 被災した企業や団体、学校等は、今後の災害対策、被害の軽減のために、学術調査に積極的に協力すべきである。

提言 5 学術界は、災害対応のための分野を越えた学協会連携の組織を平時から準備し、万一の災害発生時には学際的な学術調査を迅速に開始すべきであり、政府は、迅速な学術調査を支援すべきである。また、政府及び学術界は、様々な課題に対して学術の見解を迅速にとりまとめるシステムについて検討すべきである。

提言 6 災害時情報のデータを収集し、一元化することは、学術の振興のためにも、また、学術の成果を被災者、被災自治体を含む社会に還元するためにも重要であり、政府はそのための体制を平時より準備すべきである。また、このような集約された情報の解析に当たっては、長期的な取り組みと国際的な協力が重要であり、政府及び学術界は、そのための体制の整備を図るべきである。また、政府は、学術調査により得られた情報を一元化のために加工する際の支援を行うべきである。

目 次

1 はじめに.....	1
2 調査結果のとりまとめと課題.....	2
(1) 学術調査が(複数)入ることの弊害、調査する側の倫理.....	2
(2) 現時点で学術調査が不足している事項.....	2
(3) 長期的に学術調査を行うべき事項.....	4
(4) 学協会による連携の重要性.....	5
(5) アーカイブの重要性.....	6
(6) 東日本大震災から得られた教訓と課題.....	8
3. 文部科学省への回答.....	10
4. 提言.....	11
<参考資料 1> 東日本大震災に係る学術調査検討委員会審議経過.....	12
<参考資料 2> 文部科学省研究振興局長からの審議依頼文.....	13
<参考資料 3> アンケート票.....	14
<参考資料 4> 調査にご協力いただいた協力学術研究団体の活動状況.....	33

緊急声明

「日本版 NIH」構想における資源配分と人材育成プロセスへの懸念

2013 年 6 月 11 日

政府の「産業競争力会議」を中心として議論されている「日本版 NIH（仮称）」という構想につきまして、生命の真理を探究することをその学問理念の中心に据える生物科学連合に所属する諸学会（末尾参照）として、いくつかの懸念を感じています。国民の健康を支える医療を革新するための研究開発は国として重要な施策に位置づけられることは論を待たず、そのために省庁の枠を越えた研究費を設立することなどは大いに試されるべき構想と考えられます。一方で、4 月 23 日付けで公開されている「日本版 NIH の骨子」の資料を拝見するかぎりでは、その中味が必ずしも十分に検討されておらず、構想だけが一人歩きしているような感があります。このことは将来の学術、とりわけ生命科学の発展に大きな影響を与えるものと考えられ、我々はここに緊急声明を出し、以下のことを強く要望いたします。

1. 多様性をもつボトムアップ型の基礎研究の推進

研究者の自由な発想に基づくボトムアップ型の基礎研究は学問の根源を成すものであり、その芽を摘むことはむしろ、真のイノベーションを損なうものとなりかねない。本連合に所属する学会の学問分野が多岐にわたることからもわかるように、そこには多様性が必要であり、医療という出口を目指したものだけが基礎研究として支援されるようなことがあってはならない。

2. 研究を支える次世代の人材育成の推進

医療イノベーションに向けた研究開発のみを「日本版 NIH」で推進することになれば、具体的な成果に直結する研究が偏重されるようになり、自由で革新的な発想を抱く若手研究者を生み出し育むことができない。研究人材は持続的な育成が必要であり、さらに今後はよりいっそう学問分野の枠を越えた幅広い連携・融合が推進されるべきである。資源に乏しい我が国において、人材こそが国の礎であることは施策の中核におかれるべき柱である。

3. 真のイノベーションに繋がる適切な予算措置

「日本版 NIH（仮称）」では、内閣に推進本部を設置し、医療分野の研究開発関連予算を一元化し、戦略的・重点的に予算配分を行うとしている。しかしながら、現在でも米国に比べて予算規模が圧倒的に少ない日本において、医療分野に特化した研究開発を偏重することは、限られた資源配分方針に混乱を招き、学問の自由と未来を奪うことになる。例えば、科学研究費補助金（以下、科研費）は、研究者の自由な発想に基づくボトムアップ型の研究をサポートするほぼ唯一の公的研究資金であり、平成 25 年度を例にとれば、その額は、国の科学技術関係予算 3 兆 5752 億円の 6.5% 弱、2318 億円に過ぎないが、これによって支えられている研究者は 10 万人をはるかに越えている。このボトムアップ型の予算を削減し、国が目標を定めて研究の一元的管理を行う、いわゆる

トップダウン型研究を実施する日本版N I H（仮称）に予算を振り向けることにしてしまうと、国際的に見ても圧倒的に手薄い我が国のボトムアップ型研究支援がさらに劣化するとともに、次世代の多様な研究人材育成がおぼつかなくなる。

上記のような理由により、「日本版N I H（仮称）」構想に至った経緯について敬意を表するものの、「日本版N I H（仮称）」の設置における資源の配分と人材育成プロセスに強い懸念をここに表明し、関係者の皆様方に検討を要請する次第です。

生物科学学会連合 賛同加盟団体(27 団体)

個体群生態学会 会長 斎藤 隆
日本味と匂学会 会長 宮本 武典
日本遺伝学会 会長 遠藤 隆
日本宇宙生物科学会 会長 大西 武雄
一般社団法人日本解剖学会 理事長 河田 光博
日本細胞生物学会 会長 目加田英輔
日本時間生物学会 理事長 近藤 孝男
公益社団法人日本実験動物学会 理事長 八神 健一
公益社団法人日本植物学会 会長 戸部 博
日本植物生理学会 会長 町田 泰則
日本進化学会 会長 倉谷 滋
日本神経化学会 理事長 木山 博資
公益社団法人日本生化学会 会長 石川 冬木
日本生態学会 会長 松田 裕之
日本生物教育学会 会長 米澤 義彦
日本生物物理学会 会長 難波 啓一
一般社団法人日本生理学会 会長 栗原 敏
日本蛋白質科学会 会長 中村 春木
公益社団法人日本動物学会 会長 阿形 清和
日本発生生物学会 会長 阿形 清和
日本比較生理生化学会 会長 神崎 亮平
日本比較内分泌学会 会長 竹井 祥郎
日本微生物生態学会 会長 南澤 究
特定非営利活動法人日本分子生物学会 理事長 大隅 典子
特定非営利活動法人日本免疫学会 理事長 斎藤 隆
公益社団法人日本薬理学会 理事長 岩尾 洋
日本分類学会連合 代表 鶴崎 展巨
加盟団体(25 団体)
種生物学会 会長 川窪 伸光
地衣類研究会 会長 濱田 信夫

日本貝類学会 会長 大越 健嗣
日本魚類学会 会長 木村 清志
日本菌学会 会長 奥田 徹
日本蜘蛛学会 会長 宮下 直
日本珪藻学会 会長 真山 茂樹
日本原生動物学会 会長 今井 壯一
日本甲虫学会 会長 新里 達也
日本古生物学会 会長 間嶋 隆一
日本昆虫学会 会長 沼田 英治
日本シダ学会 会長 村上 哲明
日本植物分類学会 会長 角野 康郎
日本進化学会 会長 倉谷 滋
日本生物地理学会 会長 森中 定治
日本蘚苔類学会 会長 秋山 弘之
日本線虫学会 会長 水久保隆之
日本藻類学会 会長 田中 次郎
日本ダニ学会 会長 上遠野富士夫
日本地衣学会 会長 高橋 邦夫
日本動物分類学会 会長 松井 正文
日本土壤動物学会 会長 金子 信博
日本爬虫両生類学会 会長 松井 正文
日本プランクトン学会 会長 石丸 隆
日本哺乳類学会 理事長 梶 光一

オブザーバー賛同団体

自然史学会連合 代表 北里 洋

その他賛同団体

日本水産学会 会長 渡部 終五

マリンバイオテクノロジー学会 会長 渡部 終五

連絡先

生物科学学会連合 副代表 福田 裕穂

東京都文京区本郷 2-26-11 浜田ビル 5 階 中西印刷株式会社東京営業部内

TEL: 03-3816-0738 FAX: 03-3816-0766

E-mail: seikaren@nacos.com

第7回産業競争力会議提出資料

「日本版N I H」の骨子及び「一般社
団法人M E J（Medical Excellence
Japan）」の骨子

4月23日

内閣官房長官 菅義偉

「日本版N I H」の骨子

- 次の取組により、医療分野の研究開発の司令塔機能（「日本版N I H」）を創設するため、所要の法整備を行う。

一. 司令塔の本部として、内閣に、総理・担当大臣・関係閣僚からなる推進本部を設置する。

- 政治の強力なリーダーシップにより、①医療分野の研究開発に関する総合戦略を策定し、重点化すべき研究分野とその目標を決定するとともに、②同戦略の実施のために必要な、各省に計上されている医療分野の研究開発関連予算を一元化し（調整費など）、戦略的・重点的な予算配分を行う。

一. 一元的な研究管理の実務を担う中核組織を創設する。

- 総合戦略に基づき、個別の研究テーマの選定、研究の進捗管理、事後評価など、国として戦略的に行うべき実用化のための研究を基礎段階から一貫通貫で管理し、実務レベルの中核機能を果たす独立行政法人を設置する。

※ 独立行政法人の設置は、スクラップアンドビルド原則に基づき行うこととし、公的部門の肥大化は行わない。

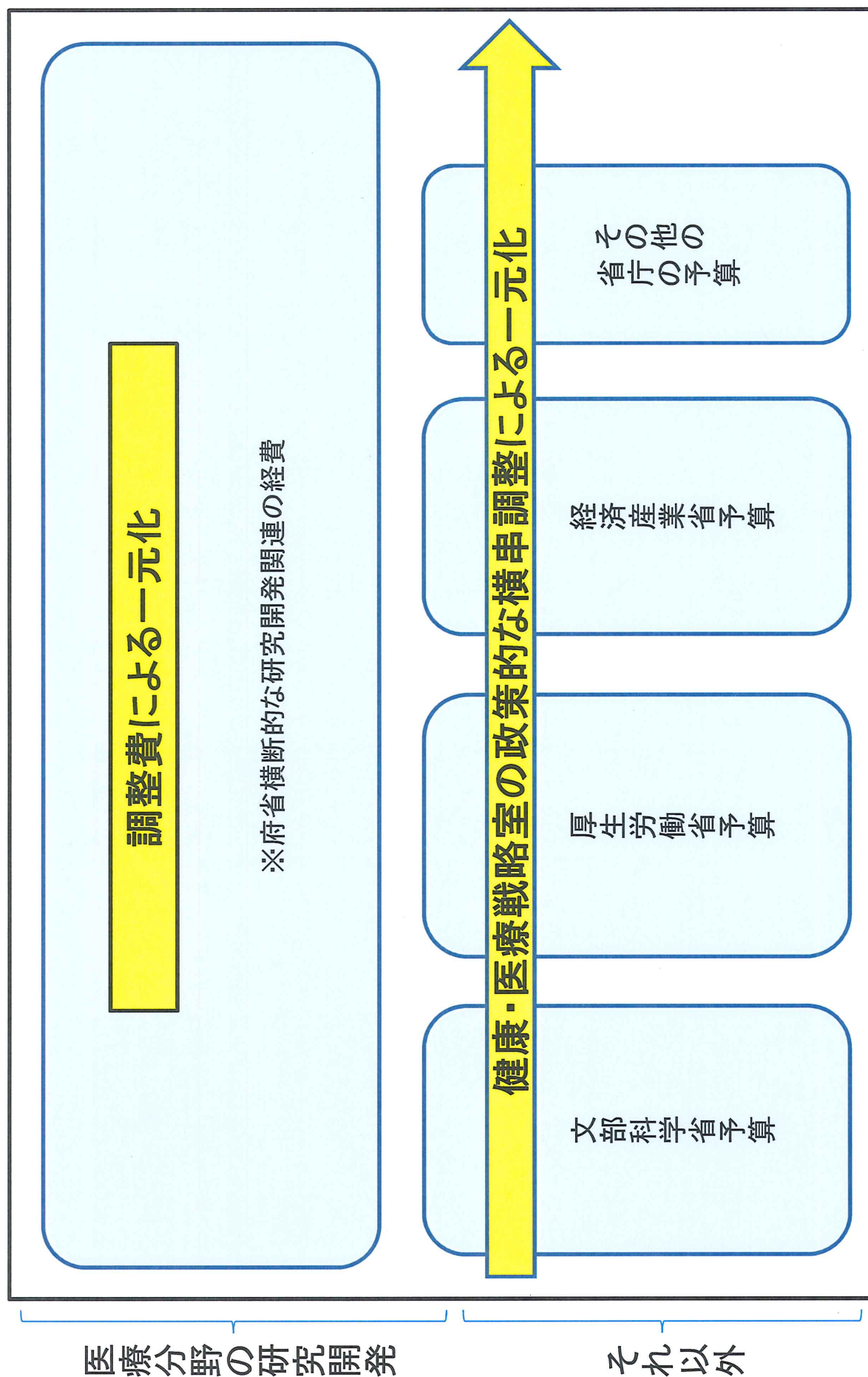
一. 研究を臨床につなげるため、国際水準の質の高い臨床研究・治験が確実に実施される仕組みを構築する。

- 臨床研究中核病院及び早期・探索的臨床試験拠点において、企業の要求水準を満たすような国際水準の質の高い臨床研究・治験が確実に実施されるよう、所要の措置を講ずる。
- 臨床研究・治験の実施状況（対象疾患、実施内容、進捗状況等）を適切に把握するため、知的財産の保護等に十分に留意しつつ、こうした状況を網羅的に俯瞰できるデータベースを構築する。
- 民間資金も積極的に活用し、臨床研究・治験機能を高める。

以上の三点を有機的・一体的につなげることで、司令塔機能の発揮に万全を期す。

以 上

健康・医療関連予算一元化のイメージ



「一般社団法人 MEJ (Medical Excellence JAPAN)」の骨子

- 国際医療協力の推進のため、政府の支援のもと、医療機関と医療機器メーカーが連携した海外展開支援、外国人患者の受入れ支援、医療機関・医療従事者の交流促進、人材育成等の事務局機能を果たす組織として一般社団法人 MEJ (Medical Excellence JAPAN) を設立する。

一. 組織構成 (予定)

- 設 立 平成 25 年 4 月 23 日
- 理事長 山本修三 (日本病院共済会代表取締役)
- 理 事 産学官に代表者 計 10 名
注) 近藤達也 (医薬品医療機器総合機構理事長)、江藤一洋 (東京医科歯科大学名誉教授)、小松研一 (株式会社東芝メディカルシステムズ相談役) ほか
- 会員企業 医療機器メーカー 23 社
(東芝、日本電気、日立製作所、ソニー等)
注) 今後、医薬品 (ジェネリック等) メーカー、ゼネコン等も参画の見込み
- 連携医療機関 57 機関
注) 国立がん研究センター中央病院、大阪大学医学部附属病院、北原国際病院等

一. 段取り

- 4 月 22 日に社員総会、理事会を開催。
理事、定款決定
- 4 月 23 日登記 ⇒ 設立

一. MEJ 設立パーティ

- 候補日時 平成 25 年 6 月上中旬
- 規 模 300 人程度
注) 総理、官房長官、経済産業大臣、各国大使 (ロシア、インドネシア、UAE、サウジアラビア等)、会員企業役員、連携医療機関代表者等

※ MEJ により新興国を中心に様々な事業が検討されているところ、総理が訪問されるロシア、UAE で下記案件が存在。

- ① ロシア (ウラジオストク) 北斗画像診断センター (5 月に開院)
- ② ロシア (モスクワ) 日ロ先端医療センター (仮称) (事業検討中)
- ③ UAE (アブダビ) 日本 UAE 先端医療研究センター (仮称)
(事業組成中)

以 上

ILC に関する資料

<社会的背景>

ILC は、ヒッグス粒子を生成するために、レプトン（電子）と陽電子の衝突をやらせるためのものです。レプトン衝突はリング型加速器ではエネルギーが散逸してしまうため、直線であることが必要で、30 km にもおよぶ地下施設が必要になります。当面 250GeV、将来的に 500GeV をめざしています。

装置の建設可能性については、すでに 10 年にもわたり、国際将来加速器委員会の下で Linear Collider Board が検討してきており、そのてっぺんが東大物理の駒宮先生です。あまりの金額の多さから、どこの国も（決して）やらないということを明確に打ち出しており、かねて日本の高エネルギー物理のコミュニティが強い持っていたことから、各国が“日本に期待する”という声明を出しています。

事態が大きく動いたのが、昨年夏のヒッグス粒子発見のニュースに刺激された日本の政治・経済動向の変化です。これを建設することにより、経済活性化に役立つと思う（地元だけとは限らない）政治家や産業界の一部に誘致を強く推す声（たとえば、経済同友会の声明や、岩手県や佐賀県の活動）が高まっています。

<学術会議と文科省>

マスタープラン 2011 において掲載されています。これを受け、文科省学術機関課ロードマップにおいて評価がなされました。このときは、まだ研究者コミュニティの計画が十分に煮詰まっていない、巨額の資金に対する社会的理解が得られるか不明、緊急性が明らかでない等の理由により、C 評価でした。

現在進行中のマスタープラン 2014 の検討の中でも、物理学委員会からは推薦を受けています。

今般、文科省学術振興局より学術会議に審議依頼があり、1 年の時限で課題別委員会が設置されました（委員長 家学術会議副委員長、荒川第 3 部長、物理相原、化学岩澤、地惑永原、JPARK 永宮、そのほか第 1 部と第 2 部から二人ずつという構成）。6 月/7 月で 4 回の会議、8 月も数回調整中という密な議論が予定されています。

<問題点>

- (1) 科学的価値・マンパワーなど科学的な問題
- (2) 予算規模：当初予算見積もりは、建設費 8300 億円、これに維持費が ~100 億円/年 といわれています。

（永原注：学術機関課から審議依頼があることから明らかなように、大型研究と同じ部署が扱っているため、その影響がどのようなものであるかは自明です。ちなみに、学術機関課が大型研究に費やしている予算は ~250 億/年です。大型とは、高エネ研加速器とか、

Spring8 とか、すばる望遠鏡とか、理研とか、従来の大学協同利用研ベースの機関がもつ大型装置すべてです)

(3) 放射能もれの危険性. ハドロン加速器に比べると危険性は低いといわれてはいるものの、不安大です. また、長期間にわたり地下のこういう装置を維持することについての技術的問題も指摘されています.

(永原注: J-PARK 事故も, ILC には不利に働くでしょう. 研究者は放射線濃度が高まると、平気で窓をあけて放置するらしいということが世間にあからさまになったので)

(4) 日本型 NIH との関係. こちらも数千億円規模で、科研費がなくなるといわれています.

(永原注: 素粒子の人たちも、さすがに ILC は別予算といっており、産業界や地元の支援などを期待しているわけです)

<われわれの取るべき態度>

- ・当面は学術会議の動向をみているのでかまいません. すべての大型経費・科研費などに与える影響は学術の全分野に等しく関係するので、学術会議が対応すればよいことです

- ・ただし、一つ問題があります. 建設派からは、北上山地と背振山地が話題となっていますが、それを含め、地震に対して日本が本当に大丈夫なのかということが問題になります. 学術会議の上記委員会はそのことは論じないということになっていますが、地球惑星科学としては、原発同様、立地安全性について専門の立場からの発言をする義務があると思われま.

2013/6/22

中村正人

推薦の期間を設け、その間に推薦書を出して貰う

→ 準備委員会でフェローの満たすべき要件の決定、推薦書式の決定

JpGU フェロー審査委員会

→ 理事、セクションからの推薦で5名程度

年間選ぶ数

→ 各セクション、ユニオンで6-7名（全体の0.15%程度、AGUは0.1%）

日程

今年 6月 理事会で準備委員会の設立

今年 7-9月 準備委員会でフェロー制度を作り10月毎の理事会で承認

毎年 10月 審査委員会の決定（理事会決定）

毎年 10-12月 推薦期間

毎年 1-3月 審査委員会で審査

毎年 3月の理事会でフェローの承認

毎年 5月の連合大会でフェロー表彰

その他

フェロー認定に何を送るか？賞状、盾？

最初の年だけは人数を多く選ぶか？（浜野、西田、廣田、本蔵... フェローになって頂くべき人が沢山居る）

フェローとは別に、連合貢献者（長く合同大会から連合のために尽くしたがそれ程年配ではない）を表彰する精度を作るべきで無いか？

ユニオンサイエンスボードについて

【 関連規則 】

法人運営基本規則 （ユニオンサイエンスボード関連抜粋）

第 22 条 各サイエンスボードを統括するものとして、理事会の下に、ユニオンサイエンスボードを設ける。

2 ユニオンサイエンスボードは、会長、副会長、各セクションのセクションプレジデント、並びに理事会の承認を経て会長が委嘱した有識者及び会長が指名する若干の理事をもって構成する。

3 ユニオンサイエンスボードの議長は、会長が務めるものとする。

（サイエンスボードのあり方）

第 23 条 各セクションのサイエンスボード及びユニオンサイエンスボードにおいては、地球惑星科学全体の将来を見据えた自由な議論を日常的に進め、地球惑星科学全体の発展をサイエンスの立場から強力に推進するものとする。

2 各セクションのサイエンスボード及びユニオンサイエンスボードは、前項の目的を達成するために必要な組織を結成して、活動することができる。

【 初代メンバー 】

2005 年 5 月 25 日発足

西田 篤弘	宇宙科学研究所名誉教授・日本学士院会員・日本学術会議連携会員
松井 孝典	千葉工業大学惑星探査研究センター所長
廣田 勇	京都大学名誉教授・日本地球惑星科学連合評議会元議長
山形 俊男	東京大学大学院理学系研究科副研究科長・日本学術会議連携会員
平 朝彦	海洋研究開発機構理事・日本学術会議地球惑星科学委員会委員長
深尾 良夫	海洋研究開発機構地球内部変動研究センター長・日本学術会議連携会員
野上 道男	日本大学文理学部地理学科 教授

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 25 年度第 1 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 25 年 5 月 20 日 (月)
午後 6 時 30 分から午後 8 時 00 分

2. 開始場所 幕張メッセ 国際会議場 203 号室
(千葉県美浜区中瀬 2-1)

3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 16 名 (定足数 11 名 会議成立)
出席監事 1 名
オブザーバー 6 名

4. 議長 理事 津田 敏隆

5. 出席役員

理事 津田 敏隆
理事 川幡 穂高
理事 木村 学
理事 中村 正人
理事 ウォリス サイモン
理事 北 和之
理事 古村 孝志
理事 杉田 倫明
理事 瀧上 豊
理事 竹村 恵二
理事 田近 英一
理事 成瀬 元
理事 西 弘嗣
理事 畠山 正恒
理事 松本 淳
理事 渡邊 誠一郎
監事 松浦 充宏

7.出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 大村善治
地球人間圏科学セクションプレジデント 氷見山幸夫
地球生命科学セクションプレジデント 北里洋
固体地球科学セクションプレジデント 大谷栄治
地球生命科学セクション幹事 高野淑識
大気水圏科学セクション幹事 川合義美

午後 6 時 30 分、理事の定数に足る出席があったので、会長津田敏隆は議長席に着き、開会を宣言した。

7. 報告事項

(1) ジャーナル関係経過報告（川幡理事） 別添資料 1、2、3、4

川幡理事より、新ジャーナルの経過について報告があった。

新ジャーナルの名は「**Progress in Earth and Planetary Science**」と決定した。出版開始は、2014 年 1 月を予定している。オープンアクセス電子ジャーナルでの刊行を準備中である。第一次入札を経て、出版社と交渉中である。科学研究費補助金（研究成果公開促進費）が採択されたので、第二次入札をするかもしれない。ヒアリングでは、インパクトファクター具体的な数値を設定し、目標としたい。また、従来どおりレビューに関しては重点的に推進したいと考えている。

(2) AOGS 札幌 2014 年大会関連報告（津田会長）

津田会長より、AOGS 札幌 2014 年大会に関して報告があった。

日本地球惑星科学連合より、**Local Advisory Committee** を選出することが確認された。また、ツアーなどのイベントに関しては **Local Organizing Committee** を選出し協力することが確認された。

(3) その他

顕彰制度、フェローシップ等の創設に関して、連合全体として、今後検討を進めることが確認された。なお、それに関連して、大谷オブザーバーより 5 月 19 日に行われた固体地球セクションボード・ビジネスミーティングにおける固体セクションの顕彰制度導入についての報告があった。（別添資料 5）

8. 審議事項

第 1 号議案 総会議事及び資料の承認 別添資料 6、7

総会議事及び資料に関して、古村理事より事業報告についての説明、また西理事より決算報告並びに予算書についての説明があった。

総会議事及び資料が承認された。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後 7 時 45 分)
以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席議事は次に記名・
押印する。(捺印欄配布時省略)

平成 25 年 5 月 20 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 7 回理事会

出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	北	和之	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	杉田	倫明	印
出席理事	瀧上	豊	印
出席理事	竹村	恵二	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	成瀬	元	印
出席理事	西	弘嗣	印

出席理事	畠山	正恒	印
------	----	----	---

出席理事	松本	淳	印
------	----	---	---

出席理事	渡邊	誠一郎	印
------	----	-----	---

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 25 年度 第 2 回理事会

別冊資料

開催日時 平成 25 年 6 月 22 日（日）
午後 14 時 00 分から午後 18 時 00 分

開催場所 東京大学理学部 1 号館 8 階 843 号室
（東京都文京区本郷 7-3-1）

別冊資料目次

◆アンケート集計結果（日本語）

Q1.参加形態を教えてください	P.1
Q2.何日間出席されましたか	P.1
Q3.セッション数の今後について	P.1
Q5.開始時刻が9時であることについて	P.1
Q6.口頭セッション終了が18時であることについて	P.1
Q7.ポスターコアタイム終了が19:30であることについて	P.1
Q8.口頭講演時間が15分であることについて	P.1
Q10.コアタイムの長さについて	P.1
Q11.コアタイムの開催時間について	P.1
Q12.ポスターの掲示可能期間について	P.2
Q13.3分概要説明を利用しましたか	P.2
Q14.次回も使用したいと思いますか	P.2
Q17.3分概要説明の制度について	P.2
Q19.会場の広さについて	P.2
Q20.配置案内について	P.2
Q22.ポスター会場やボードの配置について	P.2
Q24.スペシャルレクチャーについて	P.2
Q25.トップセミナーについて	P.3
Q26.キャリアパス説明会および進路相談ブース	P.3
自由記述式	
Q4.セッション数の整理について	P.4
Q9.1 コマの時間の105分への拡大について	P.8
Q15.3分概要説明を利用した方の意見	P.11
Q16.3分概要説明を利用しなかった理由	P.13
Q18.3分概要説明について	P.14
Q21.口頭講演会場の問題点	P.16
Q23.ポスター会場について	P.20.
Q27.企画について（記述式回答）	P.23
Q28 配布物、プログラムについて	P.25
Q29.その他、大会全般について	P.28

◆アンケート集計結果（英語）

Q1. Your role in this meeting	P.32
Q2. How many days did you attend?	P.32

Q3. The number of both lectures and fields in future	P.32
Q4. About the fact that sessions start at 9:00	P.32
Q5. About the fact that oral sessions end at 18:00	P.32
Q6. About the fact that poster core time ends at 19:30	P.32
Q7. About the period of a oral presentation	P.32
Q8. About the fact that oral session length is 105 minutes	P.32
Q9. About length of core time	P.32
Q10. Poster sessions period	P.33
Q11. About the length of time that posters are displayed	P.33
Q12. Did you make a 3 minute oral presentation ?	P.33
Q13. Would you like to make a 3 minute presentation?	P.33
Q16. About the system of 3 minute oral presentations	P.33
Q18. About the system of 3 minute oral presentations	P.33
Q19. The spacing between posters	P.33
Q20. The spacing between boards	P.33
Q21. The spacing between posters or that between boards	P.33
Q23. The lecture rooms	P.34
Q24. Guidance to the lecture rooms	P.34
Q27. About Special Lecture	P.34
Q28. About Seminar on Recent Advances in EPS	P.34
Q29. About Career Paths and the Career Consultation booth	P.34
自由記述式	
Q14. About 3minutes' presentation	P.35
Q15. Why you did not make a 3 minute oral presentation	P.35
Q17. About the system of 3 minute oral presentations	P.35
Q22. Any other comments about poster presentations	P.36
Q25. to improve the quality of the lecture rooms	P.36
Q26. Your opinion about poster presentation	P.37
Q30. Any other comments about the these events	P.37
Q31. Any other events which you would like	P.37
Q32. Any other services which you would like	P.38
Q33. Your opinion of the hand-outs, programs	P.38
Q34. things to do for non Japanese speakers	P.39
Q35. Any other opinions on meetings	P.39

JpGU2013 来場者アンケート(日本語) 有効回答数 460

Q1.【必須】今回の参加形態を教えてください (複数回答可) 有効回答数 596

回答	票数	%	
口頭講演をした	210	35%	
ポスター講演をした	177	30%	
コンピーナであった	48	8%	
座長をした	58	10%	
聴講のみの参加	103	17%	

Q2.【必須】何日間出席されましたか 有効回答数 460

回答	票数	%	
1日	76	17%	
2日	88	19%	
3日	82	18%	
4日	57	12%	
5日	66	14%	
6日	91	20%	

Q3.【必須】今大会の全セッション数は昨年より更に増え180件でした。講演数や分野については今後も増えることが期待されますが、セッション数の今後についてはどのような方向が望ましいとおもいますか？

有効回答数 444

回答	票数	%	
既存分野を活性化するため、セッション数をもっと増やすべき	58	13%	
現状程度が適当	200	45%	
既存分野については少し整理した方がよい	186	42%	

Q4. セッション数の整理について、何かご意見がございましたらお書きください→P.4

【1日のスケジュールについて教えてください】

Q5.【必須】開始時刻が9時であることについて 有効回答数 460

回答	票数	%	
早い	69	15%	
適当	374	81%	
遅い	17	4%	

Q6.【必須】口頭講演セッションの終了時刻が18時であることについて 有効回答数 460

回答	票数	%	
早い	7	2%	
適当	287	62%	
遅い	166	36%	

Q7.【必須】ポスターコアタイムの終了時刻が19時30分であったことについて 有効回答数 460

回答	票数	%	
早い	17	4%	
適当	146	32%	
遅い	297	65%	

Q8.【必須】一般の口頭講演時間が、質疑を含めて15分で固定されていることについて 有効回答数 460

回答	票数	%	
短い(もっと伸ばすべき)	22	5%	
適当	342	74%	
長い(もう少し短くてもよい)	12	3%	
各講演の時間をコンピーナが一ファーフ決めるのがよい	84	18%	

Q9. 2013年大会では、口頭講演枠の拡大と3分概要説明の時間確保のため、1コマの時間を従来の90分から105分に拡大しました。この件について何かご意見がございましたらご自由にお書きください→P.8

【ポスター講演について意見をお聞かせください】

Q10.【必須】コアタイムの長さについて 有効回答数 460

回答	票数	%	
短い	74	16%	
適当	361	78%	
長い	25	5%	

Q11.【必須】コアタイムの開催時間について 有効回答数 460

回答	票数	%	
口頭講演終了後の夕方のみがよい	214	47%	
夕方だけでなく昼間口頭講演の裏でもコアタイムを開催した方がよい	246	53%	

Q12.【必須】ポスターの掲示可能期間について 有効回答数 460

回答	票数	%	
短い	52	11%	
適当	401	87%	
長い	7	2%	

Q13.【ポスター講演をした方にお尋ねします】3分概要説明を利用しましたか 有効回答数 198

回答	票数	%	
利用した	117	59%	
利用しなかった	81	41%	

Q14.【(ポスター講演者で) 3分概要説明を利用した方にお尋ねします】次回も利用したいと思いますか？

有効回答数 198

回答	票数	%	
したい	77	59%	
しない	20	15%	
わからない	33	25%	

Q15. 3分概要説明を利用してみてのご意見や感想がありましたら教えてください→P.11

Q16.【(ポスター講演者で) 3分概要説明を利用しなかった方にお尋ねします】3分概要説明を利用しなかった理由があれば教えてください→P.13

Q17. 3分概要説明の制度についてどのようにお考えですか？ 有効回答数 137

回答	票数	%	
次回は利用したい	48	35%	
利用しないがあった方がよい	40	29%	
ない方がよい	49	36%	

Q18.【ポスター講演をしていない方にお尋ねします】3分概要説明について何かご意見等がございましたらお聞かせください→P.14

【講演会場についてご意見をお聞かせください】

Q19.【必須】口頭講演会場の広さについて 有効回答数 460

回答	票数	%	
十分だった	243	53%	
狭かった	211	46%	
口頭講演には参加していない	6	1%	

Q20.【必須】講演会場の配置案内は 有効回答数 460

回答	票数	%	
十分だった	352	77%	
足りなかった	108	23%	

Q21. 口頭講演会場について、不満な点、改善すべき点がありましたらご自由にお書きください→P.16

Q22.【必須】ポスター会場やボードの配置について 有効回答数 460

回答	票数	%	
十分なスペースがあった	327	71%	
狭かった	104	23%	
ポスター・講演には参加していない	29	6%	

Q23. ポスター講演及びポスター講演会場について何かご意見がありましたらご自由にお書きください→P.20

【今回連合大会で開催した以下の企画についてご意見をください】

(A：今後も続けた方がよい B：より工夫が必要 C：あまり意味がない D：興味がない E：企画の存在を知らなかった)

Q24.【必須】1) スペシャルレクチャー 有効回答数 460

回答	票数	%	
A	244	53%	
B	47	10%	
C	30	7%	
D	67	15%	
E	72	16%	

Q25. 【必須】 2) 地球惑星トップセミナー 有効回答数 460

回答	票数	%	
A	184	40%	
B	45	10%	
C	35	8%	
D	69	15%	
E	127	28%	

Q26. 【必須】 3) キャリアパス説明会および進路相談ブース 有効回答数 460

回答	票数	%	
A	169	37%	
B	57	12%	
C	49	11%	
D	101	22%	
E	84	18%	

Q27. 上記1)～3)について、ご意見等がございましたらご自由にお書きください→**P.23**

Q28. 会場での配布物、プログラムについて何かご意見があればご自由にお書きください→**P.25**

Q29. その他、連合大会全般についてのコメント・意見・要望・提案などがありましたらご自由にお書きください→**P.28**

Q4. セッション数の整理について、何かご意見がございましたらお書きください
「惑星科学」など広い範囲のセッション名もあれば、「プレート収束帯の変形運動」など割と限られた範囲のセッション名もあり、もう少しセッションの枠組みなどを整理した方がいいと感じた。
6 日間は長すぎます。セッション数をもっと減らし、効率化を進め、4 日～5 日程度にして戴けますと助かります。
JpGU は、所属学会の慣例に問われず、若手研究者でも自由にセッションを申請できる点が非常に素晴らしい。世代間、分野間の融合・連携を深めるためにも、セッション数は現状維持あるいはより増やすことを認める方向が望ましい。
JpGU らしい、横断的なセッションがもっと豊富にあると刺激的ですね。
multi disciplinary な研究が増えてきておりますが、既存分野間での調整のためか、裏表で「なぜこれが重複？」というセッションが目立ってきたように思います。また、せっかくの問題提起的なユニオンセッションの裏に専門分野のコマが良くあって残念な思いを例年しています。難しいとは思いますが、何か解決を模索できないかと思っています。
いくつかの発表が同時に行われていたため聞けなかった発表があった。セッションが多すぎると聞きに来る人が分散してしまい議論が停滞するのではないかな。
オーラルセッションはもう少し減らして、聞きたい講演のバッティングをなくすようにしていただきたい。その分、ポスター講演の時間を増やし、また会場を広く手配するほうが良いのではないかと考えます。
オリンピックの競技種目数と同様に、セッション数については、いずれ物理的な限界に達するのではないかなと思う。学会運営的には、まず会員数を増やすことが重要だが、「質」が伴わなくなると結局衰退する。JpGU の目指す方向性を精査する良い時期かもしれない。
これにつきまして、関連する事項を最後に述べてさせて頂きましたので、ご参照頂きたく思っております。
セクションを再編する必要があるように思います。
セッション、講演数、および分野を増やし、AGU などの国際学会に対抗しようとすることはやめたほうがよい。単に、参加者が増え、また、質の悪い(レベルの低い)発表が増えるだけであろう。また、私は地震の分野の人間であるが、地震の分野の発表は 6 日間すべてにわたっていて、6 日間とも全部参加しなければならないことは苦痛でしかない。今後は、例えば、地震の分野を前半の 3 日間、火山の分野を後半の 3 日間、地質の分野を 2 日目から 4 目にまとめるといった工夫が必要である。要するに、6 日間全部参加しなくてもよいように、プログラムを編成すべきである。
セッションが増え過ぎ、タイムテーブルの調整が難しかったのか、関連分野が重なって聴講できないことが多い印象を受けた
セッションが多すぎて同時並行セッションができてしまい両方聞けない。また、別セッションをたてておきながら、「どのセッションとは重ならないで」などのプログラム作成時のわがままが見られ、プログラム委員を苦しめているように思う。重ねて欲しくないほど一体性があるなら一つのセッションにすればよかったのではと思う。

セッションによっては発表件数の少ないものもあるので、統合できる部分もあるのではないのでしょうか。
セッションの割り振りは難しい問題ですが、固体地球科学(S)に関して、似たようなセッション名と内容ながら、開催日・時間帯が異なるものが見受けられる。セッション立上げ時のより綿密な調整を、担当者、コンビーナ、企画委員にお願いしたい。
セッションの数が 200 を超えたら、一度整理すべきではないかと考えます。
セッションを主催することが目的となっていて、成果を論文として公表できてない方が多すぎると思います。
セッション数が増えすぎると、異分野の人と交流する機会が極端に減る、というのが、近年巨大化しすぎた AGU Fall Meeting に参加した時の実感です。あまり大きな会議は、小規模学会を並行開催しているのと変わらなくなります。連合が今後も学際的な交流の場であり続けるよう、セッション数の制限を検討していただきたく存じます。専門性の高いセッションは、それぞれ個別の学会でやればいいと思います。
セッション数が増えることは必要と考えるのだが、そのためには会場規模を拡大することなどが必要であろう。現状の幕張メッセのスペースでは限界があり、より大きな会議場を使用することも考慮に入れてよいと思う。また、セッション開始時間の早期化、期間のより長期化なども考慮して良いのではないだろうか。
セッション数が多いから減らす、少ないから増やすという議論はあまり意味が無いでしょう。セッションの内容次第だと思います。
セッション数が多すぎるため、毎回こまわりの調整が難航する。特に新設セッションのポリシーについて明確化したほうがよいように思う。
セッション数の整理は喫緊の課題と考える。現状では参加率の高くない気象・海洋分野が本格的に参入する可能性を考えるとなおさらであろう。
セッション数をもっと増やしたほうが良いと思いますが、聴講したいセッションの時間帯が重なるケースが多くならないようにしていただければと思います。
セッション内酔うのん重複が甚だしくプログラム編成もままならない状態が数年間続いていることは非常に問題であると感じている。同様の声を良く聞かし、数年間そのように言い続けているのに改善しない、という声も大きいと思う。運営側は重く受け止めるべきである。セッションは受けたときに適切に整理する必要があるだろう。現状のままでと、まじめに参加している会員がききたい講演も聞けない、あるいは、あちこち移動しなければならないといった非合理的な状況に陥ってしまい、活性化を期待することができないことが懸念される。
ただし、同じような内容のセッションがバラレルで行われることは極力避けるべき。
とくに『増やすべき』とは思いませんが、現在比較的手薄の分野(たとえば古生物系とか、必要性があるかは分かりませんが)が増えるのはいいことかなと思います
とにかく減らすべき。
バラバラすぎる
パラレルセッションの間を動きやすくするように各セッションごとにオーラルポスター比の改善(ポスターを増やす)が必要。

ポスターのコアタイムを昼に持ってこれないものか？
ポスター会場では空きが有ったので、ポスター発表を増やすと良いと思う。
ほぼ同じ内容を専門とする分野が別々にセッションを持っているので、時間帯の重複や聴講者の減少を招き、JpGUでの発表の価値が落ちている。大変勿体ないことと思う。
メインのセッションは5日間(月～金)に収まるようにしてほしい。
やはり人気セッションは会場に人があふれてなかなか聞きたいけど聞けなかった状況がありました。会場の幕張は地方からくる人間にとっては不便なことがあり、会場についても再検討されては。
よく似たセッションはまとめるのがいいとおもいます。仲間内の発表会が増えているように思います。
以前より、聴講したいセッションが重複する場合が増えた。
一般論として、既存分野の活性化のためにセッションを増やすというよりも、これまででない、しかも連合大会の主旨に沿うセッションの新設であれば、増えてもよいと考える。自分の関わったセッションについては、他に類似のものがみられないので、整理統合等の必要は感じない。
海溝型地震セッションでは、余りにも大きなテーマで多くの聴衆が狭い部屋に長時間押し込められ、さんざんだった。一方 Union の広い会場はガラガラであった。超多忙な学会参加者からすれば、ユニオンセッションは必要ないと思う。
外国からの参加者数を増やすため、リピーターになってもらうため、学会のレベルを上げるため、原則として全て英語セッションにするのが望ましい。
各セッションが学会や大きな科研費を背負っているのは分かるが、似たようなセッションが多すぎるので、共催などの形で大幅に統合した方がよいと思う。
各学会の会員しか集まっていないようなセッションは整理した方がよいと思う。せっかくの連合大会なので分野横断的なセッションが増えると良い。
学会期間が長すぎる。
完全にはないが、かなり内容が重複しているセッションがいくつもあった。
関連があるセッションは、同じセッション名で統一してあるとよりよい。
関連の session が重複しないように配慮する
関連分野が裏番組で組まれてしまうことが残念です。調整が難しいかもしれませんが。
既に多すぎます。これ以上増やさないでください。
既存分野が何を示すのか、良く分かりません。ただ、参加人数が少ない上に露骨に活気を失っているセッションが見受けられ、しかもそれらは同一の学会から複数派生している物でした。無理に分けるよりも統合した方が明らかに良いと思いました。
既存分野との融合領域を奨励するため、セッションを増やすべき。

興味のある講演が重なり、聴講できない場合が多い。セッション・講演ともに制限し、会場も安価な施設で開催してほしい。
近い分野のセッションが同じ時間帯に同時進行で行われていることがしばしばあって、聞きたい発表が聞けないことが多かったのが残念でした。例えば、5/21 の「古気候・古海洋」と「Proxies for Biogeosciences」、5/23 の「同位体環境学の創出」と「生物地球化学」、5/24 の「PALEO 研究の最前線」と「地球掘削科学」と「地球史解読」など。現状は乱立気味という印象なので、もっと小さくくりでまとめて、連続でセッションを開催して、少なくとも同時並行にはならないようになるといいかなと思いました。
近い分野のセッションの日程が重なっていて聞きたくても聞きにいけないことがあるので、可能であればもっと整理してほしい。
現在のセッションは結局小さな学会の延長でしかなく、連合だからこそできる有意義な議論を促進させるような役割を果たせていない。むしろセッションが増えることで参加者は自分の分野の日にしか参加しないようになり、他分野との交流は減っている部分もあるのではないかな。また、セッションが増えることでプログラム委員をはじめ多くの方に負担が生じている。そもそもセッション数が多いことが学会の活発さを示すと考えるのはやめたほうがいいのではないかな。
現状のセッション数は多いと思う。内容が重なるセッションについては統廃合をしたほうが良いと感じる。現セッションの分類を行ない、全体を見通した上で統廃合のプランをまとめるべきだろう。それには、各コンビーナの意見を吸い上げてからプランを練るのではなく、ある程度トップダウンで進めるのが良いと思われる(もちろん、要所ではコンビーナの意見を参考にすべきだが)。
現状程度が適当であると思うが、いくつか聴きたいセッションがバッティングした(例えば地球掘削科学と PALEO 最前線など)ため、近い分野のセッションがいくつも重なるようであれば、もう少しまとめ方がよい。
固体と流体で前半後半に分けてほしい。1 週間は長すぎる
固体地球はとくに参加者が多いので、聴講者を分散させるためにも、各日各時間帯とも3～4以上のパラレルセッションとした方がよい。
固体地球分野は似たセッションが非常に多く、整理することが必要 例: ”津波とその即時予測”と”南海トラフなどの巨大地震の強震動・津波予測” ”Geofluids and their roles in dynamics of the Earth's interior ”と”流体と沈み込み帯のダイナミクス ”
講演数が少なく内輪だけでやっているようなセッションもあるようだ。統合できるものはなるべく一緒にして、会場数を増やさないようにしないと、どこで何をやっているのか分からない。
合同大会だが、結果的に分科会だらけで、他分野の人が新しいフィールドから知見を得ることができていない／分野横断の合同大会としてのメリットが薄くなっているのではないかな？
国際セッションが少ない
査読を厳しくする。
細かく分けすぎ。なんのために、連合して学会を開くのか。

私の発表が二日目、自分と関連分野の発表が最終日で、その間は関連分野の発表もなく、時間を潰すのに苦慮しました。セッション数が増えれば、自分と関係する研究発表も増えると期待し、もっと増やして欲しいと思います。
私は地震関連のことに興味があったのだが、同じ時間中に地震のセッションがかぶっていることがあり残念だった。難しいとは思うが、似たジャンルのものがかぶらないようにしていただけるとうれしく思う。
似たタイトル、似た内容のセッションが多いように感じました。特に、情報（GIS 関係を含む）と名のつくものは統合整理した方が良いと思います。
似たトピックのセッションはプログラム委員会主導で統一させるなど、会場の大きさに見合ったセッション数に減らすことができれば、プログラム委員会の負担も減るのでは？
似たようなセッションが多い
似たようなセッションが多く、同じ時間帯に重なっていたりするので、調整が必要だと思います。
似たようなセッションが多すぎる。ほぼ同じ話を4、5個のセッションで違うタイトルで話すひとがいた。
似たようなセッションが多すぎるので、分野ごとに責任者を決めて、セッションの統廃合を行った方がよいように思います。
似たようなセッションが複数あるように感じたので、そのあたりの整理をしたほうが良いと思う。
似たようなセッションが複数立っていた感じもするので、すこし整理した方が良いと思ったが、多様性も必要だ。一方、これまで以上に幅広い分野のセッションが立つことも必要と思った。
似たようなセッションが並立するとプログラム委員の方のスケジュール調整も大変ですし、なるべくまとめるようにコンピーナ間で努力すべきと思います。いやいやこれは別セッションでと言われてしまえば仕方ないですが、同時開催回避希望のセッションなどはある程度一緒にしてしまえば良いのと思います。セッション提案時にプログラム委員会から呼びかけても良いのでは？
似たようなセッションで、投稿数の少ないセッションは、コンピーナで統合するように促す等をすればいいかと思います。
似たような内容のセッションが「乱立」しているような印象があります。
似たような内容の講演が別々のセッションでなされるのは不便であり、まとめてもらった方が聞きやすい。投稿時にも、どのセッションに出すべきか迷う場合がある。
似たような分野が多すぎる。結果、聴講するにも不効率である。
似たような分野については1つにまとめることもよいと思われる。
似たような分野のセッションが同じ時間に開催されており、ひとつしか聞くことができないのが残念に思いました。繋がりのある分野のセッションの開催時間をできるだけずらして頂けるとありがたいです。
似た分野のセッションが同じ時間にあるので、
似た分野のセッションの日程が重なっていると結局どちらも聴けないということになるので、残念。ひとセッショ

ンの口頭発表を2コマ程度にしておけば、似た分野のセッションを1日に二つ入れられるので、聴講しやすい日程になりそうに思える。
重なり合う部分があるセッションは同じ日か連続した日にまとめるべきと思う。
少なくとも地震学関係のセッションは、日によって同時開催数に粗密があったので、できるだけ均等になるよう配慮すべきである。
整理した方がよいと思う理由は、似通った分野が同じ時間帯にあることが多く、どちらも見たいがあきらめなければならないことが多数ありました。
前年の聴講者数に応じて優先度を考慮すべき。
全体としてのアクティビティは下がらないほうが良いが、一部で関連の深いトピックが別セッションになっている場合が見られた。そのような場合は、同一セッションになっていたほうがパラレルになるおそれもなく、良いのではないかと考える。また、現状では参加の少ない気象学会・海洋学会との連携が進む場合にはセッションが増えても構わないが、現状の学協会数でこれ以上のセッション数は必要ないのではないかと感じた。
大気海洋系のセッションを増やす必要がある。
伝統駅基礎分野の数は固定し、その年としてのトピックスは増減する。
同じ(あるいは類似した)分野で、日本語と英語のセッションがある場合があり、どう両立させるか、あるいはどちらかにするか考えないといけないと思います。
同じようなテーマのセッションが開催されており、乱立傾向にあると思います。同じような内容のセッションの簿が合った場合には、関係学会間での調整も必要なのではないでしょうか。
同じような分野のセッションは統合した方がよい。
同じ内容で英語と日本語のセッションを持つのは整理できないか？
同じ目的のセッションが複数ある場合には、コンピーナ間で統合できるかどうかを話し合える機会があるとよいと思う。
同一時間に、似たような(関連する)分野のセッションが重なっており、どちらを聴講するか選択が必要であった。
同分野の重なりが多くて、効率が悪い。
同様のセッションが同時に開催されていることがあり、聴衆の偏りがあると思いました。
内容が重なる分野は統合する
内容が重複しているセッションがいくつもあった。整理したほうが良いと思った。
内容の近いセッションが多すぎる。

内容の重複している小規模なセッションは整理すべき。 また、セッションの発表者・共著者がほとんど同一というセッションがあり、問題だと思う。予稿投稿×切段階でコンビーナ以外の発表者が一定数以下のセッションは中止するか、たの general なセッションへ統合するのがよい。
日程の構成について、もう少し分野毎に集中させたタイムテーブルを組んで頂けるとありがたいです
日程表を見たときは多すぎると思いましたが、統合すると”1”セッションあたりの発表数が多くなると思いますので、論点拡大のためにもセッションを増やしてもかまわないと思います。
発表するセッションの時間帯が重なり、一方のセッションの聴講ができなかった(ポスターの3分発表は、別のセッションの口頭発表と15分くらいずれていたの で間に合った)。同一学会のセッションは重ならないようにして欲しい。
発表する側も、聴く側も、類似したセッションが複数あり、混乱しています。セッションの位置付けも曖昧なものも見られます。一度、吟味お願い致します。
必ずしも横断型のセッションが多くないので、今の状態なら連合で実施するのは迷惑。
部屋数が全く不足だし、口頭の講演数が寂しい。開催場所のサイズを考えずに全体を膨らませすぎ。
複合領域と、セッションカテゴリーというのが、非常にわかりにくいです。複数セッションにまたがる分野は案外多いと思いますので、AGU や EGU のように、セッションがどの分野に関係するか明示し、複合領域は廃止したほうが、参加者はプログラムが見やすくなります。たとえば、気候と生命に関係のあるセッションなら、AB とか BA とすればよいかと思 います。似たような内容なのに、出自だけで A か B か分れていて見にくい場合があります。また、分野をさらにカテ ゴリーに分けているのは、細分化されていて見にくいです。セッション名は、分野(複数可で複合領域廃止)とセッシ ョン番号の2つまでがシンプルでよいかと思います。(B-011, AB-124, SAB-015、、、など。)
複数コマ連続のセッションについて、もっとコマ数を減らすように努めるべき。 1人当たりの発表数に制限を設けるべき。
分野融合型のセッションを増やして、数を減らした方がよいと思います。
聞きたいセッションがかぶっていることが多かった
並列セッションが多いため、小規模セッションは事実上、企画関係者のみとなる場合が多い。新規立上は歓迎するとして、投稿者数が少なくて2年連続で2slotに満たない場合、3年目は認めないか、認めても結果的に2slotに満たない場合は各分野の General なセッションに統合させることが必要ではないかと思う。
萌芽的セッションを立ち上げる自由度を残した方がよいので、過度な集約圧力は避ける工夫が要る。すなわち、提案時は門を広げるが実績ベースで格下げないしセッション廃止の枠組みを作る。例えば、例年開催するセッション固定枠と、テーマ別横断的萌芽的セッションとに分けて、前者は発表者数／申し込みす／聴講者数が一定数を下回ると枠から外れる、など。セッション間の関係性を整理することなく、問題を出す人解く人のマッチングまで、あまり意識せず に『隣り合ったセッション』同士でやれると面白いですね。
本来、さまざまな分野の交流が連合大会の目的だと理解しているが、一つ一つのセッションでは内輪の研究集会的に参加者が限られるもの、つまり少数の顔見知りばかりのものも見られた。セッションが増えればコマ割での調整事項も増えるだろう。極端に言えば、ひとコマにも満たないようなセッションばかりになることも考えられる。もう少し類似分野を統合する試みも必要では？

毎年感じることだが、内容の重複する部分の多い複数のセッションがあり、中にはかなり長い間その状況が続いてい るところがある。それぞれの中心のなってきたコンピーナーの事情もあろうが、世代交代する頃を見はからって整理す ることはできないか。整理しなければ新しいセッションがつけ加えられていく一方になりセッション数は不必要に増えて しまう。何らかの対処が必要であろう。
慢性化している分野やトピックは整理・統合・廃止を含めて検討すべきだと思います。JpGU の魅力は分野横断を含む ホットな話題のセッションが多いことです。あれだけ多くのセッション数を非常にうまくオーガナイズしていると思 います。
様々なセッションがあることが JpGU の特徴であり利点でもあると思いますが、最近 は数が増えてきたためか、発表内 容も被るようなものもあるように思います。更に、同じような内容のセッションが同一日の同一時間帯に重なることもあ り、発表する側、聴講する側共にあまりよい状況ではない場合も増えてきているように思います。このようなこともあり ますので、無制限にセッションを増やすのではなく、少し内容を整理してゆくことも必要になってきたのではないかと思 います。
類似の分野で細かく分かれすぎている。関連分野を横断的に議論できる機会であるのに、細分化されているために 関連するセッションが同時進行でバラバラに行われている。コンピーナーは、自分の専門にとらわれず関連する発表し てもらえるような視点が必要である。
類似内容のセッションが乱立しており、分野の活性化や将来に向けたセッション提案となっていない。
連合学会が主導しないと無理。
連合大会が、Union セッション重視で結果的に研究内容軽視のポリシーを取るのか、研究内容重視であるのか、全会 員を含めたアンケートが必須である。それによって、参加費変更も必要であろう。

Q9. 2013 年大会では、口頭講演枠の拡大と 3 分概要説明の時間確保のため、1コマの時間を従来の 90 分から 105 分に拡大しました。この件について何かご意見がございましたらご自由にお書きください
105 分はやや長く感じる人が多いのは事実。ただし 3 分概要説明のメリットは大きいと感じており、このためであれば仕方ないとも思う。また、時間枠は、現状の通り(Oral 9～18 時、Poster: ～19 時半)で仕方ないと考えているが、夜の終了がもう少し早いと楽だとは思ふ。
120 分に拡大し昼食時間減、0830-1030, 1045-1245, 1400-1600, 1615-1815 ポスターコアタイム 1830-2000 でも結構です。
1コマの長さとしては長すぎる感じはしないが、結果として、夕方のポスターコアタイムがやや短くなり時間帯も遅い方にずれたのは残念。
3 分の概要説明は、発表者のやり方次第ではあるが、有意義である。これからも続けるべき。そのための時間拡大はやむをえない。
3 分の概要説明は非常に中途半端です。時間枠の拡大には賛成ですが、その分を口頭講演に回した方が良いと思います。
3 分の説明がそもそも不要。どこの学会の文化か知らないが無意味。
3 分概要説明がポスターの冗長な説明がほとんどであり、概要にとどまっていな発表が多く見受けられた。時間の有効活用のためにも、3 分(場合によってはもう少し短くても良い)に必ず収まるような発表をさせるべき。
3 分概要説明が重要
3 分概要説明が絶対にいらない。
3分概要説明について、1件でも5件でも15分枠を確保しなくてはならず、1－2件のポスター説明のために口頭発表1件分を潰さなくてはならないのは勿体ない。例えば7件までなら15分で収めても良いというような柔軟性を持たせるか、コンビナーの裁量でポスター説明を遠慮してもらえるようにして欲しい。
3 分概要説明の方が長いセッションは、疲れた。普通は口頭を多めに取って、概要説明は数件くらいなもの。ああいうバランスでやるところは、指導してもいいと思う。時間を増やしてことは問題ない。
3 分概要説明はあったほうがいいので、コマ割当時間が延びてもしかたないであろう。
3分概要説明は廃止することで、90 分に戻すのがよい
3 分概要説明は必要ないと考えます。

3 分概要説明は不要ではないか。 (コンビナーより、数分程度(スライド1～2枚)でポスターの PR をしていただくのがよいのではないか。)
3分概要説明は不要と思います
3 分概要説明は不要と思った。ポスターに興味あれば見に行くし、なければ 3 分概要も聞かない。3 分概要の分だけ口頭発表を増やすべき。
3 分概要説明をやめて、もとの時間に戻した方がよいと思います。
3 分概要発表があることの周知、使用するのであればプレゼン資料のコンビナー(座長)の手元への集約が望ましい。ポスターの 3 分概要説明にかなり時間がかかっているセッションも見受けられた。
3 分説明不要、各会場での計時を厳しくしてほしい
3分発表は無くしてでも 90 分にするべき。105 分では間延びするうえ、終了時間が遅くなりすぎる。
90 分だと少し短い気がします。105 分で妥当だと思います。
AGU Fall Meeting と同様が良いと思う。
この取り組みに賛同いたします。3分概要説明は今後もぜひ続けてください。おかげさまでポスターに来て下さる方が増えました(2年前比 100%)。
コマが長くなること自体は、この程度であればかまわない。
これはどうしようもないことだが、セッションによっては、90 分でならば 2 コマを確保できたものの、105 分となった結果として 1 コマしか割り当てられず、そのために口頭ではなくポスターを増やさざるを得なかった例はなかったのだろうか。
スケジュールがタイトすぎて、議論の時間が十分に取れない
そのためにポスターも含めた終了時刻が遅くなるなら、口頭講演の 1 件あたりの時間を少し短くするか、3 分概要説明を削るかして欲しい。または、分野によっては、AGU のように、口頭講演の時間帯とポスターコアタイムが平行してもいいかもしれない。
ちょっと長いと思う。ポスターの口頭発表枠は必要ないと思う。
ちょっと長いように感じました。
とくに効果があったとは思いません。
とてもよかったと思います。おつかれさまでした。
ポスター3 分概要説明の時間確保のため、口頭発表の枠が削られ、本来は口頭で申し込んだ発表がポスター発表に変更させられている例があるのではないか。そうであるとするならば、ポスター3 分概要説明は廃止し、その分を口頭発表の時間に割り当てるのがよい。そもそも、質疑応答ができないのであれば、ポスター3 分概要説明の時間は無駄な時間にしか思えない。そんなものはなくしてしまったほうがよい。

ポスター3分概要説明はいらないと思う。
ポスター3分紹介は活性化のためにも望ましい。セッション冒頭とセッション終了時にコンビナーからの趣旨説明や総合討論の時間を5分から10分程度確保できる制度がより普及できると望ましい。あるいは、総合討論用に代表コンビナーに限り、総合討論用の口頭講演を通常の口頭講演に加えて申し込みできる制度があっても良いのではないかと？
ポスターコアタイムは19時までにして欲しい。かなり疲れる。
ポスターセッション発表者はこの時間を効率的に利用してくださっていたようで、概ね好評だったようにみえる。この方式でよいのではないだろうか。
ポスターの3分概要説明は、全く消化不足で時間の無駄。是非中止してほしい。
ポスターの3分概要説明はなくてもよかったのではないかと思います。その分、ポスターのコアタイムを早めたり、口頭講演の質疑を長くした方がよいと思います。
ポスターの3分概要説明は大変良いことだと思います(回りきれないので)。もうキャパシティが限界なのであれば、口頭発表の数を上げてても良いと思います。そうすれば1コマの時間は短く確保できます。口頭発表への採否はコンビナーに一任して良いと思います。
ポスターの3分概要説明は不要。口頭講演のみで90分に収めた方がよい。
ポスターの3分概要説明は不要ではないかと思います。その分、ポスターセッション(コアタイム)の時間を早く長くした方がよいと思います。
ポスターの3分間概要説明は要らないと思います。むしろその時間を、ポスターコアタイムの延長、または口頭講演の時間を延ばすのに使ったほうが良い。
ポスターの3分説明は本当に必要なのか？
ポスターの3分発表は必要ない。
ポスターの概要説明は大変よい。このための時間確保は必要。時間が長くなるようなら口頭講演を減らしてポスターにすると良い。しかしポスター会場は手狭(ポスターとポスターの間が狭い)で見にくいのが難点である。
ポスター概要は1分くらい(スライドなし)で良いのでは。
ポスター概要説明3分が要らない。これを無くして、オーラルを増やした方がよいと思う。
ポスター概要説明は、発表者の入れ替えが多いので、スムーズな進行になるよう、発表者、座長とも、あらかじめ準備をしておいた方がよい。
ポスター概要説明をするかどうかは各セッションにゆだねるべきと思う。それでもう少しコンパクトにする方がよいと思う。そうでなくても参加人数や発表数などは増えているだろうし。
ポスター発表の始まる時間が遅すぎる。口頭発表の時間を9分にするか、AGUのように口頭発表を絞って、ほとんどをポスターに回したり、口頭と並行してポスターのコアタイムを設ける等した方がよいと思う。
ポスター発表の要約説明はあった方がよいと思うので、1コマあたりの時間拡大もやむを得ないと思います。

やりやすかったです
よかった。
概要説明については、もう少し参加者の要望を聞く必要があると感じています。私は、ポスター前での説明で十分かと感じています。その浮いた分の時間で、セッション時間などを工夫して欲しいです。
概要説明は、全体の関係性が見えてとても良い取り組みだと感じた。
概要説明はいらないと思う
拡大してよかったと思います。
期間を7日間以上に伸ばすと、より時間の確保が容易になると考えます。
休み時間を多くとる方がよくないだろうか。
急なキャンセルがあったときなど、コンビナーが三分にこだわらなかった所もあって(時間に余裕ができて)、よかったと思います。
計時をしっかりするべき。質問が多くても時間で打ち切ることを指示しましょう。
現状で問題はないと思う。
口頭のセッションの合間にポスターのコアタイムをもうける日があっても良いように感じます。 例:AM1 AM2 昼休み ポスターコア PM1 PM2 のように、ですが、口頭の裏での設定は、できれば避けて貰いたいです。
口頭講演時間は15分で適当だと思います。ただ、もし3分説明を確保するがためにセッション時間が長くなり、結果としてポスターコアタイムを遅くすることになるのであれば、3分説明はなくてもよいと思います。
口頭講演枠の拡大は良いこと。概要説明にパワポは個人では使わぬようにし、セッション担当者が各概要三枚で個人から集めた物を一つにまとめるとうい。3分の概要にパワポの設定時間がかかり過ぎた。
口頭講演枠を増やすのではなくポスターセッションを充実させるという方向性もあるように思った。具体的には、口頭講演枠は90分程度が時間的には適当と思う。また、口頭講演数を絞りポスターセッションを講演終了後のおまけではなく、プログラムセッションの一つと位置づけるというのはどうだろうか。
今回は、口頭講演数が減らなかったのも、よい変更だと思います。
賛成です。
質疑応答で20分程度は必要に感じるが、各発表時間を延ばすと各セッションの長さの制約から口頭発表の機会を失う可能性もあり、難しいところ。発表時間を選択できるようにするのはいいが、か。
質疑応答の時間に余裕が出来た感じで適切と考える。やはりこのようなシンポジウムは質疑応答が活発でないと盛り上がらない。

終了時刻が 19 時半というのは遅すぎると思う。発表を一人一件に制限するなどして、講演枠を縮める必要があるのではないか。
少し長い
常識的なビジネスアワー内に終わらない構成は論外。
全体の終了時間が遅くなり、ポスターセッションの終了が 19:30 となるのはダメ。
昼休憩の時間が遅くなり、昼に近づくに連れて集中力が落ちてくる聴衆もいると思います。午前中のセッションは 12 時ごろに終わるのが好ましいと思いました。
長い
適切な長さだったと思います。
適当であった
適当である
特に問題無く、切りのいい時間なのでわかりやすかった。
日数も 1 日当たりの開催時間も長すぎる。
入れ替えが難しくなったように感じた。とくに、小規模の通路の少ない部屋では空席に着席しがたいのに立ち見が頻発して不合理であった。
非常により改善案
有益だとは思いますが、セッションが長くなって疲れてしまうので、3 分概要説明は不要だと思います。
良い
良いと思います
良いと思います
良いと思った。
良かった。ポスター概要説明のために、もう少し時間枠を増やしても良いのでは。
良かったと思います

Q15. 3分概要説明を利用してみてのご意見や感想がありましたら教えてください
1分で良いと思う
3分でも十分アピールの価値があり、聴講の価値がある。
3分で説明するには短すぎるので、ないよりはあったほうがいいのかもしいが、その3分概要説明の時間を、他の時間にあてたほうがいいのかではないでしょうか。
3分の概要説明はあってよかったと思います。 ただ、交代に時間がかかっていたので工夫があればと思います。
3分は、結構長いと思いました。全てを聞くと、かなり時間がかかります。もう少し短くても良いと思います。1〜2分程度が妥当ではないでしょうか。
3分は短いと思っていたが、そうでもなく、中途半端に長いよりはよかったように思う。
3分を目安の時間にして、一人の講演時間は人数によってコンピーナの裁量に任せてはいかがでしょうか？ 5人分、15分あって、3人しか申し込みがなかったら、一人4分半といった時間の弾力性を持たせるとかです。
3分概要説明(以下3分プレゼン)を利用致しました。 おかげでポスターに来て下さる方が2年前と比べて100%増(倍増)で、有意義な議論を交わすだけに留まらず、共同研究の申し入れと研究が良い方向に行く場になりました。 来年も3分プレゼンを利用したいです。
3分概要説明が重要
3分概要説明では、PCの交代にその多くの時間が取られているように感じました。 ポスターの概要説明では、発表資料は事前に集めて一台のPCで発表した方が良いかと思います。
3分概要説明のために並んで、順番にプロジェクターにつなぎかえるところで時間のロスが生じると感じました。 この点、改善策があれば幸いです。
3分概要説明は有益と思うが、発表者やコンピーナにその意識がなく、「やつつけ」のプレゼンテーションが多いように見受けられた。
3分間の説明で、ポスターを見たいと考えて、開会直後に来られた方は、講演より十分説明が出来て、よかったと思います。
アピール場になるので続けて欲しい
あれば利用するが、もっと短くするべき。
セッションにより、かなり温度差がある。
セッション終了時間が確実に遅延するという問題もあるので、あえて3分概要説明を設ける必要はないように思いま

す。
どんな発表があるかの概要が分かるためいい
パソコンとスライドをつなぐコネクターを忘れた。 MAC使用者には、コネクターを忘れない様に注意した方が良かったと思った。
パソコンの運搬が大変であることと接続に時間がかかるので、JPGUの方でパソコンを準備して頂きたい。 それが、無理なら講演する人に事前に可能かどうか聞いて、まとめてほしい。
ポスターに加えて準備にそれだけ手間がかかるが、それを補って益あったと思う。
ポスターの3分概要説明は不要だと思います。もしするなら、学生だけにして、優秀ポスター賞選考基準に使用すればいいと思います。
ポスターの宣伝になったかどうか疑わしい。というのも、3分概要説明になると会場を抜ける人が増える気がしたからである。
ポスターの宣伝効果になるので意味があると思うが、発表時間に余裕がなく落ち着いた時間ではないところが改善して頂ければいいと思う。
概要説明はあってもいいと思うが、3分は必要ないのではないと思う。概要なら1分で良い。
学生の発表練習の感じが強く、時間の無駄。 すぐ中止すべきである。
学生や若手には、顔を知ってもらいたい機会だと思います。
簡単な紹介だけでも実施できれば主旨は伝えられる。関心の低い人に対しても宣伝すべき内容もあり、情報発信源として有効に使うことができる。
簡単にどんな内容の発表をしているのか伝えるにはいい機会である。
顔見せという意味では全員やっても良い。
共著者の間でも3分概要説明の是非が分かれてしまい、発表の必要性を感じなくても発表せざるを得なかった。 そして、3分概要説明は、口頭発表を圧迫するだけで、必要性を感じない。 時間延長してまで説明する人を見ていると、もはやその研究に興ざめさえてしまう。
口頭講演に時間を割いた方が良くないのではないのでしょうか。
今年は自分では利用できなかったが、3分間という時間は思った以上に説明が可能であり、かなりの内容を説明できると感じた。 ただし、今年は利用しない人や短い説明の人が多かったため、聞く側も集中力を維持できたが、ポスター発表者が全員、3分間みっちりとして説明したら聴衆が集中力を保つのは難しいかもしれない。 件数とのバランスの問題かとは思う。

司会者から時間超過を言われ、途中打ち切りを強く言われて困りました。こんなことは初めてでした。司会者は私の次の最後の発表者だったのです。スピーチの中で「自分のスピーチはたったのこれだけに短くした」と皆の前で一言言われました。(時間足らずになったの意味と聞こえました)」こんな訳で後の講演者に迷惑がかかりました。私の場合内容が文系との学際で練習していても、いざ3分間の本番では喋りにくかったのです。学際や皆が意外に思ったりなじみが薄く理解しにくい珍しい研究は聴き手にもわかりにくく例え1分でも延長裁量があればこの様なことは防げるかと考えます。複数の部門にわたる場合等は裁量幅があればと思います。途中ゴングは無かったとおもうのですが、夢中でしたのでわからなかったのかもしれませんが。
私の場合もそうでしたが、いずれにせよそんな短時間では十分な説明が出来ないので、必要ないかと思います。
時間に余裕があるなら5分枠でもよいと思う。
時間の感覚がつかめない
自己の概要説明に関しては、あらかじめ要点の整理することができたため、コアタイムに説明する際にも役立った。他者の概要性説明に関しては、口頭セッション中にまとめて聴くことができたため、ポスターで聴く前に大筋が理解できるためポスターのまで聴く時間の短縮ができ、さらに特に詳しく聞きたい発表を絞るのに役立った。
手法の詳細を飛ばして、結果とその意義に焦点を絞って発表したところ、大変好評であった。前置きのな発表を行い、続きはポスターでというのも多かったが、あまり聴きに行く気にはなれなかった。
前に書いたように、3分概要説明は廃止し、その分を口頭発表の枠に割り当てるべき。質疑応答ができないのであれば、何も意味はない。
短いと感じた。可能ならもっと長くしてほしい。
中途半端な時間である。概要説明不要。 口で何か言いたいのなら口頭発表すべきである。
必要性を感じない。
予め1台のPCに全員のスライドを集めておくスムーズに進んで良いと感じた。
要らない。時間が中途半端過ぎるし、PCの接続変換などで時間を消費するケースが多い。その分、若手のオーラルを1件でも増やした方がいいと思う。

Q16.【(ポスター講演者で)3分概要説明を利用しなかった方にお尋ねします】3分概要説明を利用しなかった理由があれば教えてください
・当日来られるかどうか未定だったため ・そもそもポスターの内容に興味がある人々しかそのポスター周辺に来ないし、そのような人々はたいい発表者と直接話すことになる
3分やるなら12分やった方がいい。
3分概要説明の設定のないセッションであった
3分発表がある事に発表の直前まで気がつかなかった為です。 私が発表したセッションはポスター発表が21日、22日の2日間ありました。当初は21日だけ発表と連絡された為、22日に予定をいれた後に22日もポスターの掲示と3分発表がある事に気が付きました。
3分発表は必要ない。短時間で次々と講演者が変わるため、時間超過の原因だと思う。
オーラル・ポスターの別を明確にすべきと考えたので。
コンピーナーから、口頭発表時間の確保のため3分概要説明をしないよう指示があり、もともとは3分概要説明を希望していましたが辞退しました。後日同じセッションの他の講演者は3分概要説明を知りました。講演者により対応が違うのはひどいと思いました。プログラムも決まっていたためあきらめました。
スケジュールが合わなかったため
セッションが午前中でポスターのコアタイムと時間が離れており必要性を感じなかった。
セッションに概要説明の時間が設定されていなかった。
セッションの担当の方から外れてほしいと言われたから。
せわしないだけで、実がないという印象。
タイトルや要旨で興味をもってもらえた方にポスターで説明できれば十分な内容であったから。
ポスターで説明すれば十分
ポスターと別に発表資料を準備する手間が大変
ポスター概要説明をするかどうかは各セッションにゆだねるべきと思う。
ポスター発表の内容が、あまり当該セッションに聞きに来る人の専門性とあまり関係がないと考えたため
意図がよく分からなかった
会議と重なり、利用できなかったが、可能であればやりたかった。
会場に貼ってあるポスターを、てすきのおりに随時見に来れば、内容はおのずとわかる。聴衆を拘束までして、3分で手短かに話すことに意義を見いだせません。
概要説明する時刻前後の時間を拘束されるから。
急用ができたため。
口頭枠を圧縮してまでやるほどの重要性を感じられないため。そもそもどうして概要説明の制度が始まったのかの具体的な説明がされていない。加えて昨年度の評判がどうだったのか、それをふまえて今年度も継続したのかの説明もない。このまま口頭発表という貴重な時間を圧縮するような方針は全く支持できない。

初めての参加でどのようなものか知らなかったから
私が参加したセッションにおいては(複数あります)、3分概要説明での発表割合が少なかったです。私自身も利用しませんでした。3分という中途半端な時間では内容を説明しきれないということもありますので、私はこの制度は必要ないのではないかと思います。
時間が足りなかったので、みっちり3分その場にいられなかった。(他の説明も聞きたかったので)
自らがセッションのコンピーナーであり、口頭発表のプログラム編成も行ったが、自らのポスター発表(口頭発表希望からポスターに回した)の概要説明を入れる時間的余裕がなかった。
質疑応答がなく一方的な紹介だけになり、また3分では紹介しきれず、あまり意味が無いと思われる。
実演メインなので、3分説明する意味があまりない
授業とバッティングすることをおそれたので。
準備の煩雑さを避けて
初めて知った
上に書いたこと参照。また、ポスター3分概要説明のために、わざわざスライドを作り、パソコンを会場に持参しなければならないことは、大変な苦痛である。
説明しなくても見に来ればいい 3分説明を続けるのであればプロジェクト使用禁止にする
他のセッションを聴講する可能性があったため。 PC等の機材を準備するのが煩雑だったため。
大学での講義の都合から、タ方のポスターセッションへの参加は確実であっても、口頭セッション中にある3分概要に間に合うかが分からなかったから。
誰も聞いておらず無意味だから。準備が二度手間。
同日開催であることが予め確実でない
特になし
発表内容が不確定であったため
筆頭著者が就職したための代理発表だったから。 それでも内容を簡単に紹介する機会を生かす選択もあったが、なんとなく遠慮した。次回以降は、機会を生かす方向で考えたい。
利用することに意義を見出せない。

Q18.【ポスター講演をしていない方にお尋ねします】3分概要説明について何かご意見等がございましたらお聞かせください

1 会場で聞いただけなので、まだどうすべきか判断できない。

2分で十分だと思います。

3 分だと長過ぎるように感じました。1 分の方が要点を明確に話す講演が多くなり、聞く側としてはより内容が頭に入りやすくなると思います。

3分だと内容的に盛りだくさんになるので、1、2分でよい。しかし、是非続けてほしい。ポスターセッションは全部見てまわるのは、時間的・空間的に至難であるので、概要説明を聞いておきたい。アブストラクトは3か月前に書かれたものなので、古くてあまり参考にならない。

3分というのは口頭講演の1/3～1/4程度の時間があることになり(発表自体が10～12分、質疑が5～3分であることから)、ミニ口頭発表のような印象を受けました。ポスターの概要紹介は1分程度にして、減らした分を口頭発表枠としてもよいのではと思います。

3分という時間は、やや長過ぎで、1分または2分で良いと思います。

3分は長すぎ。1-2分で十分。緊張感が無くなる。session 単位でなく、大きい枠組み全体を Short-presen で紹介する。session 単位では、presen の意味、紹介のメリットがない。

3分概要説明のみコンピュータ所有のPCを使用しているセッションもあったが、MacとWinの問題でうまく表示されないことも多かった。また、3分しかないのに背景一手法を丁寧に説明するなど、“概要説明”という意義を理解していない講演者が多く、少なくとも現状では、無くても良いのではないかと感じました。

3 分概要説明の方が長いセッションは、疲れた。普通は口頭を多めに取って、概要説明は数件くらいなもの。ああいうバランスでやるところは、指導してもいいと思う。

3分概要説明は、見たいポスターを事前に絞り込めて有効であったと感じる。

3分概要説明は効果的にどのようなポスターがあるのか分かるので大変よい。ぜひ続けてほしい。

3分概要説明は必要ないかと思われます。

3分概要説明は不要。

3分概要説明は不要。その時間を削ってポスターセッション開始を前倒しするべきである。

3分間に、研究の目的や方法、内容、成果等を、如何に効果的に集中してアピールするか、印象付けるかを伺え、有意義。原則として、ポスター講演者の全員が3分概要説明するように制度を変えてはいかがでしょう。

3分講演に入ると会場を出て行く人が多かった。

3分講演ではなく、コンビーナからの紹介でも良いのでは。関連する口頭発表の前後に関連するポスターも紹介するなど。

JpGU アプリの「3 分発表」の枠に 3 分概要説明発表者の名前を表示して、抄録へ飛べるようにして欲しい

PC 切り替え時間をもたない

あった用が良い

あまり意味がない。

コンビーナとして、3分概要説明を行ったほうがよいと思う。行わなかった発表者もいたが、全員の概要説明を行う時間を確保することができるのが理想である。

タイトルだけではわからない、その発表のおもしろい部分を事前に知ることができ、限られた時間内で効率的にポスターを見るためにとても効果的だと思う。

とても良い試みなので続けていただきたいです。前もって1～数枚のスライドを座長に提出しておく、入れ替えの時間が節約できて良いと思います。

とても良い取り組みだと思います。

ポスター会場が混雑するのを防げるのと、要点がダイジェストにわかるので。

とても良かった。この制度をつづけてほしい

どのようなポスターがあるか分かってよかった。次回以降もあってほしい。

3分ではあるが、講演者によっては適切に研究内容を説明できており、効率よく情報が収集できた。また自分の研究を端的に説明する参考にもなった。

プロジェクターきりかえで時間のロスがある会場がいくつかあったので、あらかじめ座長やコンピーナーが発表を集めて1つのパソコンで操作することや前後の人と協力するなどの「案内」をしてあるとスムーズに行くかと思います。

プロジェクトに接続することを禁止すればいい

ポスターの3分概要説明は必要ない。

ポスターの概要説明は不要。するとしても3分は中途半端。口頭発表と勘違いしている。口頭と同じイントロ → 手法 → 結果という流れはいらない。一番アピールしたいところと“概要”のみの1分にすべき。聴衆は同じセッションの人である以上、スライド1枚で十分。

ポスターの宣伝タイムがいらないと思う、あの時間を口頭講演に回せばもう一人発表できるのでは。

ポスターの内容を十分説明しきれぬものではないし、したがって中途半端なものになっているものも多く見られた。前の質問にもあったが、セッションがぎちぎちになっているのならば、この時間帯も口頭発表の時間とした方が有効的なのではないか？

ポスター発表の概要説明は、必要ないと思います。もしやるなら、スライドは1枚(スライドショーなし)で1分程度にすべきです。口頭発表並みにスライドを出す人もいました。

ポスター発表の要約説明はあった方がよいと思います。
ポスター発表は、興味のあるものすべて見れる(発表者の話が聞ける)わけではないので、3分発表が聞けるのはありがたい。
ポスター発表を促進する意味でもとてもいい制度だと思います。
もう少し 5分位が適当と思います
よい。継続すべき。
ライトニングトークはテンポが命なので、あらかじめ1台のPCにスライドを集めておくのが良い。
一度に沢山の発表を概観できるので見る方としても有意義です。
一部の会場では、説明者の切り替えに手間取って時間がかかっていた。少なくともポスター紹介だけでもパソコンをま とめておくなど工夫が必要。
会場PCにスライドを集約させるよう統一すべき。あるいは接続替え時間も3分に含めるなどして、とにかくスケジュール を守らせること。
概要はアブストラクトを見れば分かるし、概要説明はなくて、その分セッションの時間短縮を図るべき。
概要説明があった方がポスターを見た時に理解しやすい。
概要説明にパワポは個人では使わぬようにし、セッション担当者が各概要三枚で個人から集めた物を一つにまとめ るとよい。3分の概要にパワポの設定時間がかり過ぎた。
概要説明は、時間の超過を生むのでなくした方がよい。
概要説明はいらないと思う
概要説明はなくてもいいのでは。
概要説明は大変良い仕組みだと思う。アブストラクトをちゃんと読んでいないズボラな自分には発表内容が明確にイ メージできて非常にありがたい。
各自のパソコンをつなぐのではなく、事務局か座長のパソコンにデータを集めて表示するようにしてほしい。
学生の発表練習の感じが強く、時間の無駄。すぐ中止すべきである。
希望があれば行った方がよいように思います。
機器のセッティングを切り替えるための時間がどうしてもかかってしまうという問題があった。そのため、座長にスライ ドをまとめることや、接続切替器の用意などを検討して欲しい。
形骸化を恐れる。口頭とポスター区分は、AGUやEGUと同一基準にすべきである。
見たいセッションが重なっているとき、見れなかったほうのポスターを見に行くようにしていますので、概要説明はあま り参考にしていません。概要説明も、時間が足りず途中で終わってしまう場合も多いので、座長がタイトルコールをす るだけでもよい気がします。
口頭講演数が減らない限りは続けてもよいと思う。
口頭発表時間が不足する。
座長に、時間制限の厳守を徹底すべき。
時間オーバーする人がほとんどなので、プログラムの組み方に余裕を持たせた方がよい。
時間の無駄

時間短縮のためであれば、なくてもよい。
説明が長いものが見受けられた。1件あたり3分でも件数が多く、30分以上費やされていた。1件あたり、パワーポイ ント1〜2枚に制限すべきでは？
全セッション、3分間講演の際には事前に1台のPCにファイルをまとめるように規定すればもう少し進行がスムーズ になると思います。
短すぎるため、パワーポイントを用意していない方や時間を超過する方がいた。3分の概要説明をなくすか、パワーポ イントを必須として時間厳守にするなどの制約が必要であると考える。
聴講者にとっては有益と思うので、今後も維持していただきたい
特になし。
内容の概要を知るのに便利であった
発表準備に時間がかかるので、発表ファイルはあらかじめ一つのパソコンに入れておいた方がいいのでは？
発表数が増加していることを考えると、時間の関係上、ポスター3分講演は実施しない方がよいと思います。
発表内容が事前に分かるので、良い企画と思う。
非常に良い試みだと思う。切替時間が勿体無いのでコンピーナがPC用意し、ファイルを集めて発表を行い、終了後 にファイルを消去、ではいかがでしょうか。
非常に良い制度なので、維持してほしい。
必要ない
必要なのか？
本年通り、ポスター発表の希望者が各自で利用するかしないかを希望提出できるのが望ましい。コンピーナにも希望 者多数の場合の調整権を与えても良いのではないか。
夕方最後のセッションは発表が長引いて、3分発表がコアタイムに重なっているものがあつた。3分発表を行うより、コ アタイムを充実させたほうが良い
余計。聞く価値がない。見たいポスターか否かは先に調べるか会場で見を確認する。
要点のみ伝えてくれるので、大変助かります。これからも是非続けて下さい。
要点をさっと紹介してくれる分にはいいが、ながながと全部説明しようとする人がいるのは困る。発表者の意識の問 題ですが・・・
良いと思います。
良いと思うが、ポスターのコアタイムを後ろにずらしてまでやる必要はないと思う。
良い企画だと思う。
良い仕組みだと思います。講演者が仕組みになれていないため、前回と今回は少し混乱することも多かったように思 いますが、定着すれば安定化すると期待します。

Q21. 口頭講演会場について、不満な点、改善すべき点がありましたらご自由にお書きください
コンピーナの先生から、発表の流れについての指示が事前に具体的にあると良いと思います。当日にこのようにやりますと言われても対応に困る点がありました。 座長を補助する学生(?)が私服であるのは非常に違和感を感じます。公の場で行動すること、ましてや今回のような外に開かれている学会においてはフォーマルな正装で対応して頂きたいと強く思いました。
”狭かった”という表現は適切ではないが、客数/席数が 150%を超えるセッションもあった(約 130 席に対して約 200 人)。集客はそのセッションや講演者の魅力のみで決まるわけではなく、同時並行で開催される関連セッションが少ないまたは無いといった消極的理由によって客数が増えることもある。そのため、調整は難しいことが予想されるが、関連セッションも考慮した部屋割が望ましい。 地震学会単独で開催されている秋季大会では、4会場で合計 800 席程度確保されるケースが多い(もちろん会場によっては空席が目立つことも多いが)。これに対して今回の連合学会では、地震学関連セッションで参加者が多いものに限ると、2会場で合計 300 席程度しか確保されていない時間帯もあった。これではあまりに窮屈であると感じた。
101Aと101Bが案内と逆になっていました。会場の大きさに違いがありすぎるような気がしました。 狭すぎたり椅子の配置が悪かったり、前の方に行けない場合があります。
106 号室を利用しましたが、19 日午前の時点で場所の案内が全くなかったため、迷う方が多く見られました。また、会場のサイズに比して、スクリーンが非常に小さかったため、半分より後方に座ると文字が判読できないなどの大きな問題がありました。スクリーンの大きさは事前にわからなかったため、予めプレゼン資料の文字を大きめにするなどの対策を行えませんでした。
201 室の照明が「全点灯」か「全消灯」のいずれかしが使えず不便。
3F と 1F の動線がなく、行き来が大変であった。
3 階の一部の部屋で、外のワークスペースからの騒音がやかましくて、聴講に差し支えた。ワークスペースはもっと不便な場所に追いやるべき。
3 列の椅子があるとすれば、必ずと言っていいほど、真ん中の席は空いている。座長、または、特定の係を設け、もっと強制的に席をつめるよう、直接指導するようにする。壁際に立って発表を聞くのは足が痛くて苦痛であるし、座っている側の人間からすれば、会場に出入りする際に大変な邪魔である。
IC と次に広い会場の差が大きすぎるように思う。
S-SS31(海溝型巨大地震)のセッションでは、収容人数の倍近い聴衆が集まった。例年のことなので、IC で開催していただきたい。また、そのような部屋では、室温が高くなるので、空調を使用すべきと思う。
S-SS31 海溝型巨大地震 など興味深い内容でしたが会場に人があふれ、入ることもできないような状況でしたので、次回はもう少し広い会場で実施していただけると幸いです。
いくつかのセッションで、会場に人が入りきれいていないことがありました。

いくつかのセッションで立ち見が 5~10 人程度いました。講演が続くと立ち見はつらいので、もう少し椅子の数を増やしてほしい。
うる覚えだが「国際会議室」と「カンファレンスルーム」など、同じ部屋に対して「幕張メッセとしての正式名称」と「JpGU における呼称」が統一されていないため混乱した部分があったように思う。
ここ数年同じ会場のため、会場の構造が大体わかっているので詳細な案内がなくても問題なかった(Conference の世話人側を経験し、会場探しを経験している立場からいえば、幕張メッセの講演会場の配置は複雑な部類に入る)。ただし次回のように開催地が変わる場合はフロア図など分かり易い案内がないと困ると思われる。
この「足りなかった」というのは、特に 2 階から 3 階へ上がるところの案内が、大学展示が「はみ出してきて」みえにくかったということがある。この点も企業・大学展示が増えてきたことの弊害で、何らかの工夫をする必要があるだろう。
スクリーンが横幅が大きく、縦幅が小さいため、スライドの表示が小さいと感じた。
スクリーンが小さかったです。液晶プロジェクタへの接続ケーブルが一つしかなかったので、PC のつなぎ替えに手間取っていました。2 台が切り替えられるシステムが欲しいです。
スクリーンが低い、下半面が見えない
セッションごとの会場の広さについて、難しいとは思いますが、入りきれないような会場にならないよう検討ください。
セッションによってはやや手狭な感があった。
セッションの参加人数と会場の広さがアンバランスであった。ICはおおむねガラガラ(ガラガラは歓迎だが)、3Fの狭い部屋で入りきれないほど集まっていたこともしばしば。後者で聴講をあきらめたことも。
セッションの参加人数に比べて座席数が圧倒的に不足していた。
セッション会場には非常に狭いものがある。
セッション参加人数と、会場の規模が合っていないように感じます。なるべく事務局の方が、開催中に会場の様子をチェックされた方が良いと思います。
どこに何があるのか分かりづらい。
ブラジェクターの写りが悪かった。後の講演者も同様であった。プロジェクターのバックアップなどの対処があればとても助かります。また、レーザーポインターが見にくかったです。
プレゼン画像の撮影禁止や録音禁止は不満である。通常のシンポジウムでは発表内容の要約資料や画像のプリントが配布されるが、この総会ではそのようなサービスがないので、せめて画像のカメラ撮影程度は許可して欲しい。
プログラムの時間を守らないセッションが多数あり、目的の講演を聴きにいっても始まっていなかったり、終わってたりした。いくつかのセッションがあるので、時間を厳守してもらわないと聴きたい講演を聴けないことが多々ある。
プロジェクターのケーブルの接触不良があったので直してもらったが、事前に確認しておいてほしいですね。
プロジェクターのスイッチャーがあるとよい。

プロジェクターの色が上手くでないことが多かった。
プロジェクタのコネクタを2本用意してもらえると、切り替えがスムーズになってありがたい。
ホールの次に大きな会場が 301 クラスで、その間のちょうど良い会場がない。ユニオンセッションにホールをあてたにもかかわらず、がらがらで3F 会場が入れないほど人があふれている状況があった。事前にコンピーナからも申し入れがあり、予想できた状況であったのに、受け入れられなかったときいている。セッション整理とともに解決しなくてはいけない問題だと思う。
また、空調を効かせてないため、会場内がきわめて不愉快な場でありました。基本立ち見でした。非常な混み具合で部屋に入れないセッションも有り、大変不満の残る学会でした。
もう少しゆったりと聴きたいものです。
ユニオンセッションが一番大きな会場を占めて、しかもガラガラであることをどう考えるのか？特に懇親会の日の連合幹部顔見世セッションがひどい。誰のための大会か？
ユニオンセッションは大きな会場にもかかわらず集客が少ない。一方、海溝型地震など人気のあるセッションで会場に聴衆が収まりきらずパンクしていた。部屋割りについてはもう少し改善策が必要と感じた。
ユニオンセッションを必ずしも IC にする必要はない。その影響で混雑しすぎている会場もある。
ユニオンのつまらないセッション(とくに懇親会の日のセッション)はもっと小さな会場でやるべき。実際ガラガラでしょ？集客できるようなセッションを提案・運営できない連合首脳の我がままのために大きな会場を使わせてどうする。
レーザーポインターの不良で、講演者の指している箇所が分からない講演がいくつもあったのは、非常に残念だった。
椅子の間隔が狭く、ゆったりとできない感じがあった。もう少し、一人ひとりのスペースを大きめにしていただけると嬉しい。
椅子の配置がそろいすぎていてスクリーンが見にくかったです。偶数列と奇数列で椅子幅半分ずつずらして配置すれば、前の人の頭の間に後ろの人の頭がきてスクリーンがみやすくなるのではと思いました。
異常に混雑して入退室すら難しいセッションがあり、会場の広さや JPGU というシステム自体に限界を感じた。
一部、聴衆の数に対して極端に狭い部屋があったり、その逆があったりするのが不満です。
一部の会場では満員で人が溢れていた。特に地震関係のセッションは、大きい会場をあてるか、複数セッションを同時に開催して入場者を分散するか工夫しないと、合同学会に参加することに疑問を持つ人が増える恐れがある。真剣な対策を望む。
一部の講演については部屋が狭く、かつ空調の効きが悪いのに加えて通路に面しているため外からの騒音がうるさかった。(101A, B)
横長の部屋は良いが縦長の部屋はスクリーンが遠く、やや見にくかった。
会場が狭い。終わる時間が遅い。もっとポスターに回して時間を減らすべき。
会場が狭く、また人が多いため蒸し暑いセッションがあった(S-SS25 内陸地震や、S-SS31 海溝型巨大地震など)

会場によっては、発表時に照明を「すべて OFF」にした場合があった。メモをとりにくいこと、プロジェクターが十分に明るいことから、一部の照明を残すことを、徹底してほしい。
会場に入りきれないセッションがあった一方で、国際会議場がガラガラであった時がある。フレキシブルに会場設定してほしい。
会場に入りきれない場合、入れてもずっと立っている状況が多く、正直、疲れた。
会場の広さがまちまちで、多くの人が来ているのに会場内に入れなかったり、人がいないのに広い部屋でスカスカだったりしていた。その辺は参加者に事前にアンケートを取って部屋を決めるなど、対策が必要だと感じた。
会場の広さは、私が参加したセッションの3つのうち2つは少し狭く感じました。それから、イスの数ももう少しあればよかったと思います。会場の案内図が、各階の階段やエスカレーター付近にあれば便利かなと思いました。
会場の制約ではあるが小規模室は混雑している箇所が多かったので、読みは難しいものの継続的な改善を要するよう思う。IC をユニオンセッション優先にすぎしており、がらがらのユニオンセッションの裏で大きい会議室にでさえ入りきらないセッションがあるのは大変遺憾。
会場の大きさに比べスクリーンの大きさが余りに小さいものがあった。また、コンピュータのプロジェクタ切り替え機が以前あったと思うがあった方が、交代がスムーズになるのである方がいい。
会場の入り口など主要なところに、矢印等を書いた立て看板がほしい
会場はよかったが、配置案内がよく分からなかった。
会場数が多すぎる。口頭発表は厳選すべきだと思います。
会場内で internet 接続出来なかったのは、まずい。講演要旨を配布しないのだから、会場で要旨を見たい場合がある。
会場内でも WiFi を拾えるようにしてほしい。現状では、肝心なところで、オンライン予稿集にアクセスできない。
会場配分の聖域なき配置転換を
海溝型巨大地震のセッションがひどいことになっていたので、どうにかしていただければと思います。
海溝型巨大地震のセッションが椅子が足りないどころか、立ち見でも部屋に入れない人がいたので、部屋を考慮すべきだと感じました。どうしても狭い部屋しか配置できない場合は、別の部屋へインターネット配信をするような工夫も今後検討していただければと思います。
海溝型巨大地震のセッションの会場は狭すぎた。
海溝型巨大地震のセッションの時、他に地震関係のセッションが少なかったこともあり、超満員で、中に入ることすら出来なかった。一方、同時刻のICはガラ空きとなっており、会場の選択ミスと思われることが度々あった。ICと同レベルの会場があと一つぐらい欲しいところです。
海溝型巨大地震のセッションは明らかに会場のキャパが足りていなかった。その裏で IC でのセッションは空室が目立っていた。今回のプログラム編成では明らかに海溝型セッションは人が集中するのが予想できたのに、参加者の立場

に立った会場の割り当てがなされていなかった。とても残念でならない。
海溝型巨大地震関係は聴衆が溢れて入れなかった。この傾向は今後しばらく続くと思います。もっと大きな会場を割り当てて下さい。
外側の座席からうまっていき、内側の座席は空席のままになってしまうことが多いと思う。途中からでも内側の席への出入りがしやすいよう、座席のブロックをできる限り小さくしてはどうか。
閑散としたユニオンセッションが一番大きな会場を使っているのに問題がある。今年は最悪。
基本的には十分な広さでしたが、一部のセッションでは立ち見が溢れ、室内に入る事が出来ない所がありました(地震関連に多かったと思います)。事前に「あなたが興味がある(口頭講演を聞きたい)セッションはどこですか？」等のアンケートを取って、入場者数を現状より適切に予想した上で使う部屋を決めたら良いと思います。
狭い。人数が増えそうなセッションなのに狭い部屋を使っている、その上隣は使われていないなど、より柔軟な部屋の運用が必要では？
狭い会場が多く、見れないことが多かった。
狭い上に空調を入れてもらえず、気分が悪くなる会場があった。
極端に大きい部屋や極端に小さい部屋が多く、適度な広さの部屋が少なかった。
経過時間を表示する装置があるといい。
現状で問題ないと思う。
固体地球の中でも、とくに地震学に関連するセッションは、会場は満員で立ち見すらできない状況である。大会参加料を払って聞きに来ているのに講演会場に入れないう状況を放置するのは、大会側の怠慢だと考える。「海溝型巨大地震」のように、多数の聴講者があらかじめ予想されるセッションについては、IC会場を開放すべきである。また、このような満員の会場でも空調がほとんど効いておらず、非常に蒸し暑くて集中して聴講できる環境にない。天候によっては熱中症のおそれもあると思うが、このような点も考慮して、大会はきちんと対策を考えるべきである。
公演中に扉を開いたときのざわつきが気になりました。特に小さい会場では顕著でした。
口頭会場の配置がわかりにくく、うろうろしてしました。
口頭会場は、概ね適当な広さだと思います。しかし、セッションによっては、立ち見どころか、入口付近で人が溢れてしまつて、中に入れないような部屋もありました。
口頭講演会場は、セッションに寄ってはやや手狭であったのは事実だが、席が大幅に余っているセッションもあり、それはある程度しかたのないものと考ええる。この点では、可能な範囲で
広い会場にガラガラのセッションと、狭い会場で立ち見もでるセッションがあつて、アンバランスさを感じました。(もちろん事前に聴衆の数を予測するのは難しいとは思いますが…)
広い会場にもかかわらず収まっていなかったセッションが多かつたと思う。特に3階。
講演会によって会場が狭すぎる、また広すぎると思いました。

国際会議場以外が狭すぎます。沈み込み帯地震関係のセッションは聴衆で溢れかえっており、非常事態が起こつたら大変危険だったと思います。
今回かなりの講演者がプロジェクターでトラブルしていた。
今年から事前のプログラム(会場案内つき)の配布がなくなったので、会場さがしが難しくなりました。
混雑するセッションとそうでないセッションの差が大きい。解決策の提案は難しいが、どのセッションも十分な広さの部屋を確保できる会場にすることか。
昨年度は影響プロジェクターへの接続ケーブルが2本あったので、口頭講演の交代が非常にスムーズだった。しかし、今年度は自分が知る限り1本のみであった。今後は、是非とも二本利用できるようにして頂けるとセッション進行が円滑に行われるので、是非とも願いたい。
冊子で、101A 室と 101B 室が逆になっていました。
参加したほとんどの会場が狭かつた。立ち見ならまだしも入ることすらできない会場もあり不満だった。
参加者の人数がどの程度かで部屋を割りあてる必要がある。国際会議場なのに、全然参加者がいない(ユニオン)セッションは、もったいないと思った。逆に、部屋の割に、参加者が多すぎて、入りきらないのももったいない。
参加者数に対して部屋が狭すぎるセッションがあつた。
仕方のないことかもしれないが、人気セッションは立ち見がでて、座れない。講演の合間に部屋を抜けたり、部屋に入るのが困難。一方でガラガラのセッションもある。会場との兼ね合いだろうが、もう少し人の入りを予測して、会場の割り振りができればよいと思う。
私が見たセッションは会場から人があふれていて、講演者にとっても聴衆にとっても不幸な事態でした。
自分が参加したセッション(S-SS31 海溝型巨大地震の新しい描像)は講演数が多く開催期間が6コマにわたった割に小さな会場であつた(302)ため、常に立ち見があり会場に入れず講演を聴けなかった参加者も多数いた。一部のコマだけでも大きな会場にしていただければ良かった。
室温が高すぎる部屋があつた。
質疑応答用のハンドマイクなどが必要です。広めの会場では質問者の声が会場の後ろに届きません。
写真・録音を禁止とするならば、メモが取れるようなテーブルを用意すべきである。
趣旨が似たセッションをプログラム委員会主導で統合させることによって、運営に余裕が持つことができれば、比較的狭い口頭講演会場を使うことなく会場に入れない人が出ないというのが防ぐことができると思います。
縦長でない会場が望ましい。
縦長の会場(例えば101、102、103)は、もう少しスクリーンの大きさを大きくすることができれば、望ましい。
暑かつた。
人気のあるセッションでは、講演会場に人が入りきれないことがあるので、国際会議室のような広い会場がもう少し必要。

人気のセッションは入りきれない一方、閑古鳥の鳴いているものもあった。部屋割りを見直すべき。
前の座席の人(頭)越しでスクリーンが見づらい。できるだけ天井高のある会場でスクリーンを上げるようはかれないか。
全公演会場に各 1 台のプレゼンテーション用 PC を配備した方が良かったかと思いました。
全体的に広さは十分でしたが、海溝型巨大地震のセッションは参加者に対して会場が狭かったように思います。
大きな会場はセッションによっては閑散とし、狭い会場は概ね混雑していました。「入場者数」の予測と部屋割りは難しいのでしょうが300番台の会場程度の広さが増えるといいですね。
地震学のセッションは軒並み会場が手狭過ぎて、しばしば人があふれた。
地震学関係の規模の大きいセッション(海溝型巨大地震、強震動・地震災害など)が本年はICに割り当てられず、1 階や3 階の狭い部屋のみで開催されていたため、時間帯によっては、部屋の後ろのみならず座長席付近や真ん中の通路にも人が並ぶのみならず、室外にあふれている参加者が多数いた。部屋の収容定員を考えると、消防法や建築基準法(気積)に違反している。その時間帯にICは閑散としていた。それでも十分な広さが確保できない場合、別会場にて中継が必要。実行委員会は見回りをしているのか疑問。
地震関係(特に海溝型巨大地震)の会場がせまく、入り口に人が密集していて途中から入場できないくらいだった。地震関係のプログラムが一つかない場合は集中が予想されるので対処すべきだった。
地震関係のセッションが会場がせまく、込み込みでちょっと困った
聴講人数と会場の広さが釣り合っていないセッションがいくつかあったので改善してほしい。そのために、大会参加の事前申し込みの際に、どのセッションを聴講するつもりかアンケートを取ってはどうでしょうか(3つのみとかでもいいと思います)。もしくは、全部の会場を埋めずにその場の判断で空いている会場に音声とスライドを流すようなことはできないでしょうか。
超巨大地震のセクションが極めて狭く、立ち見、帰る人が多くいた。各学会の枠を超えた内容故により広い会場で開催すべきと思う。
定員に対して適切な口頭講演会場が割り当てられていない。過去の多数年度の統計が反映されていない。参加費をとっている以上、過去の多数年度の調査は責務であると思う。それに対して適切な対応ができない場合は、全参加者に事後説明が必要である。
適切な大きさの講演会場が確保できる場所に変更すべきである。幕張メッセ国際会議場ではもはや対応しきれないと思う。
当日、入り口でプログラムを配っていただけたので、それを見て部屋の場所を確認できた。プログラムがない・忘れた場合には、部屋の確認をするのが非常に困難なので助かりました。
当方が関係するSS31セッションの会場302は、定員200にもかかわらず多くの人が会場に入れず、入口付近にあふれていた。過去の実績から、各セッションの参加人数、会場の空席率がある程度予想されるはず、なので、会場の割り振りを柔軟にしてほしい。あるいは、年々総参加者数が増大しているので、会場数、規模全体について再考する時期？ 来年の横浜の会場に生かしてほしい。
同じ分野に関連するセッションを並行開催して、人を分散させた方が良いと思う。

部屋が狭すぎて人があふれていた。プロジェクター接続の切替機がないのは問題。特に3分発表では進行に差し支える。アルバイトが一人で時計係とマイク係を兼ねていたが、途中でマイクはあきらめていた。あれでは大変。撮影禁止に関するアナウンスを徹底すべき。IINE カードのアナウンスよりよほど重要ではないか。
部屋ごとの面積の差が大きすぎるというのが実感です。小さすぎる部屋は使わない方がいいのではないのでしょうか。
部屋の確保が困難なら、まずユニオンからなくすべき。聞きたくないものに参加費を徴収されているのは不創快である
部屋番号の配置図を各所に立てる。
部屋毎の室温の行程に差がありすぎ。
複数の口頭発表を行いました。部屋が限られているので仕方がないと思いますが、セッションによって部屋の広さがかなり異なり、立ち見でいっぱい会場もありました。また、2 階の比較的小さ目の部屋の一部では扉の開閉時の音が非常に大きく、発表にも影響を与えるほどでした。発表途中でも出入・退出者が大勢いますので、とても気になります。(途中から、常に空けておくように、扉下に紙を挟み固定させました)。扉の上の支えの部分の調整をするか、扉を解放したままにできるようにするなど、検討をしていただければと思います。
聞きたくても満員で入れない会場があった
毎年、混雑する会場とそうでない会場があるのですが、混雑状況について座長に聞くなどしてフィードバックはされているのでしょうか？
毎年のことですが、広くてガラガラのセッションと、狭くて人が溢れているセッションがあるので、セッションごとに聴講者数を把握して(難しければ状況だけでも把握して)、次年度の部屋割に生かすべき。
幕張メッセは会場が広いため、細やかな案内が必要かと思いました。案内ボランティアなど、以前は活用されていたかと思いますが、今回はお見かけしませんでした。
無線 LAN 環境が不十分であった。 会場によって入らなかつたり不安定であったため、要旨を十分に確認できなかった。
明らかにキャパシティが不足して、立ち見ですら入りきらないセッションも多くあった。特に海溝型巨大地震セッションはセッション開始 15 分前には満席という状況で、明らかに会場設定のミス。結果論ではなく、テーマを考えると事前にキャパシティ不足であることはコンピーナからも指摘があったはずであり、甘く考えていたと言われても仕方がない。大きい会場がICしか無いのも問題であるが、それでも、2 部屋連結で広くできる部屋もあるにもかかわらず、全て別個に使用しており、(外部からは)工夫が足らないように見える。そのほか、モニター切り替え機が無くなっており、特に 3 分概要説明で遅延の原因になっている。また、レーザーポインターの手入れがなされておらず、うまく光らないため、個人のものを使いまわしているような会場も複数あったり、会場係がベルを鳴らす 1 人で、質問者にマイクも全くなく、また、照明も常に暗いまだったり、逆に、プロジェクタの写真が見づらくても明るいままだったり、円滑な運営を妨げている場面が非常に多く見受けられた。昨年まではあまり目にしなかった光景であり、大いなる反省が必要。経費不足なのであれば、参加費を値上げしてでもすぐに対応すべき(昨年レベルに戻すだけでよいのです)が)と思います。
問題なし
立ち見席を作してほしい

Q23. ポスター講演及びポスター講演会場について何かご意見がありましたらご自由にお書きください
・同じポスターを2日間掲示するのは避けて欲しい(それくらいだったら、会場間隔を広くするか、打ち合わせ用のテーブル数を増やすなどして欲しい) ・3分間発表はあった方が良いが、それは時間や費用を度外視した話であって、スケジュールが長くなったり会場確保が困難となるのであれば、望ましくないと思います。3分間発表で費やされる時間の代わりに終了時間を早めにし たり、口頭発表を増やすなどに充てて欲しい。
1 日しか見ていないのだが、コアタイムの海上の混雑がひどく、十分見る事ができなかった。コアタイムの分散や、会場の拡大により、もう少し広いスペースが欲しい。
1 発表あたりの横幅を広くとるか、隣の発表とはコアタイムをずらすか工夫しないと聴く方も説明する方もやりにくい。
2 枚ごとに間隔を開けるのではなく、以前のようなある程度の枚数をつなげた形の方が見やすかったです。
AGU1 なみの広さがあると良い。
AGU と同等の質を希望する。
IINE カードはの必要性が分からない。利用している人をほとんど見なかった。
あのくらいのスペースが現実的。
イネカードはほとんど機能していない。ポスターを貼る際の邪魔になるだけなので廃止したほうがよい。(あるいは高校生セッションに限って使用する)
いいねカードは結局利用者がほとんどいなかったように思います。海外などの大きな学会ではインタラクティブになるためにどんなことをしているのでしょうか？
イネカードは利用者がすくなそうなので、廃止しては？
コア time の設定がまずい。
コアタイムになるとポスター会場内の移動すら大変で、目指したポスターに行き着くことができなかった。入り口には発表番号の案内図が貼られてあったが、それでは照合が大変。タイトルと講演者名の一覧図にすべきである。それが無理なら、セッション名だけでも書いておくべき。
コアタイムに宣伝ばかり流していて、うるさかった。合同大会はポスター発表を馬鹿にしていると思った。
コアタイムを AM1 と AM2 の間や、PM1 と PM2 の間にも設定できるといいのではないかと思います。
コメントカード(IINE けーど?)は機能していないように思います。
スペースは狭かったですが、致し方ないかと思います。ポスターセッションのタイミングは、口頭セッションと日程をずらして昼間にコアタイムを持ってきててもよいと思います。そうすることで少しは混雑が緩和するかもしれません。

ちょうどいい広さでした。
どこにどんな研究テーマの方がいるのか、探すのが大変だった。
どのポスターがどこにあるのか探しづらい。(記号でしか書いていないため。)
パネルの間に隙間があり、移動しやすかった。
パンフレットが欲しかった
ボードがしっかりしており、良かった。ボードがふらつくことが無かった。
ボードの大きさは適当と思われるが、ボード間の幅がやや狭く、ボード前で複数の人が議論すると通り抜けに支障がでている。会場の大きさは限界のようであり、これ以上参加者が増えると掲示が不可能となるように思われる。
ボードの配置が適切で、かなり快適でした。
ポスターコアタイムが遅すぎて、全く参加できなかった。関連する口頭セッション直後に設定できるようにするなど、もっとフレキシブルにしてほしい。
ポスターコアタイムを30分から1時間程度延長できれば望ましい。ただし、その場合は、8:30 頃に口頭セッション開始となるか、ポスターセッション終了が 20:00 以降となるので運営上難しいかもしれない。ただし、近年、ポスターセッションをより重視している傾向なので、発表時間ももう少しのばしてもらえると、より素晴らしい。
ポスターセッションでは、若い人が同じ大学や知り合いで固まって、延々と話をしていて、一般のお客が加われない傾向が年々強くなっている。
ポスターセッションのコアタイムを夕方に固定するのであれば、対応するオーラルセッションが午後を通して開催されているべきだと思う。せつかく 3 分概要説明を聴いても午後に長時間の空きコマがあると、することが無く、ポスターセッションに参加する気が失せかねない。
ポスターセッションのスペースが狭い。もっとゆったりした空間の確保を。
ポスターとポスターの間が狭く移動がたいへん、また見にくい。
ポスターについて、現状のようなセッション数が多い場合では、関連セッションのポスター件数が減るので逆にコアタイムが長く感じる。関連セッションをある程度まとめてコアタイムを作ってもらえると、関連分野間の議論は活発化する。
ポスターのコアタイムを毎回のようにいじるのは止めて欲しい。あるいは講演申込時にコアタイムの時間帯を記載して欲しい。
ポスターのコアタイム中に、非常にうるさいアナウンス(飲食コーナーの案内?)が毎日あった。大切な議論をしているのに邪魔しないで欲しい。音が大きすぎる。アナウンスしている人は会場の空気が読めていない。関係のないアナウンスは一切やめて欲しい。
ポスターのパネルの隣同士に隙間があり、出入りに便利であった。この方法は継続することが望まれる。

ポスターのボード間に十分な空きスペースがあり、ポスター列を途中で自由に行き来出来たのはとても良かったと思います。
ポスターの横の間隔が空いていて複数人で議論するときにやりやすかった。いいねカードの試みは面白いと思うが、あのカードを会場で立ったまま手に持って書くのは、書きづらい。
ポスターの場所に関する掲示を増やしてほしいです。
ポスターの図表は英語としても、その解説文に日本語を書くことは必要と感じた。英語だけだと学生の参加者が質問しにくい雰囲気があると感じた。
ポスターの寸法を AGU と同じにしてほしい。。
ポスターはあえて専門性を低く設定し、一般の方に易しく地球科学を説明するのが目的で、初心者との会話を重視する方向で。
ポスターは夕方よりも午後一がよいと思います。
ポスターボードが 2 枚ごとに分かれていたため、隣のポスターとの間隔が広くて、良かった。ポスターボード列間の間隔(背中方向の間隔)はやや窮屈で、コアタイム中の移動が難しかった。もう少し空いていた方がよかっただろう。
ポスターボードが狭く、間隔が空いていないので、ポスター前は、2〜3 人で一杯になる。余裕が欲しい。セッションによっては、2 日間掲示していたものもあるが、これは再考願いたい。
ポスターボードの横を通り抜けるのは非常に良い。JpGU のポスター会場は、他学会と比較しても環境が良いと感じている。会場の周囲(壁添い)に椅子を並べて頂いていたのも良かった。ポスター発表では発表する側も聞く側もつかれてしまうので、休憩できるようになっていると有難い。
ポスターボードを2つずつ対にして、対と対の間にスペースを設ける工夫は混雑緩和に絶大な効果を発揮していると思う。今後も続けてほしい。
ポスターを A0 横置きで掲示できるようにしてほしいです。そうしないと、隣の人との間が狭くて説明しにくいです。無用なテーブルを撤去すればできると思います。一部のセッションだけポスターの掲示が2日間なのは不公平上にわかりにくいのでやめた方がいいと思います。
ポスター会場の端付近は暗くて、見ていると目が疲れましたので、全体的に明るくしてほしいです。
ポスター会場は、コアタイム時には身動きとれないほど混んでいた箇所もありました。
ポスター間に隙間があつてたいへんよかった。従来は隣の列に移動するのに、一番端まで行かねばならず、無駄にトラフィックを増やしていた。
ポスター講演(コアタイム)の終了時間が遅すぎる。遅くとも 18:30 くらいには終わるようにプログラム編成を工夫するのが望ましい。
ポスター同士の間隔をもっと取る必要がある。
ポスター配置が例年と異なっていたので戸惑った

まず狭すぎる。しかも、その会場で飲食をさせるなどもってのほかだと感じた。飲食ができるようにするのなら、人の動線を十分考慮した配置をすべきである。特にポスター講演者と聴講者を考えた上で、ポスターを配置すべきであると感じた。
もう少し座って休憩できるような設備があると非常に助かる。
ゆったりしていてよかった。ボードを隙間なく並べていないので、列と列の移動がスムーズにできた。
案内板の文字が小さくて、見えづらかった。
一番端の掲示スペースが暗すぎる。
横長にしてほしいもう少し通路を広くとってほしい
会場については問題ないと思うが、私はアプリを中心に移動を行っていたのだが、どのポスターがどの位置にあるのかで苦勞した。アプリでどのポスターがいつどの場所に掲示されるのかを検索、スケジューリングできるようにしてもらえるとうれしい。
会場のもっとも明るいスペースが休憩スペースになっており、隅の方の列に掲示されているポスターは照明がなく、暗かった。学術的な大会は発表環境が最優先であり、AGU のように休憩スペースを外側にすべきと考える。
会場全体でコアタイムを揃えようと、雑音が大きく、発表者の声が近くにいる数人にしか届かない。
会場内アナウンスのボリュームが極めて大きかったので、議論に支障が出た。議論をしている途中で「ビールがあります」などと大音量で言われても迷惑。また、ポスター講演終了直前の「まもなくポスターセッションが終わります」という大音量アナウンスも、早く帰れと怒鳴られているようで不愉快。ただでさえコアタイムが少ないのに、とてもではないがポスターセッションに力を入れているとは感じられなかった。
会場内のデスク等を置くスペースをもう少し狭くして、ポスターの通路の空間をもう少し広げる方がいいと思います。
休憩スペースを廃してでも、空間を広げてはどうか？
狭すぎる。また、ビールの提供はやめて欲しい。そうでなくても人いきれで空気が悪いのに、更にビール臭くなる。(飲まない人や飲めない人にはビールの臭いは苦痛) タバコの煙や臭いと置き換えてみて下さい。
現状ではポスター発表者が同じセッションのポスターを見る機会がほとんどない。発表者がコアタイム内で発表時間を決めることができるようにすべきと思う。
現状で良いと思います。
今後、発表件数が増えてくると、口頭発表セッションの時間が限られているため、ポスターセッションが重要になると思います。ポスター講演は、口頭発表終了後の夜ではなく、日中(例えば、3時から4時まで)に時間を設定するべきではないでしょうか。昼や夜に設定すると、食事に出たり帰宅してしまう人が多いと思われます。その場合、口頭セッションの裏というのはよくありません。AGU のやり方が良いでしょう。
今年はボードに隙間を設けるなど、混雑緩和措置が取られていましたが、それでもコアタイムには混雑して歩けないセッションもありました。一方で、同時期に使われていないボードも多数あったことから、ボード数に余裕がある日は、ボードを1つ飛ばしでポスターを貼るなどの工夫があると良いかと思います。

今年は缶ビールを提供するコーナーが無かったみたい。
参加費が少し高くなっても良いので、もう少し広い巢ペールとなるのが望ましいです。
時間をもう少し早めにずらして欲しい。会合と重なってしまい、見られなかった。
十分な広さがあった。
従来よりかなり改善されたように思う。今後もこの感じで。
縦でなく、横にはなりませんかね～。
暑い
前記参照
他の学会等に比べてもポスター発表が充実していると感じた。
多くの発表者と議論するためにはコアタイムがもう少し長い方がうれしいです。
大会が用意していた無線 LAN が認識できなかった。発表で pdf 資料や写真を用いたいと思っていたが、当日思うようにはいかず、やや不燃焼な発表となった(発表前日に LAN 環境を把握できたため事前準備で粗方の対応はできた) 発表終了を知らせる音楽(蛍の光)があまりにも大音量で、話している相手の声すら聞こえないほどであった。
談話スペースがとてもよかった。なくさないでほしい。電源がもっと用意されているとなおよい。
知り合いが、ポスター発表のコアタイムのに酔っぱらった参加者に不快に感じる態度を取られたという話を聞いたため、ポスター会場でのビールの販売は不要ではないかと感じた。
同じセッションが2日間にまたがったことで、ポスターの張り出しも2日間となりました。が、張り出し場所が1日目と2日目で異なったため、混乱しました。きちんと案内に注意を払っていなかったためですが…
特になし。
二日間ポスターを掲載する必要はない。その分ポスター間隔を増やしてほしい。
目立つ色の名札なり腕章なり、説明者と判るようにしてほしい。
問題なし。
隣と接近しているため、人が集まると、隣のポスターを浸食してしまいます。できれば、もう少し幅が欲しいです。

Q27. 上記1)～3)について、ご意見等がございましたらご自由にお書きください
「地球惑星トップセミナー」は存在を知らなかった。Web サイト上で検索してみたところ、一つのセッション(O-03)という扱いであることがわかった。「スペシャルレクチャー」と同程度の宣伝をしなければ、開催が周知されないように思われる。
1)について当日時間をしりたかったが、普通のプログラムにはのってはず時間と場所を確認できなかった。14 時にやっと人から聞いてわかった時には、13 時間開催で終わっていたので残念だった。わかりやすくプログラムに載せるか、大きなポスターか大きく印刷した紙を入り口付近に貼っていてほしい。でないと聞き逃す人が多いし(僕以外にも同様の人がいた)、話し手にも申し訳ないとおもう。
1と2については、もう少しハイレベルな物もあって良いと思いました。
2)、3)については、全日程参加できなかったため、自分に評価する資格はないというのが実態である。
3)については、より宣伝が必要と思う。
3)については、参加者に確認するのが良い。
3)はもっといろいろな人を呼ぶべき。人選が悪い
3)をDにしたのは、キャリア変更を考えていないからです。学生三等には有意義かも知れません。
キャリアパスについては、既に定年近いので関係ないだけです。
キャリアパスブースが地味すぎる？ブースに参加するとどんなメリットがあるかが、わかればもっと学生が利用するのではないかな？
キャリアパス説明会 やっているのは知っていましたが行っていないのでどのようなものだったか「わからない」が正しいです。そのような選択肢がないのでとりあえずBにチェックしました
キャリアパス説明会および進路相談ブースは結局ホームページにアップされないままだったので、ホームページに掲載するならきちんと掲載してほしいです。
キャリアパス説明会について、博士進学者のみでなく、修士卒で就職された方のご意見も伺えるような機会があると良いと思います。理由は、博士進学された方のご意見だけでは「博士に進学したいが不安を持っている人」には十分ですが、「博士進学と就職とで迷っている人」は両方のご意見を比べたいだろうと思うためです。
キャリアパス説明会は聴講者がほとんどおらず、アナウンスがさらに必要であると感じた。さらに、クロークの終了時間ギリギリまで説明会を延長するなど、説明会と受付などの連携がとれていないと感じた。
キャリアパス相談員が毎年同じ人ではダメでしょう。もっと探す努力をしないと。
キャンパス説明の展示会場は説明委員の居ないところが多くちょっと不満でした。
このような取り組みを継続していただきたいと思います。

これら企画のいずれも、実施には多大な労力が必要と思うが、ぜひ今後も続けて頂ければと思う。
スペシャルレクチャー、地球惑星トップセミナーとも誰に向けてたものなのかいまひとつわからない。
スペシャルレクチャーとトップセミナーは企画がかぶっている気がする。統合すべきではないか。
スペシャルレクチャーについては、英語の講演には同時通訳をつけるか、講演者に平易な英語でゆっくり話していただくようお願いする必要があると思う。慣れない学部生や初学者には聞き取れない。
ニーズに比べて、対応する人・場所とも小さすぎる(だから、相談者も来ない?)と思う。むしろ、求職者、進学希望者とわかるプログラム・名札にしておいて、受け入れる側の人間が声を掛けやすくするべき。
フル日程での参加ができませんので、関心のあるセッションに集中しました故、「E」と回答しました。そもそも、上記企画には参加できる時間の余裕がありませんでしたので。あしからず。
ランチタイムは知り合いがいると一緒に昼を食べにでてしまうので、もっと別の時間にあるとありがたいと思いました。
レクチャーやトップセミナーは人選の仕方が不透明です。学生さんに話を聞きたい人の希望を募るなど、透明なやり方ができないなら止めてもいいと思います。まともなキャリアパスは無いのにあたかもキャリアパスがあるように繕うのは不適切だと思います。
レクチャーを聞くとお昼休みが無くなるのが残念。例えば AOGS のレクチャーはセッション時間中に開催され、その時間は関連分野のセッションが一切行われない。よって非常に参加しやすい。次回は開催方法を工夫してほしい。
一般の方、報道、高校生等いろいろな人がますます参加してくると思うので、こういった工夫はどんどんすべきと思う。
学会が特定の研究者にスポットを当てた企画を実施し、館内放送などで宣伝することは学会の中立性から適切ではない。有志のグループが会期中に有料で会場を借りて自主的に開催するのは結構なことであり、もちろん反対するものではない。
学会の趣旨からは大いに外れた企画である
企画が多いのは魅力的である反面、選択肢が多すぎて選べない、といった弊害もあると思う。個人的には、多くの企画を盛り込みすぎる傾向があると思うので、少数精鋭にした方が良いと思う。
企画の対象となっている年齢層の人達が参加しやすい時間になっているか、やや疑問に感じます。
興味がある内容であれば活用したい。
研究分野により相当の違いがあるが、キャリアパス(特に OD)の問題は説明会や進路相談ブースでは解決の助けにはならないのではないかな。就職した方や問題が解決した方、あるいは問題解決の大きな助けになった方はいるのだろうか。キャリアパス説明会や進路相談ブースについて、その成果や利用者の声を公開してはいいかがか？
見たい人もいるだろうからこれまで通りやるのが望ましいかなあ。
座長がセッションを開始する際に、セッションの裏番組として設定されているイベントへの勧誘を読み上げるように依頼されるのには相当違和感があります。座長としてはそのセッションに参加を続けるように呼びかけるのが通常ではないでしょうか。会場内のポスターとかメール等での宣伝にとどめてください。

最新の成果を他分野の人が分かりやすいように話す機会は重要であり、スペシャルレクチャーやトップセミナーは非常によい企画だと思います。
時間帯が、セッションを聞いていると参加出来ないため、少し工夫が必要かも知れません。
時間的余裕がなく、すべて参加も内容把握もしていません。D を選んでいます、特に否定的な意見ではありません。
次世代を継ぐものとして有望だが、飯が食えるのかという将来に不安を抱える若者のためにキャリアパス講座は必須です。
実際には行ってません。面白そうだとは思いますが、普通の講演を回ってしまった。もっと面白そうと思ったら、きっと行ったに違いないと思います。
所詮、寄せ集めのだから、それぞれの専門分野にもっと自主裁量枠をあたえるべき。
進路相談ブースの企画は良いと思いますが、場所が良くない。邪魔。なんか、やつつけ感がつよい。
大学の教員、研究機関研究者にキャリアパスを聞いても、人事をすぐには動かせないので意味がないと思う。民間企業は意味があるかも。
大学の進学案内も置いて頂きたいと思います。高校生が大学へ進学する際の重要な資料が何も無いので、進路指導に困ります。
昼休みのスペシャルレクチャーは良い企画だと感じました。大変勉強になりました。できれば、web 配信や、録画して JpGU の HP 等から後日も見られるようにして貰えれば、大会に来ていない学士課程の学生にも聞かせることが出来るので、御検討頂きたいです。
聴講者・利用者が少なかったとしても続けていくべきものだと思う。地道に続けていくことが必要。可能であれば講演映像などを録画し一般公開できるとよいと思う。
特にキャリアパス説明会についてはもう少し宣伝をした方がよいのではないだろうか。また、各大学のブースをぶつけたり、企業ブースの近くに会場を設けるなど、ワンストップ的な会場にする工夫が必要だと思う。
毎年、トップセミナーに面白い題材が選ばれるので、聴講が楽しみである。できればもう少し時間を長くして、テーマを増やして欲しい。
面白い講演があっても会合などで行けない。動画配信などにより、後日でも視られるようにしてほしい。
利用しなかったが、必要な人もあるだろうし、あってもよいと思う。
連合大会期間中は、会合等もあり、時間的余裕がない。したがって、各種企画に参加する余裕も全くない。トップセミナーとスペシャルレクチャーは、企画名からは違いが明確ではないので、続けるなれば統合してしまったらよいのではないか。

Q28. 会場での配布物, プログラムについて何かご意見があればご自由にお書きください
今回、プログラムを日程別に配布する形式を取られていましたが、節約効果はあったのでしょうか？もし節約効果があったのであれば、自分の当該日のプログラムだけあればいいので、有効な方法かと思います。ただ、当日配布は不便で、事前に Web で確認して出力していくのも非常に手間がかかるので、できれば以前のように事前に郵送してもらえるとありがたいです。あと、会場に行って初めて知ったのが、プログラムが確認できるスマホのアプリがあったということで、事前に知っていればプログラムを出力していなくて良かったので、もっと HP で宣伝してほしいです。
○ 口頭発表のタイムテーブルが 1 日ごとに配られるのは便利でした。スマホだけでは見にくいので便利です。 ○ ポスターのタイムテーブルはなくてもよい。
・携帯のアプリは完成度が高く、とても便利でした。 ・保存のためにも CD-ROM による要旨の配布は続けてほしい。
・不要になったプログラムなどを会場で回収してほしいです。また、著者一覧が載っている冊子は不要に思いました。 ・予稿の PDF を一括ダウンロードできるようにして欲しいです。
10 時過ぎに配布用のプログラムが無くなる日があったのには閉口しました。やはり全日分、受付時に配布して頂きたいです。スマートフォン・タブレット用のアプリは非常に出来が良く、使いやすかったです。それに対して、web サイトは検索機能が貧弱だったと思います。
1 日分のプログラムをバラで配布する形式はよかったです。また、アプリも使い勝手がよく、大変便利でしたが、プログラム表示の画面をピンチ操作で拡大できるようになれば、なおよいと思います。
1 日分の印刷プログラムは便利でした。
INE カードは不要だと思います。興味があれば直接ポスター会場で話しますし、あとで連絡先を調べて、連絡を取ります。
iPad が非常に有用だったのは良かった。
iPhone アプリを使ってとても便利でしたが、紙のプログラムは、やはりあると重宝します。とくに、ポスター 3 分宣伝の発表者は、アプリでは記載されていなかったもので、紙のプログラムを見て確認していました。
JpGU アプリの「3 分発表」の枠に 3 分概要説明発表者の名前を表示して、抄録へ飛べるようにしてほしい。また、同じセッションの口頭発表とポスター発表の枠をそれぞれ相互にワンタッチで飛べるようにしてほしい。 アプリの出来は、第一回としては非常に満足度が高かったもので、今後のさらなる改良に期待します。
JpGU アプリは、スケジュールやプログラムの確認に非常に便利でした
アプリが出来たことはかなり評価したい。 ただ、アプリが出来たことで、紙配布のプログラムの数が十分用意されていなかったようで、途中プログラムがもらえなかったのは残念。ただ、5 日目、6 日目には用意されていたのは評価できる。 視認性では、紙のプログラムはアプリに勝る。会場ではやはり紙のプログラムも配布してほしい。
アプリが大変便利だったので、配布物はポスドクのキャリアパス速報以外は読みませんでした。
アプリは快適であった。今後も継続してもらいたい。
アプリは良かったが、所々、順序が間違って表示されていたので、随時改善してほしい。

アプリを使用していたので、配付物等は使用していない。
アプリ良かったです。
イベント関係の宣伝をセッション開始前に座長に依頼するのは止めた方が良いでしょう
お昼頃に入場して、プログラムが無くなっていた。
スマートフォンアプリは、素晴らしい取り組みだと思いますが、可能であればもう少し必要メモリが軽くなるとうれしいです。スマートフォンにインストールしようとしたら、メモリ不足でできなかった。。。
スマートフォンアプリは大変便利であった。 改善点として、口頭のセッションにある「3 分概要説明」という項目から、ポスター発表の発表リスト・アブストラクトへアクセスできるようにしていただきたい。現状では口頭発表とポスター発表でアクセスのしやすが大きく違うため、この点は要改善と思う。
スマートフォンアプリは便利だったが、使い勝手はもっと改善できると思う。 #JpGU2013App に寄せられた意見をもとに、改善してほしい。
スマートフォンアプリは便利だったので、来年も採用してほしい
スマートフォンのアプリは便利だった。
スマホアプリがとても便利で、聴講のみでしたが今年の予定は全てアプリで検索して作りました。来年も欲しいものです。
スマホアプリについて、個人情報を読み取る仕様は極めて不穏当。 普段あれだけ個人情報保護法云々と言い訳するくせに、だだ漏れ状態になるアプリを推進する壮大な矛盾。
スマホのアプリでスケジュール登録できることは良い試みだと思ったが、講演単位でのスケジュール登録ができず使い勝手が悪かった。例えば、自分の一日のスケジュールを 14:15-14:30「タイトル」「著者」「セッション名」「部屋」 14:30-14:45「タイトル」「著者」「セッション名」「部屋」 というふうに一覧にできると、次どの部屋に行けば良いか分かるので便利。
セッションの内容を記した新聞紙は以前は参加前に所属先に郵送されていたはず。できればその方が助かる。誰が参加するのか、どんな発表があるのか、よく分らないまま参加せざるを得ない。情報をwebに集約するなら、もっと早く閲覧、検索できるようにすべき。
タブレット用のアプリが便利だった。著者が first author しか出てこないのが少し不満。
ティッシュとかではなく、今後に残るような缶バッジなどのアイテムを欲しい、特に事前参加登録者に配布など。
ティッシュはなくてもよいと思った。
ティッシュは不要。一日ごとではなく、全日程分のプログラムをまとめて配布してほしい。
なんとなく頂きにくい雰囲気がある。
プログラム(新聞紙みたいなもの)は、もうすこし小型化し、持ち運びしやすいように改善してもらいたい。大きすぎて広

げてみる事が難しい。できれば、A4 ぐらいの大きさと左とじの冊子にするのがよい。
プログラムがなくなる日とあり余っている日の落差がひどい。セッション全部を 1 枚にまとめる必要は絶対にない。張り出してあったのはすごく良かった。
プログラムが大きすぎる。A4 版に改善してほしい。
プログラムが無くなったのが疑問。
プログラムについて、今回たとえば 21 日に「火山の熱水系」と「鉱液の実態（鉱液＝熱水）」がカブっていました。プログラム編成も大変だと思いますが、なるべく同じテーマのセッションはカブらないようにお願いします。
プログラムの紙は枚数は増えてもいいから半分の大きさにして欲しい。
プログラムの事前郵送による配布は、絶対に必要。どうしても会場で配るなら、全日程を初日から配るべき。簡易的な作りでも、プログラムは冊子状が良い。今のままでは極めて扱いにくい。
プログラムの字がもう少し大きくと助かります。
プログラムの新聞方式は持ちものが少なくて済むので大変助かります。
プログラムは、PDF で事前にダウンロード出来ると良い。
プログラムを必要な部分だけ持っていけるので、荷物にならず良かったし、見やすかった。
プログラム部数の制約からか、開催当日とそれ以前のプログラムしか配布されないことが多かった。可能であれば翌日のプログラムも配布して欲しい。
ポケットティッシュはもらわなくてもよいと思った。
ポスターのプログラムも配布されていたことを最終日に知りました
モバイルアプリがあったので印刷したプログラムを持ち歩く必要がなく、大変良かった。
モバイルアプリは便利だったので、次回から是非継続してほしい。PC でも使えるようにして、紙の配布はもっと減らしても良い。
一日ごとに別々のプログラムになっているのは使いやすかったです。ただ、積んであるプログラムに別の日のものが混じっていて困りました。
印刷プログラムが売り切れたり、当日分しか配布しなかったりしたのは不便だった（前日に翌日分をチェックしたい）。モバイル端末のアプリができたのは評価しますし、それがあれば紙などいらないという意見もあると思いますが、紙の方が同じ時間帯にある講演をばっと見るには便利と思います。
印刷プログラムは、日ごとの配布ではなく、まとめて配布していただきたい。
印刷版プログラムを 6 日分全て初日から受け取り可能とした工夫は大変ありがたい。授業で参加できない日があり、間が空くので、参加計画を立てるのに大変役だった。
印刷物のプログラムを日別にして自由に取れるようにするのは大変良いと思います。ですが、足りなくなった日がありました。そういう場合でも直ぐに見られるようにいろいろなところに掲示してあると良いと思いました。

何が配られていたのか、十分把握できなかった。当日分のプログラムは手に入れたが、初めは口頭講演とポスターが別業になっているのに気付かなかった。もう少しわかりやすく表示してほしい。
過去の日程のプログラム（配布物）は撤去したほうが良い
会場でのプログラム（紙）の配布はやめた方がよいのではないかと。（各部屋の前や掲示板等に適宜張り出す程度でよいと思います。）予稿 CD-ROM（データのみでも可）があった方がよい。スマートフォンのアプリは便利でした。（画面が小さいと予稿が見づらいので、iPad にも対応して欲しかったです。）
会場内の机の上に置かれた開催日別のプログラムは、大判で使い難いものがありましたので、冊子にしていただければと思います。
会場番号配置図を提示する。
各日でプログラムを分けて配布していただくのはありがたい。当日のプログラムについては入り口で係の人が手渡ししていたが、朝などは人が滞留する原因となるので、それとは別に自由に取れるように置いていただくとよい。
企業・組織ブースに関する口頭講演（例えばポスター案内講演 3 分のような紹介）などがあれば良かったかと思いました。
規模が大きすぎ。講演会場の数が多すぎる。
休み時間等に開催される集会リストがわかりづらかった。
現状の 1 日分だけのプログラム配布が良いと思います。
口頭とポスターが同一日別紙になっているのは、わかりにくい。要改善。
口頭講演のプログラムを記した紙が午前中に無くなっていたので、十分な数を準備しておいて欲しい。
高校生のポスターセッションのコアタイム中に、高校生向けのセッションがあったため、発表した高校生や聞きに来た高校生はあまり聞きに行けなかったと思うので、もう少し調整した方がよいと思う。高校生のコアタイムも少し短かったように感じた。
今回から使えるアプリは非常に良く出来ていた、AGU でのよりも優れていると思う。よって、紙のパンフレットは欲しい人にもみ配れば良いのでは？
今回から配布物の量が少なくなり、とてもありがたかった。必要なプログラムを自分で確保するスタイルに賛成である。
今回のアプリによるプログラム開発は非常に秀逸なアイデアだった。「新聞」を広げることがなく、セッションを横断的に眺めることができ、座長振興にも大いに役に立った。
今回のプログラムのアプリは、予稿をスマートフォンでいつでも見る事ができる点で大変便利でした。今後の継続を希望致します。ただ予定表を組む時に、セッション単位での予定しか組めないようでしたが、発表単位で予定を組めるようであればもっと便利に使えた様に思いました。また、講演予定の変更情報の連絡が有る事も大変助かりましたが、セッションにより、講演変更情報がアプリに掲載されず、現地での入り口前に掲示のプログラムにて表示されている場合が有りました。この辺りの講演変更情報の連絡が徹底され、常にアプリへの情報掲載へと反映されるならば、より信頼性、利便性が高まる様に思いました。 その一方で、タイトルとプログラム全体を見渡せる紙のプログラムも、アプリとは異なる便利さがある事が実感できま

した。できるならばこちらも継続して配布して頂けたらと思っております。
今年はアプリがあったので特に紙媒体は必要はなかったと感じた。しかしアプリを使えない人に対する配慮も必要であるので、紙媒体のプログラムに関しては、持ち運びやすさ及び見やすさに関してもっと改善してもらいたい。
最低、prgram 程度は冊子で配布すべき。当日にならないと、発表の課題や会場がわからないのは、まずい。
昨年の反省からであろうか、日ごとプログラムが畳んで A 判になるのはよかった。
参加登録時の配布物が少なかったのが非常に良かった。
参加費を考えれば、十分許容出来るレベル。
紙のプログラムが日毎にバラバラだったのは、非常に見やすくよかった。
紙のプログラムが売り切れになっていたのは残念。 スマホアプリのプログラムは便利だった。しかし一覧性に欠けるので、紙のものと併用したいと思った。
紙のプログラム原稿を PDF で事前公開してくれるのがよい。PC に取り込むことができるから。
紙ベースのプログラムを希望者が必要に応じて、会場内で受け取るスタイルは良かった。荷物がかさばらなくて済むし、資源の節約になる。
似たようなセッションの日程を近くするのは良いが、聞きたい発表が重なって聞けないことがあり幾度か残念な思いをしたので、コマ割りにはもう少し工夫していただきたい。
次の日の紙のプログラムの配布を前日までにしてほしい。
種類に近いセッションは、バラレルでなく、同日の異なる時間帯にして頂けると助かります。あるいは、プログラムを整理してもよいかと思います。
従来のように冊子にすると重すぎて使わないし、今年のようにバラ配布にすると便利ですが会場が乱雑になった印象がしました。
新聞のようなプログラムは 1 セットにまとめて置いておいてほしい。1 日 1 枚ずつとるのは面倒
新聞形式のプログラムの配布は1日分をまとめた方がよい。今回は AM、PM で別だったが気付かずに、片方のみを取っていた。 プログラムの一括ダウンロードはできたでしょうか(自分では未確認)。USB 配布は資源の無駄遣いと思うので。
新聞紙のようなプログラムは大きすぎと感じた。せめて A3 程度がいいと思った。
水曜日と木曜日にプログラムの紙がもらえなく、正直とても困った。お金を払っているわけだから、ある程度平等に配布されるように配慮してほしい。
水曜日のセッションに参加した際、木曜日と金曜日の講演プログラム(新聞紙大)が置かれておらず、その場で翌日以降の聴講の計画をたてることができなかった。(初日は全ての曜日のプログラムが置いてあったのだが・・・)
宣伝ブースが多すぎる。大きな機関がほとんど占有している。

前日に紙のプログラムをもらえると次の日の予定を決めやすいが、もらえなかったのは残念。前日ももらって当日持つてくるのをさすれた人が再度とって数が足りなくなつたと推察していますが、
全日登録した人には、せめて全日のプログラムを事前配布すべき。水曜、木曜のプログラムがもらえず、困りました。
大会プログラム(日別)の用紙が大量に余っていたが、印刷のしすぎでは？
中日ごろに一日プログラムの印刷物が在庫がなく配布されていなかった。これは同じ料金を払った参加者間でサービスの不公平をまねき、大変大きな問題とおもわれる。運営側はメール等で謝罪するとともに今後こうした問題が起きないようにしてほしい。
朝 9 時ころに行つて、当日のプログラムがすでになくなっているのは問題。スマートフォン用のアプリは良かった。
当日のプログラム(口頭、ポスター)の配布場所がわかりにくい状況でした。正面入り口に置いてありましたが、初日の受付を済ませた後では、そちらに回らずに会場へ入ってしまう可能性も大いいです。せめて、名札、領収書を渡していただく際に、ひとこと、プログラムの配布場所について説明をしていただければよかったと思います。
当日のプログラムがなく、不便だった。
当日のプログラムが午前の内に無くなってしまっていた。
当日のプログラムが売り切れた日があった。配布方法について見直しが必要ではないかと思います。
当日配られた名札に所属先が「なし」と記載されていた。現地で受けた説明では、略称に登録された情報を反映するとのことであった。そのような説明は事前に受けた記憶がない。 また、わざわざ「なし」と書かなくてもいいのではないか。
同上。
日ごとのプログラムの配布は有用ですが、残部がかなり発生したと見受けられました。経費節減のために工夫が必要と考えます。安くは無参加費を負担しているものから見ると違和感を感じました。全体の費用に対して占める割合は微々たるものなのかもしれませんが目立ちましたのであえて申し上げさせていただきます。
必要な人がプログラム(新聞紙大のプログラム)をとっていく仕組みはよいと思う。
必要な分だけプログラムを配る、というアイディアはよいと思うが、プログラムが不足してもらえなかった日があったので改善の余地があると思う。
予稿ののつた冊子などが(希望者のみに対してでもいいが、)配布されればよかったかなと思います。
予稿集 CDRom を作ってほしい。参加費を一人100円増やしても作ってほしい
要旨は配布したらすごいことになってしまうんでしょうね。プリントアウトできるところがあったらありがたいと言えありがたい。たいいてい口頭発表のプログラムが売り切れになっていたから、部数を検討し直してほしい。
翌日分のプログラムは前日夕方から配布して頂きたい。また、水曜以降、プログラムが品切れで貰えなかったことがあった。プログラムを検索できるアプリはとても良かったが、アプリ自体とデータ量が大きすぎて、少し前のスマホではすぐに容量不足に陥つたので、改善して頂きたい。

Q29. その他, 連合大会全般についてのコメント・意見・要望・提案などがありましたらご自由にお書きください

初めて参加しましたが、普段は関わりのない分野の研究の様子が垣間見えて楽しかったです。また、豊富な企業ブースは研究者のみならず、一般の人も楽しめるのではないかと思います。 連合としてアウトリーチ等に興味があるのであれば、次回以降は一般向け理科雑誌(たとえば RikaTan など)等に広告を出して、より多くの一般の人が参加できるようにしてもよいのではないかと思います。会場全体について、階段・エレベーターがどこにあるのかわかりにくかったです。災害が起こった際の避難経路がわかるように、階段・エレベーターの位置はすぐわかるように案内を出しておいてほしいと思いました。

(会場の問題ですが、...)会場により空調の設定がバラバラですごく熱い会場があり不快に感じた。

- 口頭にするにおよばない発表も結構多かった。AGU のようにそのセッションを代表する優れた成果のみが口頭発表として選別されるほうがよいように思います。
- 発表に関する評価ではなく、より魅力的な発表を集めることができたコンピーナーを表彰して、その方の企画するセッションの割り当て時間を増やすなどの報償を与えて競ってもらうことで、連合大会をよりあげていくのもよいように思いました。

・外国人のポスター発表者が孤立している様子が多々見られた。
国際学会を目指すのであれば、リピーターの存在は不可欠であり、外国人の参加者に参加して良かったと思う大会にするためには改善が必要だと思う。
・学生と海外の研究者が交流をサポートする場があればよいと思う。

1, 2, 3階それぞれの会場移動は不便。
動線を考えた会場配置が望まれる。

2 階から裏手に出る出入り口でもプログラムを配布していただけたのは助かりました。名札の回収 Box もそちらにもおいていただけると助かります。

6 日間は長いです。高校生セッションなどがあり週末を入れるという判断の元にこのような日程になっているかと思いますが、もう少し開催期間が短くできるとよいように思います。

6 日間は長すぎる。講演数を絞り込むなどして、スリム化をはかるべき。

AGU や EGU と比べれば、エキサイティングな体験は期待出来ない。国際性が有るとは言えない JpGU が両者のレベルに達するのは現状ははっきり言って難しいと思うので、両者の真似をするのではなく、JpGUらしさを如何にして出していくかを考えるべき。

Android アプリは大変便利でした。Windows8 アプリ(ストアのアプリ)もあると大変うれしいです。あるいは従来の CD-ROM の内容で、Windows や Mac で一括ダウンロードや検索ができるようにしていただけたらうれしいです。

Ice Breaker の会場の場所が非常に分かりにくかった。

iphone app は便利。会場でネットの入りが悪すぎる

JpGU は AGU, EGU と並ぶ第三極を目指すためにも、より一層の国際化を努力して欲しいです。国内マーケットは早晚頭打ちになるので、国際化は必須だと思いますし、中国等の台頭があるので、早急な国際化を御願います。しかし現状のように、毎日数件ずつの国際セッションがまばらにあっては、海外から訪れにくいです。自分が行く側の立場なら、とても困るスケジュールです。そこで下記を提案します。

■提案

月・火・水曜日は国際大会として、国際セッションだけにする(日曜は高校生など教育セッションがあるので日本語でもしかたない)。

日本語で討議したいセッションは後半の日程で御願います。

これなら海外からの研究者も来やすいスケジュールになると思います。セッションの内容的には、JpGU は AGU や EGU に全く負けてないと思います(むしろ魅力的)。それにもかかわらず海外からの来訪のしにくさで損していると思います。

JpGU が日本開催の世界大会として成長してくれることを切に願います。

坂口有人

Nature Geo Science が来なかったのが残念です。NASA は良かったです。

PC を接続できる作業スペースが足りない(混雑していた)と感じた。もう少し増やせたら嬉しいと思う。PC を用いながら議論できるようなスペースがもっとあってもよいかも。

U-06 地球科学者の社会的責任 セッションのラクイラ地震裁判の話題等興味深い内容でしたが質問時間が短く、進行が早すぎる印象をもちました。総合討論としてパネリストと会場の皆様との討論の時間をもうければよいのではないかと思います。

アクセスの悪い幕張での連合大会はもう終わりにして欲しい。昔のように代々木か、来年のように横浜でして欲しい。

アブストラクトや会場場所を確認することのできるスマートフォンのアプリが、今回、非常に便利であった。

アプリが使いづかった(プログラムとスケジュールが連動していなかったのも)。

アプリは使いやすく、非常に良かったと思う。

アプリは便利でした。メモが外部に取り出せるようにしてほしいです。方法があるのなら、今からでも大会ホームページに記載をお願いします。

アルバイトをしてよいかどうか不明な学生(学振採択者・グローバル大学院採択さや)が見受けられた。全学生への公平性の観点から、規定を徹底する必要があると思われる。

イクメンプロジェクトセッションは実に無意味で空虚だった。講演者の体験談を並べることに終始し、対策といえば精神論だけ。挙げ句の果てに、最初の講演者(どこそぞの NPO 代表)は「子供は若いうちに生むべき」と抜かす始末は怒りを通り越してあきれ果てた。そしてその講演の終わりで「楽しい話をありがとうございました」と締めた座長(代表コンピーナ)の神経も疑う。

お疲れ様です。

このアンケートの結果が昨年は公表されていなかったとおもう。すくなくとも HP 上やメールなどは見つけられなかった。会員の意見がどの様にフィードバックされているのか知る上でも公表すべきだと思う。そうすることでサービスの向上にもつながるのではないかな。

これ以上大会規模を拡大するのは賛成しかねる。
すでに上でも述べたが、セッションづくり方その他を見ていて、分野の垣根を超えた地球科学の議論を行い、地球科学を活性させるための場を創りだそうということが感じられない。コンビーナ達も自分たちの(狭い)分野の利害ばかり考えているように見受けられる。そういった小さなことにとらわれず、連合の理念(があるならば)に沿った、議論の場になることを期待しております。
スマートフォンアプリが良かった。印刷プログラムは取扱いが不便な大きさだったので。
スマートフォンアプリの Twitter 連動キャンペーンに当選したが、知り合いのめぼしいツイッターの多くが当選していて、アプリと Twitter 両方の利用者が少なかったのかな、と感じた。
スマートフォンアプリは非常に使い勝手が良かったです。このような検索システムを PC でも利用できるように検討していただきたいです。また、CD を廃した引き換えに、全講演の予稿を統合した PDF ファイルをダウンロード可能にいただけると有難いです。(セッション別は了解しているが、せめて X-XX (例:P-PS 惑星科学)別に)
スマートフォンのアプリが便利だった。
スマホのアプリは大変良かった。ただ使い勝手の面ではまだ改善の余地はあると思う。
スマホのアプリは非常によかった。
セッションの整理、プログラムの編成につきまして、意見を述べさせていただきます。どの発表も最先端の知見を伝える大変興味深いものばかりでした。ただ同じ領域と思われる研究発表が、同じ時間帯の別々のセッションに有り、一方をあきらめなければならない、という事があり、何度か残念な思いを致しました。また、異なる領域では有っても、関係が深いと思われる場合にも同様な事が有りました。領域が多方面に渡り、多大な発表数であることから、プログラムの編成は大変困難なものであると察せられますが、領域間の連携をより深めて頂き、発表間の関連付け等も工夫して頂けると、より良く、より深く、個々の発表を理解できる様に思いました。
セッション以外の会合(委員会の会合や学会の総会等)についても、どこかに案内を掲示していただけるとありがたいかった。(あったのかも知れませんが、見つけれませんでした)
テーマを決めた自由討論会場を設けて頂きたい。例えば、高等学校の地学教育、教員養成のために必要な資質をどう教授するか? など、研究者と興味を持っている方が交流できる場所を設定して欲しいです。
となりのビルの食事(ランチ等)の割引制度があると良い。
ネットの梗概を、図入りでもっと充実したものにして欲しい。
ブースが増えずで会場が雑然としていました。特に国際会議室の前が混雑していました。
ポスターのコアタイム開始時刻が遅すぎる。非常に不便。
ポスター会場でのビールの販売は良いアイデアと思います。
ポスター終了が 19 時 30 分は遅すぎる。 会場費等の理由があるのかもしれないが、幕張は会場・場所共に難があると思う。 また、学会の収支はどうなっているのでしょうか?

ポスター発表が口頭より劣るというイメージを払しょくした方がいいと思います。たとえば、来年はパシフィコ横浜だそうですが再来年に幕張に戻る時は、幕張メッセを借り切ってポスターセッションを全部同じ日に開催してはいかがでしょうか? 盛り上がると思います。
ポスター発表のコアタイムはもっと早い時間のほうが良い。
ポスター発表の際、同じセッションでコアタイムが一緒であるため、発表者は他の発表を聞くことができない。可能であれば、発表数の多いセッションについては、2 つ、ないし 3 つにコアタイムを分けた方がよい。
ポスター発表の時間が夜のみであったため、昼休みにはまだポスターを掲示していない人が多く、午前のセッションは聞きたいが午後のセッションは関連分野でない人にはポスターを見ずに帰った人も多いのではないかと思います。
ボランティアの人も感じがよくてよかったですと思います。一階の奥 103 とかのあたりですかね、LAN がつながりにくかったんですが、全体的に良好か再度確認して頂きたい。
ミーティングポイントをどこかに設けてもらおうと外国人研究者との待ち合わせが指定しやすくなると思いました。
モバイルアプリがとても便利でした。ただ、知人に教えてもらわなければ気付かなかった可能性が高いです。もう少し HP 上等でアピールしていただくとよかったかと思いました。
モバイルアプリは大変便利であった。ぜひ今後も続けて欲しい。 ネット接続の状況が良くないのはあいかわらず。せっかく便利なアプリがあるのになかなかつながらない。
モバイルの JPGU アプリは、プログラムや発表内容を素早く見られて便利だった。ただし、Iphone だけでなく、IPAD にも対応して頂けると助かります。
レーザーポインターの不良で、講演者の指している個所が分からない講演がいくつもあったのは、非常に残念だった。
わかりきっているのに満席になって部屋から人があふれ出していた。部屋割にかなり問題があった。担当者は責任を取るべき。
一人あたりの講演数に上限を設定すべき。多数の口頭発表を行う人がいるなど、セッション数が多いことの弊害は明らか(例:古村 孝志, 趙 大鵬)。口頭は 1 人 1 件のみにしても良い。 中には、タイトルが違うだけで、ほぼ同じ内容の口頭発表を二度した例もある(SCG63-02, SIT06-12)。ほとんど二重投稿としか思えない。研究集会ではなく学会であるのだから、提案したセッションを成功させるためだけの理由で著名人に古い話をさせるのはやめてほしい。
一日券と全日券しか区別が無いのに不合理を感じる。1 週間の会議に興味あるセクションが割り振られ、東京以外の人には、極めて不便である。2 回往復するにはお金がかかる。なんとか各学会の講演を前半、後半等にまとめて欲しい。特に、小生のような年金生活者には厳しい問題である。
英語のセッションが増えてきましたが、大変良いことだと思います。AGU, EGU と対抗して世界の 3 大地球科学セッションとなるべく、アジアの人を集める工夫が最も緊急の課題です。西欧諸国との対応をしたい研究者の希望はわかりますが、日本の地球科学の発展を考えた場合、アジアを先導することが最大の課題でしょう。早くやらないと、確実に中国が金と人に任せて、同じようなものを開催して来るでしょうから、言語も含めて、早急に検討すべき課題でしょう。

過去 10 年以上に参加しているが、今年の会場環境は過去最悪である。プログラム委員会から会員宛に、原因を究明し、責任の所在と再発防止策を表明すべきである。
会期が長い上に、終了時刻も遅く疲れました。特に終了時刻が遅いのは、保育園や小学校(学童)のお迎えなどに影響があり、改善してほしいと思います。
会場で無線 LAN が使えると良かった。(休憩エリア等の一部でも良いので)
会場について、幕張以外の立地も含めて、見直していただきたいです。都内から離れていて、見たいセッションがあっても時間的に行けないことが多く、非常に残念です。次回以降、都内も含めて検討お願い致します。
会場の場所(幕張)はもう根本的に見直す時期だと思う。東京圏に適当な会場(大きさ・価格)が無ければ、地方での開催も考えるべき。場合によっては参加費を AGU なみにしても構わないだろう。
会場は幕張がよい。ただ、メッセの国際会議場は、セッション会場が少ないので、増設等、工夫が必要。
会費が高い。1 日しか来られない人間もいるのだから、1 日用の入場料金を下げてほしい。幕張メッセの会場代が高いなら、他会場も検討してはどうか。
会費滞納(カードの取り扱いが変更されていたので大目に見ていただきたいところ)でも、当日支払えば会員として参加区分を扱っていただける柔軟性に感謝申し上げます。
開始時刻が早すぎ、終了時刻が遅すぎる。その割には昼休みが長すぎる。
学生優秀発表賞制度は口頭発表のみにした方がいい。ポスター発表は分野が違うとなかなか採点できないし、採点者に負担がかかりすぎる。もし、ポスター発表も、ということであれば、3 分概要説明を必須にすべき。
関東地域ばかりで開催するのはやめるべきだ。
規模が大きくなりすぎているような気がします。拡大ばかり目指さないほうが良いのではないですか。
携帯電話用アプリケーションは非常に使い勝手が良かった。
講演会場が狭い場合がけっこうあった。今回の口頭発表セッションの集客状況は把握されているのでしょうか?
講演会場やポスター会場でも(少なくともポスター会場は)、無線LANが使えるようにして欲しいです。全く使えませんでした。
講演時間の厳守をアナウンスしていただきたい。とくに3鈴が鳴っても講演を続ける人には、その時点で打ち切りなどの措置を取ってもよいと思う。
講演変更等の情報掲示を、各講演会場の入口ドアにコンビーナが貼れるようにしてほしい。
高価な会場で、一斉に行うには時間、経費、アクセスで大変無駄が多い。直接学会に関係のない無駄は可能な限り省いて、派手な大会にならないようにすること。たとえば以前よくあった大学(私立、公立)を利用する。
高校生や教職員が参加しやすい土日を含めた日程とし、土日に教育・アウトリーチ・ジオパーク・社会地質のセッションを組んでもらいたい。また、ニュースにも取り上げられたような地球科学的現象についての緊急セッションも高校生が参加できる日に実施すべき。大学のブースは何をアピールしたいのかわからないものが多い。場所が狭いのだから小分けせず、大きな目の大学宣伝ブースを作れば良い。マッキントッシュでのトラブルが大変多かった。時間が限られていることから、事前に対策を。
国際セッションの位置づけが中途半端だと思います。ほとんど外国人がいないのに英語でやるのでは、発表する側のモチベーションが上がリません。国際セッションを1日に集め、その日はすべて英語にする等の工夫があってもいいのではないのでしょうか。
国際セッションは、最低 XX%外国人が発表するなどの制約があった方がよい。日本人ばかりで、英語で発表しているのは、いかなものかという気がします。

国際的なプレゼンスを高めていくことが重要であると思う。惑星分野における LPSC や地球科学における AGU meeting のような大きな枠組みを目指すことが重要で、そのためには英語セッションをなるべく増やすと共に、セッション全体でレフェリー制を導入し、学会の質を高めていくことが重要ではないだろうか。
今回のモバイルアプリは良いと思います。ただ会場の無線 LAN がほとんど繋がっていなかったようで、自分の携帯電話回線が繋がっていました。無線 LAN の AP を強化してほしいです。また、講演数全体が多すぎると思うので、1 人あたりの講演数を制限するなどしたほうが良いと思います。これ以上巨大化すると参加するのも大変です。
今回は 1 日が長く感じられた大会だった。大会自体はこれからもっと大きく発展してほしいが、今のやり方でこれ以上発展するのはもう限界だと思う。AGU はもっと大きい大会だが、その点うまくやっていると思う。来年会場が変わることを機会に、ぜひ運営方針も見直してほしい。名札の所属と名前をもっと大きく印刷した方が、初めて会う研究者を判別しやすくて良いと思う。
今年初めて連合大会の iPhone アプリを利用したが、極めて便利だった。来年度以降も利用したい。
参加費 1 日が 6000 円は高すぎると思う。せいぜい 3000 円にして、2 日で 6000 円という選択などでもできるようにするべきではないか。
参加費があまりに高すぎる。国際学会などに合わせる必要はない。
参加費が異常に高い。何故あんなに高額なのか意味がわからない。もっと安いところを借りてやるべきだ
参加費が高い。受付が暇そうだったり、配布物が大量に余ったり、無駄もあるように思う。
参加費が収入のない学生には負担だった。もう少し安くなることを祈ります。
参加費用が高い。
事前参加申し込み期限が過ぎた後、会議当日まで、JPGU 会員サイトへのアクセスができなかったのは不便であった。
時間も途中で今回自分で気付いたのですが、自分の研究は他に同類の例が無くそろそろ自分の研究もポスターながらもマスコミ等に向けて衆知してポスターを見にきてもらえば、面白い記事が書けるのではないかと思い付き、受付にポスターをコピーした冊子を預けました。受付の方にはお手数をかけました。お陰様で 1 社渡すことができました。果たして記事化等の連絡は来ておりませんが、なにかプレス向けに各自希望者がアピールするコーナーがあってもよいかもと思いついた次第です。
次の G.W.に開催するのはやめてもらいたい
次のように、ゴールデンウィークにかかるような、交通費が高く(宿泊費も?)移動しづらい時期は避けて欲しい。地方からの参加者のことを全く考えていない
次の大会は会場が異なるということなので、できるだけ早い時期に会場・ブースの地図を公開してもらいたい。大会専用アプリがなかなか面白かったので、次回も是非用意してもらいたい(ノートも活用させてもらった)。
写真・録音・録画撮影不可の通知があったが、メモ代わりにすら撮影できないのはおかしい。プレスは別として、発表者の許可無く公開は禁ずるとしておけばよい。あるいは、公開されたくない内容なら(そもそも、公開されたくないならこういう場で発表する方がおかしいが)、スライドか発表時に講演者がその旨を伝えればよい。おかげで講演内容を十分に記録できず、非常に不満の残る大会となった。
写真撮影・録音禁止を徹底すべきである。 固体分野の学生賞審査員の選定基準に非常にあいまいである。分野ごとに選ぶ年もあれば、座長に頼む年もある。連合大会における学生賞の質の低下につながるため、ガイドラインが必要。また、学生の発表者側も、エントリーを明示していない例が目立った。

主催者の方は大会を大きくしたいのかもしれないですが、会期が長くなるため、授業などを持っていると地方から2往復する旅費を工面しないといけないとか、興味のあるセッションがあっても開催日が離れていれば断念せざるを得ないなどの問題があります。他の研究者の方とお話ししたくても「すれ違い」になってしまう事も多くなってきました。高校生の発表は良い試みと思いますが、偉い先生のレクチャーなどはどこか別の機会にさせていただいて、もっとコンパクトに研究者同士が交流できるように計画していただけるとありがたいと思います。AGUの真似をしたいのかな？
首都圏在住のため自宅から通い聴講しましたが、育児中のため、夕方以降(17:00以降)の講演・ポスターセッションを見ることができず残念でした。託児サービスも、子供が幼いと(3歳未満)1日だけ新しい環境に置くのも子供に余計なストレスを与えろと思い利用しませんでした。もう少し終了時間が早いとありがたいです。
受付バイト君の質が低い。受付に立たせるなら最低限の対処方法程度は教え込んで欲しい。 例 1)受付で質問すると「僕アルバイトだからわからない。事務局員に聞いて」事務局員がいる場所を尋ねると「わからない」 例 2)最初の手続時に、事前配付資料と違う手順を最初に案内する。資料記載の物を出すと「もういない」
受付はスムーズになっており、良かったと思います。来年の大会を、横浜に変更し、更にゴールデンウィーク中、EGUに重なる時期に開催するに至った経緯を、会員に向けて説明して欲しいです。ゴールデンウィーク中の開催になることによって、地方参加者にとっては、宿の確保が大変だけでなく、飛行機や宿の値段も高く、非常に負担が大きいです。
初めて参加しました。講演会や発表だけでなく、ブースもあったり、盛りだくさんでとても楽しかったです。
招待講演者のコマ数が、セッションエントリー確定後に決まるというのは、実質的な招待となっていないですね。希望コマ数をまずは確保し、エントリーが少ない場合に、その数に応じてコマ数を削っていくというような調整までできないのでしょうか。
神奈川県内から来るので、9時の開演に間に合わせるにはかなり早く出なければならない。交通費も馬鹿にならない。都内に会場を変えることは出来ないのだろうか。また、今後の課題であるが、子供向けのプログラムを交えて将来の地学研究者を発掘することも検討されては如何。
大きすぎてよく分からない。運営されている方は大変だと思うが、分野としては大きな意義があると思う。業者が多いのは良い。
大会が一部のみなさまのボランティア精神で支えられているのを強く感じます。プログラム委員でしたが(ヒラの委員はほとんど仕事ありません)、コンビーナからの要望の調整に関してプログラム委員長のご負担は相当なものであったと思います。大会運営に関わられたみなさまも、様々な新たなチャレンジや工夫があり、大変良い大会になったと思います。お疲れさまでした／どうもありがとうございました。
大会の参加費は高い、今の半分位にしてほしい。個人参加者のために、料金を値下げして、経費節減に努めてほしい。学会は儲けるべきではない。
大会の事を一般の方にもPRしたら。例えば電車や地下鉄、駅での広告等。
大会運営委員会の工夫や改善(の跡)がみられ、大会は年ごとに良くなってきているように思います。ただ、参加者数が増大しても、期間、会場の規模が限られる現状について、見直しの時期に来ているのではないのでしょうか。
地球科学者の社会的責任というプログラムの内容が良く、将来を担う若い人材に聞かせてあげたいと感じた。高校生セッションを最終日に振り替えてみたらどうだろうか。
昼食時間が遅い。12時から昼食にしてほしい。ポスター終了は6時半ぐらいにしてほしい
展示ブースが多すぎて2階の交通がマヒしていた。そんなにお金が必要ですか？
東京、神奈川の研究機関の場合、100km圏内で幕張付近に泊れないのが非常に不便。9時開始に間に合わせるのに、7時に家をでて、19:30終了で家に帰ると22時を過ぎていた。これを3日繰り返して、非常につらかった。4日は体力的に無理。
特定の分野が多く集まっていたりして、自分自身が見たいと思える講演が少なかった。偏りが少なくなるようにセッションの整理及び募集セッションの選定をきちんとしてもらえるとありがたいと思う。
日程は他の学会と重ならない方がよい。(来年はEGUと同じ)毎年ほぼ同じ日程にしてみらうとありがたい。

日曜日に開催されましたが、月～金の範囲内で留めることは不可能なのでしょうか？
年々参加費が上がっていく気がしますが、学生の参加費は半額などでは無く、さらに相当安くするなど、配慮が必要だと思います。
年配・中堅の研究者のトーク、最先端の研究の進捗などはとても刺激になるし、勉強になる。しかし気になるのが、後進の状況。元気なポスドク、院生が少なくなったように感じる。私は30代後半の地方国立大の准教授だが、私が若いころはポスター、オール含めて院生やポスドクの発表の割合がもっと高かったと思う。高校生セッションなどは地学への興味を掘り起こすいいセッションだと思う。それ以外にもっと学生や院生が発表できるような、発表しなくなるような設定も必要かと。学会は偉い先生の偉い発表の場でもあるが、研究者の卵たちのデビューの場、修行の場でもあると思う。昔の連合はそういう雰囲気があったと思うのだが。なんだか「立派」になりすぎたのでは。
発表者名で検索できない(あるいはその方法が直ぐに分からない)のは改善して欲しい。
発表数が増えるならば、良い研究以外をバツサリとポスターに回すのも致し方無いと思います。ただし、連合大会ならではの「真に」分野横断的な発表を尊重して欲しいと思います。(形式だけ分野横断なのはダメです)アプリは評判がいまいちですが、私は大変便利に使いました。来年からも続けて下さい。本のブースでカード支払いができないのは大変不便でした。
毎年の事務局の努力には頭がさがります。プログラムなども毎年のように改良が加えられ、大規模な学会ではありますが、年々快適になってきていると感じています。今後ともよろしくお願いします。
幕張で続けてください(横浜は会場近くのホテルが高い気がします)
幕張は都心から遠いので、たとえば都心の会場で開催することを希望いたします。
幕張を離れて、パシフィコ横浜で開催するのはいいことです。後者の方が会場設備や交通の便がいいと思うので。
名札が 前年と全く同じデザインでしたが、... そういう人はいないとは思いますが、流用を防ぐためにも一部分だけでも変更したほうがよいのでは？
予稿には図表データも示されるとよい。 また、発表者は本人の関係文献を記載してほしい。
要旨を投稿する際の画面について、投稿時のエラーの表示が、オレンジ背景で赤文字での指摘なので、非常にわかりにくいので、改良してほしい。
来年はパシフィコ横浜開催と聞きました。自動車技術会で利用したことがあります、どちらもどっちの感があります。
来年も横浜でなく幕張メッセで行うべき。
来年も期待です。
連合大会HPが複雑で、プログラムのページを見つけるまで時間がかかっていましたが、2013年大会のページでは改善されており、スムーズに閲覧できました。PCの切替器はあった方がよいと思いました。
連合大会の会場は基本的に、今後も今年度と同様に幕張メッセで行うことが良いと考えます。今まで非常に利用しやすかったです。
連合大会を、集まるお祭りではなく実質的に意義あるものにするためには、口頭講演の充実は当然必要。各講演の発表時間は十分に確保すべきである。一方で、開催期間や会場数にも制約があるはず。これらの要求や条件を満たすには、ポスター講演を有効活用することが取るべき道であると考える。
連合大会を盛り上げるためには、大規模な大会を開催できる会場が必要だと思いますが、日本にはそのような会場あるのか、不安になりました。案のひとつにあった「幕張メッセ+近隣のホテル」は不便だと思います。

JpGU2013 来場者アンケート(英語) 有効回答数 460

【General Questions.】

Q1. 【必須】 Please specify your role in this meeting. (複数回答可) 有効回答数 80

回答	票数	%	
Oral Presenter	49	61%	
Poster Presenter	18	23%	
Convener	4	5%	
Chair	3	4%	
Other	6	8%	

Q2. 【必須】 How many days did you attend ? 有効回答数 73

回答	票数	%	
One day	17	23%	
Two days	10	14%	
Three days	16	22%	
Four days	14	19%	
Five days	14	19%	
Six days	2	3%	

Q3. 【必須】 The 2013 meeting is the largest ever, with 180 sessions. In future the number of both lectures and fields covered may be increased further. Do you think that:

有効回答数 73

回答	票数	%	
The number of sessions and fields covered should be increased to provide improved coverage.	30	41%	
The current number is about right.	33	45%	
Coverage should be reduced to improve focus on key fields.	10	14%	

【Please tell us what you think about the daily timetable.】

Q4. 【必須】 What do you think about the fact that sessions start at 9:00 am? 有効回答数 73

回答	票数	%	
This is too early	6	8%	
It's fine	63	86%	
It's too late	4	5%	

Q5. 【必須】 What do you think about the fact that oral sessions end at 18:00 ? 有効回答数 73

回答	票数	%	
This is too early	0	0%	
It's fine	54	74%	
It's too late	19	26%	

Q6. 【必須】 What do you think about the fact that poster core time ends at 19:30 ? 有効回答数 73

回答	票数	%	
This is too early	3	4%	
It's fine	28	38%	
It's too late	42	58%	

Q7. 【必須】 What do you think about the fact that the period of a oral presentation is 15 minutes ?

有効回答数 73

回答	票数	%	
This is too short and should be extended	11	15%	
It's fine	58	77%	
It's too long and should be reduced	0	0%	
Conveners should be allowed to decide the length of their presentations.	6	8%	

Q8. What do you think about the fact that the period of oral session is 105 minutes ?

有効回答数 73

回答	票数	%	
This is too short	3	4%	
It's fine	62	85%	
It's too long	8	11%	

【Please tell what you think about poster sessions.】

Q9. 【必須】 What do you think about length of core time ? 有効回答数 73

回答	票数	%	
It is too short	10	14%	
It's fine	60	82%	
It's too long	3	4%	

Q10. 【必須】 Should poster sessions be allowed to cover more than one core time period (this was allowed in 2012 but not in 2013)? 有効回答数 73

回答	票数	%	
Multiple core time sessions should be allowed	41	56%	
Only single core time sessions should be allowed	32	44%	

Q11. 【必須】 What do you think about the length of time that posters are displayed? 有効回答数 73

回答	票数	%	
It is too short	12	16%	
It's fine	57	78%	
It's too long	4	5%	

Q12. 【For poster presenters only】 Did you make a 3 minute oral presentation ? 有効回答数 24

回答	票数	%	
Yes	10	42%	
No	14	58%	

Q13. 【For poster presenters who made an oral presentation】 Would you like to make a 3 minute oral presentation at future meetings?

有効回答数 21

回答	票数	%	
Yes	14	67%	
No	1	5%	
Not sure	6	29%	

Q14. What do you think about 3minutes' presentation ?→別紙

Q15. 【For poster presenters who have NOT made an oral presentation】 Please tell us the reason why you did not make a 3 minute oral presentation→別紙

Q16. What do you think about the system of 3 minute oral presentations ? 有効回答数 27

回答	票数	%	
I would like to make a presentation next year.	13	48%	
Although I do not want to make a presentation, the option to do so should be allowed.	10	37%	
These presentations are unnecessary.	4	15%	

Q17. 【For those who have not made a poster presentation.】 What do you think about the system of 3 minute oral presentations ?→別紙

Q18. What do you think about the system of 3 minute oral presentations ? 有効回答数 36

回答	票数	%	
They should be allowed provided they do not take time from other meeting activities.	12	33%	
The should be allowed reagrdless.	13	36%	
These presentations are unnecessary.	7	19%	
I have no strong opinion.	4	11%	

【Please tell us about poster presentation rooms.】
About the layout of the poster presentation rooms

Q19. 【必須】 The spacing between posters was 有効回答数 73

回答	票数	%	
Too wide	0	0%	
OK	62	85%	
Too narrow	11	15%	

Q20. 【必須】 The spacing between boards was 有効回答数 73

回答	票数	%	
Too wide	1	1%	
OK	62	85%	
Too narrow	10	14%	

Q21. If space is limited, which do you think more important, the spacing between posters or that between boards ? 有効回答数 73

回答	票数	%	
The spacing between posters	34	47%	
The spacing between boards	39	53%	

Q22. Please let us know here if you have any other comments about poster presentations.→別紙

【Please tell us about the lecture rooms used for oral presentations.】

About the layout of the poster presentation rooms

Q23. 【必須】 The lecture rooms were 有効回答数 73

回答	票数	%	
Large enough	56	77%	
Too small or cramped	17	23%	

Q24. 【必須】 Guidance to the lecture rooms was 有効回答数 73

回答	票数	%	
Adequate	66	90%	
Insufficient	7	10%	

Q25. Is there anything that we should do to improve the quality of the lecture rooms?→別紙

Q26. Please tell us your opinion about poster presentation and poster presentation room freely, if any.→別紙

【Please tell us your opinion on the following events.】

Please indicate your opinion on following events using the scale below:

" A: This event should be continued next year and beyond

B: This event should be revised.

C: This event doesn't work well

D: I have no opinion on this event.

E: I was not aware of this event. "

Q27. 【必須】 1) Special Lecture 有効回答数 73

回答	票数	%	
A	43	59%	
B	3	4%	
C	1	1%	
D	18	25%	
E	8	11%	

Q28. 【必須】 2) Seminar on Recent Advances in Earth and Planetary Science 有効回答数 73

回答	票数	%	
A	47	64%	
B	3	4%	
C	0	0%	
D	14	19%	
E	9	12%	

Q29. 【必須】 The Expolatory meeting on Career Paths and the Career Consultation Booths

有効回答数 73

回答	票数	%	
A	33	45%	
B	2	3%	
C	0	0%	
D	25	34%	
E	13	18%	

Q30. Please let us know here if you have any other comments about the events detailed in the question above.→別紙

Q31. Please tell us if there are any other events which you would like the JpGU to host at its annual meeting.→別紙

Q32. Please tell us if there are any other services which you would like the JpGU to provide at its annual meeting.→別紙

Q33. Please tell us your opinion of the hand-outs, programs, and other printed material that we supplied.→別紙

Q34. Could you please let us know of any areas that we should improve in order to make things easier for non Japanese speakers?→別紙

Q35. Do you have any other opinions, requests, proposals or comments (both positive and negative)about JpGU meetings in general?→別紙

Q14. What do you think about 3minutes' presentation ?
Actually it is too short to illustrate.
It is essential and time is OK.
it is fine, it is a good way to introduce the post presentation.
it is very good to guide the poster
IT is wise way for presenter to express the core of the presentation
Its enough to orient everybody about the poster.
Should be extended to 4-5 min
The time of poster presentation is 3 minutes is enough and it is good idea. It is my first participation in JpGU meeting. Maybe it is the first time to lunch this 3 minutes oral talk about poster. I appreciate this idea.
They are fine.
This afford a change to present the basic content of poster.
very important because it attract those who did not have the time to read your abstract to find you and discuss with you.

Q15.【For poster presenters who have NOT made an oral presentation】Please tell us the reason why you did not make a 3 minute oral presentation
Couldn't come
I donot know this form before
I thought it was not necessary.
It is too short to illustrate and the effect is not obvious.
Mr Tanaka gave presentation for us in japanese language.
Mr Yamato Tanaka gave presentation on behalf of usin japanese language.
Some poster presenters shied their language skills.

Q17.【For those who have not made a poster presentation.】 What do you think about the system of 3 minute oral presentations ?
Excellent idea, but time consuming.
I believe it is a great idea as it contributes to poster session advertisement.
I like it!
I think it is of great importance and very necessary. It spends a little but cause much more effect of communication and understanding. And it is a good way to introducing us who are presented as young researchers.
I think no need. The poster participant should be available when necessary and explain to whom is interested in his/her research.
I think this is a great idea as it provides a "teaser" to posters which some attendees may overlook in such a huge conference.
I thought this was helpful.
It is really nice to introduce one's poster through the 3-min talk.
N/A
needs some extetion
Not really necessary
Poster presentation should be kept as poster presentation / discussion in front of the poster a the core time.
Sufficient time should be given at posters
The presentations is a good idea to demonstrate the posters to everyone, but the time is too short.
This was a good idea and drew my attention to several interesting studies.
very effective!

Q22. Please let us know here if you have any other comments about poster presentations.

. Horizontal poster boards would be preferable.

If possible, poster should be up longer (but I realise, space is a limitation)

If possible, one could think about poster being on a plasma screen instead of on paper...this would allow to develop mini presentations...we tried that at EGU with a few plasma screens. I'm not sure if this is still done but Copernicus (the organiser of EGU) could be contacted.

It is good to keep more space between board.

landscape posters are much more convenient

NIL

Poster presentation core time would be better to be put on the break between sessions, not at the end of oral session.

Presenters should use more English.

should have AM and PM core times, like AGU or Goldschmidt; some people may prefer going to poster sessions than oral sessions at times. presentors should be present on the specified core times, just like in oral sessions

The poster session was too crowded.

Q25. Is there anything that we should do to improve the quality of the lecture rooms?

- provide DVI and HDMI connection cables for projector (in addition to VGA)
- provide WLAN in lecture rooms
- aircon was off on first day

- too packed
- bad air/ventilation
- more space between seats

according to different subject area room space is not enough. By the experience of previous conferences it is better to choose appropriate rooms.

Better air-conditioning.

I attended the Paleoclimate sessions, and every year, the first few sessions are always crowded and it is not easy to see the screen unless you sit right near the front, or stand on the side or at the back of the room.

IF Free Wifi are available, enough space for rest and plan for different session it will be great , But anyway you provided a reasonable price for supporting us students. Thank you very much!

Microphone can be arranged every room.

Microphone can be arranged.

microphonews,air conditioning

NIL

some lecture rooms were suffocating because of cigarette smell, e.g. 101A and 101B... a lot of people noticed and complained for the new venue, this should be checked carefully also, the angle of lighting sometimes distract audience

Sometimes oral presenter are known famous professor expert in the field and their presentation are usually crowded, no where to sit. I hope next time those oral presentation are affected to wide conference rooms.

The student on duty must understand the language of presentations (in the case of our Session, English)

Q26. Please tell us your opinion about poster presentation and poster presentation room freely, if any.

A lot of interesting posters I could not understand because they were in Japanese. International language of science is "bad English". Let us encourage its use and posters are the easiest place for this.

Its ok but space between the board can be widen.

More places to sit at the side of the poster presentation room.

NIL

Spacing between posters van be increased.

There was not enough beer and coffee available.

Q30. Please let us know here if you have any other comments about the events detailed in the question above.

I realise that JPGU does a great effort to increase the international sessions. It would would be good to increase the number to attract more international attendance

make sure not conflict with the times between interested sessions.

NIL

No comments

No comments.

Oral presentations would be good in English. For those who cannot speak English, the ppt would be good in English since international participants speak basically English. Same could be applied to posters.
Every year, a volume of abstracts could be compiled and made available online.

Q31. Please tell us if there are any other events which you would like the JpGU to host at its annual meeting.

Field trips to geoscientific sites

Model show

More English language presentations/posters/lectures.

more human geography and urban geography panels

More number about international sessions or international special sessions.

No comments

Some cultural program

Q32. Please tell us if there are any other services which you would like the JpGU to provide at its annual meeting.
free coffee during morning and afternoon breaks and free beer during evening poster sessions, similar to AGU and EGU meetings. Also, would be nice to have free water in the meeting rooms.
Canteen with wide space to sit.
Coffee break = coffee+tea
Coffee.
drinking water should be provided during coffee break times
Free coffee and/or drinking water stands.
I propose to committee of JpGU who participant as speaker (poster and oral) give a certificate.
it is better to increase the number of stalls for books and other scientific materials.
More beer and coffee available at clearly announced times in obvious places. Less reliance on vending machines for drinks and snacks. Better information in English about sessions, even those not held in English. More sessions held in English.
More sessions in english
NIL
Oral presentations would be good in English. For those who cannot speak English, the ppt would be good in English since international participants speak basically English. Same could be applied to posters. Every year, a volume of abstracts could be compiled and made available online.
Prayer space and Halal food arrangement for the Muslims.
reliable, fast WLAN in the whole building – WLAN coverage was very poor!
Small cafeteria with sitting arrangements.

Q33. Please tell us your opinion of the hand-outs, programs, and other printed material that we supplied.
All is OK
Good.But there are no sufficient schedule paper for thursday.
I propose to committe of JpGU to make abstract for each speakers.
I think the big newspaper-like program is unecessary and should be replaced by convenient book-even if more expensive, it should be calculated and added to registration fee. It is useful also to provide a CD containing abstracts, to know well speakers and find easily their contacts
Insufficient
Its ok
Its ok.
Memory stick with program in English is a good idea
My host supplied me with an English language program. I never saw them available otherwise. Although the daily handouts were useful, I could not read most of the session and talk titles.
Oral and Poster titles of programme's news papers were in Japanese, thus, difficult to understand.
Printed session is not enough, I arrived at noon time to join the afternoon session but the daily session program had been out of service , So I cannot get the daily program on that day but I saw many program before that , why did not you provide the programmed as the same way in 2010, Everyone has a hand book for scientific program so you can provide enough program without wasting.
program should be in both languages, even if the session is in japanese. I did not know Hiroshi Tanaka was speaking before I accidentally bumped into him and it was too late – we did not have time to talk.
Really good.
the amount of printed daily programs may be reduced because a lot of people now use phone applications and internet.
The booklet of the presentations in English was useful to me. The daily newspapers with the days presentations were a bit cumbersome and noisy when folding (in quiet lecture rooms).
They were fine enough.
Very good
Very helpful.
You should at least provide some kind of bag souvenir from the event

Q34. Could you please let us know of any areas that we should improve in order to make things easier for non Japanese speakers?
A board can be fixed outside to mark.
All Oral talks should be in English. Discussions both E/J. Poster title and abstract should be on both E/J. Chair should chair in E.
All the display stalls should keep English speaking persons. More english sessions.
As an English speaker, I found the accommodations to be great. Everything was very clear and easy to understand.
Better information in English about sessions, even those not held in English. More sessions held in English. Note that the button at the end of this email, which probably says "submit", is in Japanese!
For non-Japanese speakers, no better that to make english the language of most session, especially important and those of broad interest to public.
It is an international conference, so you need to have more English sessions rather than Japanese sessions. For non Japanese speakers we do not have enough English sessions. Also special lectures should be proceeded in English.
More English language presentations/posters/lectures. At LEAST topics that are larger than national borders (e.g., the Arctic) should be presented only at International Sessions.
More international session or at least invited speaker with english presentation at the beginning of the session
More international sessions in English to justify travel.
More international sessions.
NIL
No comments.
Oral presentations would be good in English. For those who cannot speak English, the ppt would be good in English since international participants speak basically English. Same could be applied to posters. Every year, a volume of abstracts could be compiled and made available online.
see above
Send the non Japanese speakers only the english information or websites...
Thanks for better English support each year. However I still think more english support is needed. for example, with the increase of International session, more international people are coming. so maybe it will be good if the japanese session are supported to use english slide (for oral presentation) and english poster.
the geochemistry or other sessions of broad interest should at least have one portion in International Session format. This year it was a big session lasting the whole day but all in Japanese. if the language is Japanese, at least make the slides in English...

Q35. Do you have any other opinions, requests, proposals or comments (both positive and negative)about JpGU meetings in general?
Besides the International Sessions, the JPGU should also become a training ground for young Japanese students and professionals to communicate in English by listening and speaking. The session on Ocean Drilling Science should have been also an International Session because of its theme. However, it was disappointing that it was almost all in Japanese. The same is true for the Frontier Science session.
Enjoyed it greatly. Will consider attending again.
I am international student. It is my first time participation in JpGU meeting. I am curious the name of meeting why not conference? More than 90 percent speaker given their talk in Japanese, I could not understand their speech. Is it possible to make presentation slide in English and talk in Japanese for Japanese speaker from next year? In this questionnaire/survey after completing the form I do not understand where will I click to submit, because it is in Japanese. If it was in English it was good for me.
I deeply regret that EGU an JpGU did not coordinate the days of their 2014 Assembly/Meeting. The dates overlap...
I hope organizer can provided laptop to be used by oral presenter in case the presenter laptop cannot be detect by the projector.
I really like JpGU – nice location, good time of the year, quiet location, convenient connection to the airport. More needs to be done for non-japanese participants to make it more attractive.
I think it is a great event. Usually, visitors from outside the community will not stay for the entire period and combine it with research vitits at Japanese institutes but this may change if more or all lectures are given in english (as is the case at EGU)
I think JpGU meeting should shift to English language as all international meeting. I understand that it will be difficult for some Japaneses to speak in English but I am sure they can make efforts and it will be nice experience for them.
It was a good experience for me. My attendance this year was covered by Japanese funding sources, but I can imagine coming back every through years at my own expense.
Jo comments
No comments.
Please have more oral sessions in English such as Remote sensing session.
prolong Luggage time, End up at 19:30 which the same time as poster ends, If you could prolong 15min so that I do not need to rush away from poster session during a comfortable conversation anymore.
reliable, fast WLAN in the whole building – WLAN coverage was very poor!
Tea/Coffee at the ends of the sessions should be served free of cost.
Use of individual's PC was really troublesome and time consuming as there was only one cord for projector. Either a common PC can be used, or another cord for the next presenter to be ready.

会場	定員	5月19日(日)				5月20日(月)				5月21日(火)				5月22日(水)				5月23日(木)				5月24日(金)			
		AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2
国際会議室	300	O-03 地球惑星トップセミナー 300	O-02 高校生発表セッション			O-05 日本のジオパーク 300	O-05 日本のジオパーク 300	O-05 日本のジオパーク 300		M-AG35 原発事故放射能の環境動態 80	M-AG35 原発事故放射能の環境動態 140	M-AG35 原発事故放射能の環境動態 100	S-CG60 地層処分 60	U-05 進むべき道(5):大型研究 60	U-05 進むべき道(5):大型研究 60	U-05 進むべき道(5):大型研究 80	U-04 JpGUジャーナル 50	U-01 NASA-JAXA Joint Project 80	U-01 NASA-JAXA Joint Project 60	U-01 NASA-JAXA Joint Project 45	U-01 NASA-JAXA Joint Project 55	U-06 地球科学者の社会的責任 149	U-06 地球科学者の社会的責任 210	U-06 地球科学者の社会的責任	U-06 地球科学者の社会的責任
			B-PT27 顕生代多様性変遷 38	O-04 イクメンプロジェクト 28	O-04 イクメンプロジェクト 30		H-CG33 堆積・侵食と地球表層環境 50	S-CG09 DCC 45	S-CG09 DCC 45	A-CG38 北極域 50	A-CG38 北極域 50	A-CG38 北極域 30	S-VC52 火山の熱水系 40	M-IS29 巨大地磁気誘導電流 50	M-IS29 巨大地磁気誘導電流 40	A-HW28 水・物質循環と陸上生態系 55	A-HW28 水・物質循環と陸上生態系 50	A-AS01 TC-ocean interaction 28	A-AS01 TC-ocean interaction 30	A-AS23 極端気象 40	A-AS23 極端気象 50	M-SD04 New science opened by EISCAT_3D radar 40	M-SD04 New science opened by EISCAT_3D radar 50	M-SD04 New science opened by EISCAT_3D radar 40	
101A	70																								
101B	70		M-IS31 結晶成長:界面・ナノ現象 25	M-IS27 光エネルギーを巡る進化 40	H-CG34 閉鎖系内の生物システム 25	P-CG32 太陽系年代学の新展開 50	P-CG32 太陽系年代学の新展開 50	P-EM08 Upper atmosphere imaging from space 50	P-EM08 Upper atmosphere imaging from space 50	S-CG64 断層帯の化学 36	H-GM03 Geomorphology 30	H-GM22 地形 70	H-GM22 地形 41	A-CC03 Changes in Northern Eurasia and Arctic 40	A-CC03 Changes in Northern Eurasia and Arctic 40	S-CG10 Continental crust and Project IBM 50	S-CG10 Continental crust and Project IBM 25	P-EM09 Lightning and TLEs 24	P-EM09 Lightning and TLEs 23	S-GL41 地域地質と構造発達史 31	H-DS07 G-EVER 19	A-CC32 雪氷学 30	A-CC32 雪氷学 40	A-CC32 雪氷学 40	
102A	70		M-ZZ41 地球惑星科学の科学論 30	M-ZZ41 地球惑星科学の科学論 60	B-PT26 古代ゲノム 50	S-MP44 鉱物の物理化学 40	S-MP44 鉱物の物理化学 40	H-TT09 GIS 30	H-TT09 GIS 25	H-TT30 地理情報システム 42	M-TT37(P) 地図・空間表現 36	M-TT39 ソーシャルメディア 51		A-HW27 都市域の地下水・環境地質 35	A-CG36 陸域・海洋相互作用:流域 30	S-CG61 岩石・鉱物・資源 70	S-CG61 岩石・鉱物・資源 40	A-HW29 水循環・水環境 45	A-HW29 水循環・水環境 50	H-SC04 IHDP 15	H-GG01 GLP 10	P-CG10 Instrumentation for space science 30	P-CG10 Instrumentation for space science 40		
102B	70		S-TT56 地震観測・処理システム 40	A-CG40 データ展覧会 40	A-CG40 データ展覧会 40	M-IS22 宇宙気候学 60	M-IS22 宇宙気候学 80	A-GE04 Mass Transport and Environ Assessment 37	A-GE04 Mass Transport and Environ Assessment 28	A-HW02 Asian monsoon 30	A-HW02 Asian monsoon 33	A-HW02 Asian monsoon 46	S-RD42 鉱液の実態解明 57	B-PT25 化学合成生態系の進化 30	B-BG21 海底下の大河 60	P-PS25 宇宙物質 75	P-PS25 宇宙物質 50	H-DS06 Landslides 55	H-DS06 Landslides 45	H-DS06 Landslides 40	B-BG22 サンゴ礁学 45	H-DS27 地質災害と前兆 60	H-DS27 地質災害と前兆 50	H-DS27 地質災害と前兆 30	
103	160	S-SS33 強震動・地震災害 70	S-SS33 強震動・地震災害 70	S-SS33 強震動・地震災害 70	S-SS33 強震動・地震災害 70	S-CG62 スロー地震 120	S-CG62 スロー地震 120	A-PE34 古気候・古海洋 80	A-PE34 古気候・古海洋 80	A-PE34 古気候・古海洋 77	A-PE34 古気候・古海洋 135	A-PE34 古気候・古海洋 139	A-PE34 古気候・古海洋 120	H-RE29 温暖化防止 45	H-RE29 温暖化防止 50	P-PS22 来たる10年の月惑星探査 80	P-PS22 来たる10年の月惑星探査 90		S-SS35 巨大地震の強震動津波予測 160	S-SS35 巨大地震の強震動津波予測 120	S-SS35 巨大地震の強震動津波予測 120	M-IS23 地球掘削科学 50	M-IS23 地球掘削科学 32	M-IS23 地球掘削科学 35	
104	160		S-VC48 活動的火山 100	S-VC48 活動的火山 120	S-VC48 活動的火山 120	S-VC48 活動的火山 60		S-TT59 HPCと固体地球科学の未来 70	S-TT59 HPCと固体地球科学の未来 40	S-IT05 Oceanic plate: origin to destruction 50	S-IT05 Oceanic plate: origin to destruction 60	S-IT05 Oceanic plate: origin to destruction 53	S-IT05 Oceanic plate: origin to destruction 70	S-IT06 Geofluids 90	S-IT06 Geofluids 100	S-IT06 Geofluids 90	S-CG63 流体と沈み込み帯 90	S-CG63 流体と沈み込み帯 90	S-CG63 流体と沈み込み帯 80		H-DS28 海底地すべり 70		M-ZZ42 PALEO研究の最前線 60	M-ZZ42 PALEO研究の最前線 60	
105	160	U-07 太陽系小天体研究の新展開 45	U-07 太陽系小天体研究の新展開 60	U-07 太陽系小天体研究の新展開 100	U-07 太陽系小天体研究の新展開 90	P-EM30 磁気圏 60	P-EM30 磁気圏 70	A-AS24 放射能汚染の科学-空・陸 82	A-AS24 放射能汚染の科学-空・陸 51	B-PO02 Proxies for Biogeosciences 30	B-PO02 Proxies for Biogeosciences 28	P-PS04 Mars 61	P-PS04 Mars 67	P-EM07 Inner Magnetosphere 60	P-EM07 Inner Magnetosphere 60	P-EM07 Inner Magnetosphere 50	P-EM07 Inner Magnetosphere 50	A-CC33 氷床・氷河コア 50	A-CC33 氷床・氷河コア 70	S-CG08 Off-arc volcanism 50	S-CG08 Off-arc volcanism 50	S-IT39 地球深部科学 80	S-IT39 地球深部科学 70	S-IT39 地球深部科学	
106	100	A-AS21 大気化学 60	A-AS21 大気化学 80	A-AS21 大気化学 70	A-AS21 大気化学 70	S-MP45 環境ナノ鉱物学 40	S-VC50 火山ダイナミクス・素過程 150	S-VC50 火山ダイナミクス・素過程 130	S-SS30 地震予知 80	S-CG07 Collision, Subduction and Metamorphism 36	S-CG07 Collision, Subduction and Metamorphism 27	M-IS32 ジオパーク 100	M-IS32 ジオパーク 90	S-MP46 水素中性子地球科学 35	S-MP46 水素中性子地球科学 43	S-CG67 海洋底地球科学 76	S-CG67 海洋底地球科学 70	S-CG67 隕石解剖学 55	P-PS24 隕石解剖学 70	P-PS24 隕石解剖学 75	P-PS24 隕石解剖学 75	M-IS25 津波堆積物 110	M-IS25 津波堆積物 130	M-IS25 津波堆積物 110	
201A	140	S-VC49 火山防災 82	S-CG65 応力と地殻ダイナミクス 60	S-GL40 年代学・同位体 60	S-GL40 年代学・同位体 50	S-GC54 固体地惑化 70	S-GC54 固体地惑化 50	S-GC54 固体地惑化 55	S-VC51 火山とテクトニクス 85	S-VC53 火山・火成活動と長期予測 70	S-VC53 火山・火成活動と長期予測 100	A-CG37 統合的な陸域・大気研究 60	A-CG37 統合的な陸域・大気研究 50	M-SD03 GEO Carbon 26	M-SD03 GEO Carbon 27	M-TT38 地球化学の最前線 55	M-TT38 地球化学の最前線 48	P-PS23 月の科学と探査 70	P-PS23 月の科学と探査 70	P-PS23 月の科学と探査 73	P-PS23 月の科学と探査 50	S-CG66 プレート収束帯の変形運動 80	S-CG66 プレート収束帯の変形運動 100	S-SS23 リアルタイム地震情報 80	
201B	140	S-EM36 地磁気・古地磁気 40	S-EM36 地磁気・古地磁気 50	S-IT04 Mineral physics, dynamics of deep Earth 45	S-IT04 Mineral physics, dynamics of deep Earth 45	U-02 Global Data Science-Global Data Ssystem 60	U-02 Global Data Science-Global Data Ssystem 60	U-02 Global Data Science-Global Data Ssystem 60	U-02 Global Data Science-Global Data Ssystem 60	S-SS02 Earthquake predictability 59	S-SS02 Earthquake predictability 74	P-PS01 Future outer solar system explorations 48	P-PS01 Future outer solar system explorations 54	S-SS27 地震活動 100	S-SS27 地震活動 80	S-EM37 地球内部電磁気 50	S-EM37 地球内部電磁気 30	H-QR24 ヒトー環境系 70	H-QR24 ヒトー環境系 70	H-QR24 ヒトー環境系 70	S-SS34 地殻変動 120	A-CG05 Tropical ocean-atmosphere interaction 40	A-CG05 Tropical ocean-atmosphere interaction 36	A-CG05 Tropical ocean-atmosphere interaction 40	
202	70	G-02 高校の地球惑星科学教育 45	G-01 小中学校の教育 35	H-GG02 Landscape appreciation 2	H-GG02 Landscape appreciation 20	G-04 アウトリーチ 32	G-04 アウトリーチ 50	P-PS03 Rotation of the Moon and Mars 30	P-PS03 Rotation of the Moon and Mars 17	S-IT03 Earth and Planetary Cores 45	S-IT03 Earth and Planetary Cores 55	S-IT03 Earth and Planetary Cores 50	B-PT28 人類進化と気候変動 50	M-IS26 ガスハイドレート 60	M-IS26 ガスハイドレート 46	A-HW30 水文地質と物質循環 51	A-HW30 水文地質と物質循環 49	P-EM26 太陽圏 32	P-EM26 太陽圏 39	M-IS01 Atmospheric Electricity 27	M-IS01 Atmospheric Electricity 28	H-QR23 平野地質 35	H-QR23 平野地質 40		
203	50		M-SD36 宇宙農業 28	A-OS25 海洋生態系モデリング 72	A-OS25 海洋生態系モデリング 27	P-PS02 Planetary processes 27	P-PS02 Planetary processes 25	P-PS02 Planetary processes 26		A-HW31 水分野のキャリアパス 23	A-HW31 水分野のキャリアパス 23	S-TT11 Exploration Geophysics 43	S-TT11 Exploration Geophysics 38	S-TT55 空中地球計測 40	S-MP47 メルトー延性一脆性岩体 35	H-GG21 資源・環境の利用・管理 30	H-GG21 資源・環境の利用・管理 30	M-IS33 海底マンガニ鉱床 33	H-DS05 Postsunami Restoration Sustainability 16	A-HW26 同位体水文学2013 60	A-HW26 同位体水文学2013 43	M-TT40 低周波が繋ぐ多圏融合物理 35	M-TT40 低周波が繋ぐ多圏融合物理 40		
301A	110		M-GI34 情報地球惑星科学 30	M-GI34 情報地球惑星科学 55	A-CG39 衛星による地球環境観測 40	A-CG39 衛星による地球環境観測 50	H-SC25 人間環境と災害リスク 60	H-SC25 人間環境と災害リスク 40		B-AO01 Astrobiology 70	B-AO01 Astrobiology 70	B-AO01 Astrobiology 100	B-AO01 Astrobiology 40	A-CG35 中部山岳地域の環境変動 35	A-CG35 中部山岳地域の環境変動 54	A-CG35 中部山岳地域の環境変動 26	M-IS21 地球流体力学 50	P-CG31 惑星大気圏・電磁圏 50	P-CG31 惑星大気圏・電磁圏 55	P-CG31 惑星大気圏・電磁圏 56	P-CG31 惑星大気圏・電磁圏 48	P-EM27 宇宙プラズマ 52	P-EM27 宇宙プラズマ 45	P-EM27 宇宙プラズマ 48	
301B	130			H-TT31 環境リモートセンシング 55	M-IS02 Global Data Science-Global Data Ssystem 38	A-AS22 成層圏過程と気候 40	A-AS22 成層圏過程と気候 40		H-DS26 津波とその即時予測 80	H-DS26 津波とその即時予測 90	M-IS30 地震・火山電磁気現象 70	M-IS30 地震・火山電磁気現象 70	S-TT57 合成開ローダー 60	S-TT57 合成開ローダー 60	S-GD22 重力・ジオイド 60	S-GD22 重力・ジオイド 40	S-GD21 測地学一般 90	S-GD21 測地学一般 65	H-TT32 同位体環境学の創出 47	H-TT32 同位体環境学の創出 70	B-PT24 地球生命史 50	B-PT23 地球史解読 70	B-PT23 地球史解読 60		
302	200		S-SS01 Slip to the Trench 130	S-SS01 Slip to the Trench 150		U-03 生命-水-鉱物-大気 35	U-03 生命-水-鉱物-大気 45	U-03 生命-水-鉱物-大気 60	U-03 生命-水-鉱物-大気 60	S-SS25 内陸地震 130	S-SS25 内陸地震 130	S-SS31 海溝型巨大地震 200	S-SS31 海溝型巨大地震 150	S-SS31 海溝型巨大地震 180	S-SS31 海溝型巨大地震 180	S-SS31 海溝型巨大地震 180	S-SS31 海溝型巨大地震 180	P-EM28 磁気圏-電離圏結合 55	P-EM28 磁気圏-電離圏結合 62	P-EM28 磁気圏-電離圏結合 46	M-IS24 生物地球化学 63	M-IS24 生物地球化学 40	M-IS24 生物地球化学 60	M-IS24 生物地球化学 40	
303	200	S-SS26 地殻構造 80	S-SS26 地殻構造 60	O-01 防災教育 90	O-01 防災教育 60	S-SS24 地震波伝播 120	S-SS24 地震波伝播 120	P-EM05 Space Weather 90	P-EM05 Space Weather 90	P-EM05 Space Weather 68	P-EM05 Space Weather 68	P-EM05 Space Weather 64	P-EM05 Space Weather 52	S-SS32 活断層と古地震 100	S-SS32 活断層と古地震 110	S-SS32 活断層と古地震 110	S-SS28 地震発生の物理・震源過程 100	S-SS28 地震発生の物理・震源過程 120	S-SS28 地震発生の物理・震源過程 80	S-CG68 島弧のジオダイナミクス 140	S-CG68 島弧のジオダイナミクス 120	S-MP43 変形岩と変成岩 70	S-MP43 変形岩と変成岩 60	S-MP43 変形岩と変成岩 60	
304	160		A-CG06 Continental-Oceanic Mutual Interaction 20	A-CG06 Continental-Oceanic Mutual Interaction 20	M-IS28 遠洋域の進化 31	P-PS21 惑星科学 81	P-PS21 惑星科学	P-PS21 惑星科学 68	P-PS21 惑星科学 116	P-PS21 惑星科学 56	P-EM06 MTI coupling 54	P-EM06 MTI coupling 70	P-EM06 MTI coupling 40	P-EM06 MTI coupling 45	P-EM06 MTI coupling 48	P-EM29 大気圏・電離圏 70	P-EM29 大気圏・電離圏 60	P-EM29 大気圏・電離圏 35	S-IT38 レオロジーと物質移動 70	S-IT38 レオロジーと物質移動 80	S-IT38 レオロジーと物質移動 65	S-SS29 断層レオロジーと地震発生 90	S-SS29 断層レオロジーと地震発生	S-SS29 断層レオロジーと地震発生 60	

別記

平成 25 年 6 月 21 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 会長 御中

共 催 ・ 協 賛 ・ 後 援 承 認 申 請 書

申請団体名：独立行政法人国立女性教育会館

申請者住所：埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

申請者名：内海 房子

行事名（英訳名）	女子中高生夏の学校2013～科学・技術者のたまごたちへ～ （英文公式名がある場合： ） 会議の種類：（ ☒ 国内会議 ☐ 国際会議 ）
開催日	平成25年8月8日（木）～平成25年8月10日（土）
開催場所、所在地	場所：独立行政法人国立女性教育会館 所在地：埼玉県比企郡嵐山町菅谷728 番地
申請の種類	☐ 共催 （企画又は運営に参画し共同で開催する） ☒ 協賛 （趣旨に賛同し、必要に応じて金銭的・人的支援をする） ☐ 後援 （趣旨に賛同し、必要に応じて人的支援をする） ☐ その他 （ ）
金銭・人的援助 の有無	有 （具体的に：ポスター展示講師の派遣、全国の中高生、教育関係者への広報）
行事趣旨	科学・技術者との対話、交流をととして、女子中高生が科学技術の分野 に自分の新しい可能性を見出す機会とする。
希望する共催・協賛 ・後援の名称	☒ 公益社団法人日本地球惑星科学連合 その他（ ）
連絡先 （受理通知等送付先）	〒355-0292 所在地： 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728 番地 団体名： 独立行政法人国立女性教育会館 担当者名：千装 将志 TEL：0493-62-6724-6725 FAX：0493-62-6720 E-mail： progdiv@nwec.jp
参加費等	（ ☒ 無料 ☐ 有料 ） 参加予定人数 150 人 会員 団体 円 個人 円 学生 円 非会員 団体 円 個人 円 学生 円
会議のホームページ	http://www.nwec.jp/jp/program/invite/2013/page02i.html